條但書ノ場合ニハ債主ニ其未納稅アル旨ヲ通告シ債主之ヲ辨納セサルトキニ公賣ヲ行フ儀ト心得ヘキ旨ヲ達セリ蓋シ右第一條但書ノ規定ニ依レハ怠納者ノ財產上ニ擔保權ヲ有スル債權者ニシテ其怠納額ヲ納付スルトキハ其財產ノ公賣ヲ行ハサル旨ヲ規定スルニ止マリ右財產ニ對スル公賣處分方ニ關シ不明ノ點アリシヲ以テナリ同年八月四日布告第二十五號ヲ以テ右不納處分規則中改正ヲ加ヘ酒類造石稅怠納ノ場合ニ於ケル處分方ヲ定ム

明治十年十一月第七十九號布告租稅未納處分規則第二條ノ但書ヲ削除シ同條ヘ左ノ一項ヲ追加ス

酒類造石稅モ前項ニ依テ處分ス

但酒類竝酒造用諸器物ハ自他ノ所有ヲ問ハス現品ノ一部又ハ全部ヲ公賣シテ徵收ス

右布告第二十五號ニ依レハ酒類造石稅怠納ノ場合ニ酒類及釀造用器物ハ他人ノ所有ト雖モ公賣スルコトヽ定メタルヲ以テ右公賣ノ際所有者ニ對スル關係ヲ明ニスルノ必要アリ同年八月四日太政官達第三十三號ヲ以テ其酒類及器械本人ノ所有ニアラサルトキハ所有主ニ通告シテ處分スルコト同年三月第十六號達ノ如ク取扱フヘキ旨ヲ達セリ

從來ノ規定ニ依レハ酒類造石稅怠納ノ場合ニ於テハ其製造ニ係ル酒類及製造用器械ヲ公賣スルヲ得ルニ止マリ酒造用建物ニ對シテ此權利ヲ行使セサルモノトナセシヲ以テ不便少カラス往々徵稅ノ目的ヲ達スル能ハサルコトアリ是ニ於テ明治十七年三月十四日布告第六號ヲ以テ明治十七年三月明治十年布告第七十九號第二條第二項ヲ改正シ建物ニ對スル公賣處分ヲ爲スコトヽセリ改正法文左ノ如シ

明治十年十一月第七十九號布告第二條第二項左ノ通改正ス

酒類造石稅ハ前項ニ依テ處分シ仍酒造用ノ諸建物ヲ公賣スルコトヲ得

但酒類竝酒造用諸器物建物ハ自他ノ所有ヲ問ハス其一部又ハ全部ヲ公賣シテ徵收ス

明治十七年四月二十六日大藏省達第二十六號ヲ以テ從前ノ制ニ依リ租稅未納者身代限處分濟追徵スヘキ金額ハ自今總テ之ヲ棄捐スル旨ヲ公布シタリ次テ明治十八年七月二十九日布告第二十號ヲ以テ不納處分規則ヲ改正シ營業稅、製造稅、酒類及醬油造石稅怠納者ニ對スル處分規定ヲ改定シ新ニ營業停止ノ制ヲ設ケタリ其法文左ノ如シ

明治十年十一月第七十九號布告第二條左ノ通改正ス

第二條　營業稅又ハ製造稅ヲ上納セサル時ハ其營業ヲ停止ス其製造品アル者ハ之ヲ公賣シ次ニ其器物ニ及ホスヘシ

酒類及醬油造石稅ハ前項ニ依テ處分シ仍ホ其製造用ノ諸建物ヲ公賣スルコトヲ得

但酒類醬油及其製造用諸器物建物ハ自他ノ所有ヲ問ハス其一部又ハ全部ヲ公賣シテ徵收ス

前述シタルカ如ク明治十年十一月布告第七十九號租稅不納處分規則ノ制定ニ依リ租稅怠納ノ處分ニ關スル制度稍ヽ備ハルニ至レリト雖モ右布告ハ要スルニ租稅ヲ賦課シタル財物ヲ公賣シテ租稅ヲ徵收スルコト竝ニ官損ヲ補塡セサル間ハ營業ヲ停止シ再ヒ許可セサルコトノ二點ニ於テ未タ完カラサル所アリ爲メニ納稅者ニシテ他ニ財產アルモ之ヲ公賣シテ稅金ヲ徵收スル能ハス且ツ納稅者ノ營業ヲ停止スルカ如キハ人民ニ生計ヲ失ハシムルモノニシテ當ヲ得タル規定ト云フ

可ラス加之ナラス漸次社會ノ進歩ニ伴ヒ從來ノ規定ヲ以テ之カ取締ヲ立ツルニ不便ナリシカ故ニ明治二十二年三月法律第九號ヲ以テ國稅徵收法ノ制定ニ伴ヒ同年十二月法律第三十二號ヲ以テ國稅滯納處分法ノ發布ヲ見ルニ至レリ玆ニ至テ國稅徵收法規ト共ニ其滯納處分ニ關スル法規ハ稍ゝ完全ヲ告ケタリ今其法律ノ全文ヲ揭クレハ左ノ如シ

國稅滯納處分法

第一條　國稅ノ滯納ニ係ルモノハ關稅ヲ除クノ外總テ此法律ニ依テ處分ス

第二條　國稅ヲ其納期限ヲ過キ完納セサル者アルトキハ收入官吏ヨリ督促令狀ヲ發スヘシ

督促令狀ヲ發スルトキハ手數料トシテ一通ニ付金參錢ヲ徵收スヘシ

第三條　滯納者督促令狀ヲ受クル日ヨリ五日以內ニ稅金ヲ完納セサルトキハ其所有財產ヲ差押ヘ賣却シテ之ヲ徵收スヘシ

第四條　滯納者ノ納稅義務ハ滯納處分濟ヲ以テ終ルモノトス

第五條　滯納者財產ノ價格處分費ヲ償フテ剩餘ヲ得ル見込ナキトキハ差押ヲ爲スコトヲ得ス

此場合ニ於テモ亦前條ニ同シ

第六條　滯納處分費滯納稅金ニ付テハ他ノ債主ニ對シ先取權アルモノトス但滯納シタル稅金ノ納期限ヨリ一箇年前ニ質入書入ト爲シタル財產ニ付テハ此限ニ在ラス

第七條　酒類醬油造石稅ニ付滯納處分ヲ爲ストキ其課額既ニ定マリタル稅金ハ未タ其納期ニ至ラサルモ滯納稅金ト併セテ之ヲ徵收スヘシ

第八條　滯納處分費ハ左ニ揭クル費目ニシテ督促令狀手數料ヲ除クノ外實際支辨スルモノヲ

云フ

第一　督促令狀手數料

第二　差押調書及賣却調書調製費

第三　滯納者又ハ其債主若クハ負債者ニ對スル通信費

第四　評價人、看守人又ハ競賣人ノ給料

第五　差押物件ノ運搬保管又ハ賣却ニ要スル諸費

第六　公告費

第七　訴訟ニ要スル諸費

第九條　滯納者ニ於テ賣却決行ノ前日マテニ處分費稅金ヲ完納スルトキハ其財產ノ差押ヲ解クヘシ

第三者ヨリ滯納者ノ爲メニ前項ノ金額ヲ代納シタルトキ亦同シ

第十條　滯納處分執行ニ關シ不服アリテ出訴スル者アルモ其處分ノ執行ヲ停止セス

第十一條　收入官吏ノ收入管轄地外ニ於テ滯納處分ヲ爲スコトヲ要スルトキハ收入官吏ヨリ其處分ヲ爲スヘキ地ノ收入官吏ニ之ヲ囑託スルコトヲ得但他ノ地方管內ニ係ルトキハ收入官吏ハ其所屬長官ヲ經テ囑託ノ手續ヲ爲スモノトス

第二章　差押

第十二條　財產差押ヲ爲ストキハ地方長官ヨリ差押命令書ヲ發シ收入官吏ヲシテ之ヲ執行セシムヘシ

第十三條　財產差押ヲ爲ストキハ處分費稅金ニ充ル金額ヲ目途トシ通貨ヲ先ニシ次ニ左ノ順序ニ從ヒ其物件ノ賣却代價ヲ見積リ逐次差押ヲ爲スヘシ但第一、第二、第三ノ物件ハ事宜ニ依リ順序ニ拘ハラス之ヲ差押フルコトヲ得又物件ノ分割スヘカラサルモノ及分割スレハ價値ヲ減スヘシト認ムルモノハ其全部ヲ差押フルコトヲ得

第一　地金銀公債證書株券手形其他ノ證券

第二　農業其他營業上ノ生產物製造物及賣品

第三　第一第二ニ揭ケサル動產及一月以內ニ收穫シ得ヘキ土地ノ生產物

第四　債主權

第五　不動產

第六　質入、書入ト爲シタル財產但質屋營業者ニ質入シタル動產ヲ除ク

第十四條　主タル物件ノ差押ハ其物件ヨリ生スル利益又ハ生產物ニモ其效力ヲ及ホスモノトス

第十五條　滯納處分著手以前ニ裁判執行ノ爲メニ滯納者ノ財產一部ヲ差押ヘラレタル場合ニ於テ其殘部ヲ差押フヘシ其賣却代價處分費稅金ニ對シ不足ナルヘシト認ムルトキハ該裁判所ニ照會シテ其不足金額ヲ請求スヘシ

第十六條　第十三條第一、第二、第三ノ物件ニシテ滯納者所有ノ家屋、倉庫其他滯納者所用ノ場所ニ現在スルモノハ滯納者ノ所有ニ非サル旨ヲ申告スト雖モ其證據分明ナラサルトキハ之ヲ差押フルコトヲ得

第十七條　前條ノ場合ニ於テ差押物件ノ取戻ヲ請求セントスル者ハ賣却決行ノ五日前マテニ所有主タルノ證憑ヲ具ヘテ收入官吏ニ其取戻ヲ請求スヘシ

第十八條　左ニ揭クル物件ハ之ヲ差押フルコトヲ得ス

第一　滯納者及其同居家族ノ生活上缺クヘカラサル衣服、寢具、家具及厨具

第二　滯納者及其同居家族ノ人口ヲ量リ三十日間ノ生活ニ必要ナル食料及薪炭

第三　實印

第四　祭祀ニ必要ナル物品及石碑墓地

第五　滯納者ノ家ニ必要ナル系譜、日記、書付類

第六　滯納者及其同居家族ノ身分ニ必要ナル制服、祭服、法衣

第七　勳章其他名譽ノ章票

第八　修學上必要ナル教科書器具

第九　發明ニ係ル未定ノ物品未タ發行セサル著譯書類

第十　滯納者ノ同居家族ノ財產ニシテ一箇年前ニ官簿ニ記載シタルモノ若クハ一箇年前ニ記名シタル公債證書、株券、手形其他ノ證券

但所得稅ニ關シテハ此限ニ在ラス

第十九條　左ニ揭クル物件ハ他ニ處分費稅金ヲ償フニ足ルヘキ物件存在スルトキハ滯納者ノ選擇ニ依リ差押ヲ爲サヽルモノトス

第一　農業ニ必要ナル器具、種子、肥料及牛馬竝ニ其飼料

第二　職業ニ必要ナル器具及材料

第二十條　收入官吏ハ財產差押ヲ爲スタメ滯納者ノ家屋、倉庫其他ノ場所ニ立入ルコトヲ得

滯納者他人ノ家屋、倉庫其他ノ場所ニ物件ヲ藏匿スト思料スルトキハ收入官吏其場所ニ立入リ取調ヲ爲スコトヲ得

收入官吏、滯納者又ハ他人ノ家屋、倉庫其他ノ場所ニ立入ルハ日出ヨリ日沒マテノ時間ニ限ルヘシ

第二十一條　收入官吏、滯納者ノ家屋、倉庫其他ノ場所ニ立入ルトキハ滯納者若クハ其同居家族他人ノ家屋、倉庫其他ノ場所ニ立入ルトキハ其所有者若クハ其同居家族ヲシテ立會ハシムヘシ

滯納者又ハ所用者及其同居家族トモ不在ナルトキハ隣佑一名以上又ハ市町村若クハ警察ノ吏員ヲシテ立會ハシムヘシ

第二十二條　收入官吏ハ財產差押ヲ爲スニ當リ門戶、倉庫、房室及筐匣等ノ閉鎖シアルトキハ之ヲ開カシメ又ハ自ラ之ヲ開クコトヲ得

第二十三條　收入官吏財產差押ヲ爲ストキハ差押命令書ヲ携帶シ滯納者若クハ立會人ノ求ニ依リ之ヲ示スヘシ

第二十四條　財產ヲ差押ヘタルトキハ收入官吏其差押調書ヲ作リ立會人ト共ニ署名捺印シ其謄本ヲ立會人ニ交付スヘシ

第二十五條　通貨及第十三條第一ノ物件ヲ差押ヘタルトキハ封印シテ其地ノ市町村長ニ預ケ

第十三條第二以下ノ物件ヲ差押ヘタルトキハ其目錄ヲ添テ其地ノ市町村長ニ之ヲ預ケ其預リ證書ヲ取ルヘシ

第二十六條　左ノ場合ニ於テハ滯納者又ハ其同居家族ヲシテ差押物件ノ保管ヲ爲サシムルコトヲ得

第一　收入官吏ニ於テ必要ト認ムルトキ

第二　運搬ニ困難ナルトキ又ハ多額ノ運搬費ヲ要スルトキ

此場合ニ於テハ封印又ハ其他ノ方法ニ依リ差押物件タルコトヲ明ニスヘシ又必要ナル場合ニ於テハ看守人ヲ置クヘシ

第二十七條　債主權ヲ差押ヘタル場合ニ於テハ收入官吏ヨリ負債者ニ對シ差押ノ通知ヲ爲スヘシ

負債者前項ノ通知ヲ受ケタル後滯納者ニ對シ其義務ヲ履行シタルトキハ其履行ノ妨ナキモノトス

第二十八條　不動產及船舶ヲ差押ヘタルトキハ收入官吏ハ所轄登記所ニ照會シテ差押ノ記入ヲ受クヘシ

第二十九條　質入、書入ト爲シタル財產ヲ差押ヘタル場合ニ於テハ收入官吏ハ差押物件處分費稅金額及賣却決行ノ期日ヲ其債主ニ通知スヘシ

前項ノ場合ニ當リ其債主ニ於テ處分費稅金ヲ完納シタルトキハ其差押ヲ解クヘシ

第三章　賣却

第三十條　財產差押ノ手續ヲ終リタルトキハ收入官吏ハ其翌日ヨリ三日以後五日以內ニ賣却ノ公告ノ手續ヲ爲スヘシ

賣却ノ公告ハ左ノ場所ニ揭示シテ三日以上之ヲ爲スヘシ

第一　課稅地ノ郡市役所及區役所若クハ町村役場ノ揭示場

第二　物件所在ノ場所

賣却物件ノ價多額ナルカ又ハ滯納者ノ請求アルトキハ前項ニ揭クル場所ノ外近傍人民群集地ニ揭示シ又ハ其地方ノ新聞紙ニ其要件ヲ公告スルコトアルヘシ

第三十一條　差押物件ハ入札若クハ競賣ノ方法ヲ以テ之ヲ公賣スルモノトス但法律規則ニ依リ取扱ニ制限アル物件ハ此限ニ在ラス

前項但書ノ物件及豫定總價格壹圓未滿ノ差押物件ハ公賣ニ付セス評價ヲ以テ之ヲ賣却スルコトヲ得

第三十二條　差押物件ヲ賣却セントスルトキハ收入官吏ニ於テ其物件ノ價格ヲ豫定シ之ヲ封書トシ入札若クハ競賣ノ場所ニ置クヘシ

第三十三條　賣却ハ差押物件所在ノ市町村內ニ於テ之ヲ爲スヘシ但收入官吏ニ於テ必要ナリト認ムルトキハ他ノ地ニ於テ之ヲ賣却スルコトヲ得

第三十四條　滯納者及賣却ヲ爲ス地方ノ稅務ニ關スル官吏雇員ハ直接ト間接トヲ問ハス其賣却物件ヲ買受ルコトヲ得ス

第三十五條　第十三條第一、第二、第三ノ物件ハ公告ノ日ヨリ十日以外ニ於テ賣却ヲ爲スヘシ

第三十六條　差押物件損敗シ易キモノ又ハ多額ノ保存費ヲ要スルモノ又ハ其價額ヲ著シク減少スルノ恐アルモノナルトキハ前條ノ日限ニ拘ハラス之ヲ賣却スルコトヲ得

第三十七條　收穫前ニ差押ヘタル生產物ハ其成熟ノ後之ヲ賣却スヘシ若シ負債者其義務ヲ認メタル後之ヲ賣却スヘシ

第三十八條　債主權ヲ差押ヘタル場合ニ於テハ負債者其義務ヲ認メサルトキハ收入官吏ハ其差押ヲ解キ更ニ他ノ物件ヲ差押フルコトヲ得

負債者其義務ヲ認メサル場合ニ於テ他ニ差押フヘキ物件ナキトキハ收入官吏ハ裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第三十九條　不動產及船舶ノ公賣ハ入札ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

第四十條　賣却ヲ爲スニ當リ買受望人ナキカ又ハ其買受價額カ豫定價格ニ達セサルトキハ收入官吏ハ其豫定價格ノ幾分ヲ減シテ更ニ豫定價格ヲ定メ再公賣ヲ爲スヘシ此場合ニ於テ尙ホ買受望人ナキカ又ハ其買受價額尙ホ豫定價格ニ達セサルトキハ其豫定價格ヲ以テ其物件ヲ政府ニ買上ケタル場合ニ於テ其代金ヲ處分費稅金ニ充テ尙ホ殘餘アルトキハ第四十三條ニ依リテ處分スヘシ

第四十一條　賣却ヲ終リタルトキハ收入官吏ハ賣却調書ヲ製シ買受人ト共ニ署名捺印シテ其

謄本ヲ滯納者ニ交付スヘシ質入、書入ノ物件ヲ賣却シタル場合ニ於テハ其債主ニモ其謄本ヲ交付スヘシ

買受人賣却調書ニ署名捺印スルコト能ハサルトキハ其事由ヲ記載スヘシ

債主權ヲ賣却シタル場合ニ於テハ負債者ニ買受人ノ住所氏名ヲ通知スヘシ

第四十二條　賣却シタル物件登記ヲ要スルモノナルトキハ收入官吏ハ落札達書及代金完納ノ證書ヲ買受人ニ交付スヘシ

第四十三條　差押物件ノ賣却代金及差押ヘタル通貨ハ處分費稅金ニ充テ尙ホ殘餘アルトキハ之ヲ滯納者ニ還付スヘシ

賣却シタル物件質入、書入ト爲シタルモノナルトキハ其代金ヨリ先ツ處分費稅金ヲ控除シ次ニ其負債金額ニ充ルマテヲ債主ニ交付シ尙ホ殘餘アレハ之ヲ滯納者ニ還付スヘシ若シ滯納稅金ノ納期限ヨリ一箇年前ニ質入、書入ト爲シタルモノナルトキハ其代金ヨリ先ツ其負債金額ニ充ルマテヲ債主ニ交付シ次ニ處分費稅金ヲ控除シ尙ホ殘餘アレハ之ヲ滯納者ニ還付スヘシ

前二項ノ場合ニ於テ滯納者ニ對シ裁判ノ執行アルトキハ其殘餘金ハ該裁判所ニ送付スヘシ

第四十四條　債主ニ交付スヘキ金額ハ賣却調書ノ謄本及計算書ヲ滯納者ニ交付シタル後五日ヲ經テ之ヲ交付スヘシ若シ五日以內ニ滯納者ヨリ異議ヲ申立ルトキハ其事由ヲ債主ニ通知シ雙方連署ノ書面又ハ確定裁判ノ言渡書ヲ以テ其金額受取方ヲ申出タルトキ之ヲ交付スヘシ

第四章　送達

第四十五條　滯納處分ニ關シ滯納者又ハ其債主若クハ負債者ニ對シ書類ヲ送達スルニハ使丁ヲシテ之ヲ送達セシムヘシ但送達ヲ受クヘキ者遠隔ノ地ニ在ル場合ニ於テハ書留郵便ヲ以テ送達スルコトヲ得

第四十六條　使丁ハ送達書類ヲ本人ニ渡スヘシ本人不在ナルトキハ同居人ニ渡スヘシ使丁ハ送達書類ヲ受取リタル者ヨリ領收書ヲ取リテ收入官吏ニ差出スヘシ若シ受取人領收書ヲ記スルコト能ハサルトキハ使丁代テ之ヲ記シ其旨ヲ附記シテ捺印セシムヘシ

第四十七條　送達ヲ爲スニ當リ本人不在ニシテ且本人ニ代リテ受取ルヘキ者アラサルトキハ送達書類ヲ其地ノ市町村長ニ渡シ市町村長ハ其書類ヲ受取人ニ渡シ其領收書ヲ取リテ收入官吏ニ差出スヘシ

第四十八條　市町村長ニ於テ相當ノ處置ヲ爲スモ書類ヲ受取人ニ渡スコト能ハサルトキハ公示スヘシ

公示ハ送達スヘキ書類ノ要旨ヲ摘記シテ之ヲ其本人所在地ノ市役所若クハ區役所若クハ町村役場ノ揭示場ニ三日間揭示スルモノトス

前項ノ揭示ヲ爲シタル日ヨリ五日ヲ經過スルトキハ書類ノ送達アリタルモノト看做スヘシ

第四十九條　郵便ヲ以テ書類ヲ送達スルニ當リ受取人ノ住居不分明ニシテ配達スルコト能ハサルトキハ收入官吏ハ其書類ヲ市町村長ニ送致シ市町村長ハ前二條ニ依リ處分スヘシ

第五章　罰則

第五十條　正當ノ理由ナクシテ第二十一條第一項ノ立會ニ應セサル者ハ貳圓以上拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第五十一條　滯納處分ニ對シ財產ヲ藏匿脫漏シ又ハ虛僞ノ契約ヲ爲シタル者ハ一月以上二年以下ノ重禁錮ニ處ス

差押物件ノ保管者其保管ニ係ル物件ヲ藏匿、脫漏、費消若クハ故意ニ毀損シタル者モ亦同シ情ヲ知テ前二項ノ所爲ヲ幇助シ又ハ虛僞ノ契約ヲ承諾シタル者ハ各本刑ニ一等ヲ減ス

附　則

第五十二條　市町村制ヲ施行セサル土地ニ在テハ市町村長ノ職務ハ區戶長之ヲ行フヘシ

第五十三條　此法律ハ明治二十三年一月一日ヨリ施行ス但沖繩縣及東京府管轄小笠原島、伊豆七島ニハ之ヲ施行セス

第五十四條　明治十年第七十九號布告及現行法令中此法律ニ牴觸スル條項ハ總テ廢止ス

國稅滯納處分法ノ制定ニ伴ヒ滯納處分ニ關スル細則ヲ規定スルノ必要アリ是ニ於テ明治二十三年一月八日大藏省令第一號ヲ以テ國稅滯納處分法施行細則ヲ制定公布セリ其全文ヲ左ニ錄ス

國稅滯納處分法施行細則

第一條　處分法第二條ノ督促令狀、同第十二條ノ差押命令書ハ第一號樣式、第二號樣式ニ依リ之ヲ調製スヘシ

第二條　處分法第十八條第一、第二ニ揭クル衣服、寢具、家具、厨具、食料及薪炭ノ數量ハ普通法ノ例ニ依ルヘシ但其例ナキモノハ人口ヲ量リ生活上必要ト認ムル數量ヲ殘シ置クヘシ

第三條　財產差押ノ調書ニハ左ノ諸件ヲ記載スヘシ

一　滯納者ノ住所氏名

二　動產ハ其名稱、種類、數量

三　不動產ハ其位置、番號、名稱、種類、段別又ハ坪數及土地臺帳ニ記スル地價地租

四　船舶ハ其種類、積量、定繫場及所在ノ場所

五　登記簿ニ登記アル質入、書入ノ金額利子及其返濟期限、登記ノ年月日、債主ノ住所氏名又ハ質入、書入ノ登記アラサルコト

六　貸與シタル不動產ニ付テハ借主ノ住所氏名、其契約ノ要項、返戻期限アレハ其期限及賃金

七　差押ノ事由及手續

第四條　債主權差押ノ通告書ニハ左ノ諸件ヲ記載シ收入官吏署名捺印スヘシ

一　差押ヘタル債主權ノ種類、員額

二　差押ノ事由

三　滯納者ニ對シ義務ノ履行ヲ爲スモ無效タルヘキ旨

四　此通知書ノ送達ヲ受ケタル日ヨリ五日以內ニ其義務ヲ認ムルカ又認メサル旨ヲ申出ツヘキ旨

第五條　財產賣却ノ公告文ニハ左ノ諸件ヲ記載スヘシ

一　滯納者ノ住所氏名

二　動產ハ其名稱、種類、數量

三　不動產ハ其位置、番號、名稱、種類、段別又ハ坪數及土地臺帳ニ記スル地價地租

四　船舶ハ其種類、積量、定繫場及所在ノ場所

五　競賣若クハ入札場所、日限

六　開札ノ場所、日時

七　保證金ヲ徵スルトキハ其金額

八　代金納付ノ期限

九　條件付ノ不動產ナレハ其條件

十　其他隨時主任官吏ニ於テ定メタル公賣手續上ノ要件

第六條　競賣ヲ以テ賣却ヲ爲ストキハ收入官吏競賣人ニ命シテ之ヲ取扱ハシメ自カラ之ヲ監督スヘシ

入札ヲ以テ賣却ヲ爲ストキハ收入官吏自カラ之ヲ取扱フヘシ

第七條　賣却物件ノ買受人代金納付ノ期限內ニ代金ヲ完納セサルトキハ其物件ヲ交付セス更ニ賣却ヲ爲スヘシ此場合ニ於テ保證金アルモノハ之ヲ還付セス其金額ハ處分費稅金ニ補充スヘシ

第八條　財產賣却調書ニハ左ノ諸件ヲ記載スヘシ

一　動產ハ其名稱、種類、數量

二　不動產ハ其位置、番號、名稱、種類、段別坪數及土地臺帳ニ記スル地價地租

三　船舶ハ其種類、積量、定繫場及所在ノ場所

四　公告及賣却ヲ爲シタル方法

五　競賣ヲ爲シ又ハ入札ヲ開キタル場所、日時

六　三番札マテノ入札代價竝其入札人ノ住所氏名

七　再公賣ヲ爲シタルトキハ其事由

八　保證金ヲ徵シタルコト及其金額

九　落札代價及落札人ノ住所氏名

十　代金納付ノ日限

第九條　處分法第四十條ニ依リ賣却物件ヲ政府ニ買上ルトキハ收入官吏該代金ヲ地方長官ニ請求シ之ヲ支辨シ該物件ハ主管ノ官吏ニ引渡スヘシ

第十條　滯納處分濟ノ上國庫ノ損失ニ歸シタルトキハ處分濟ノ日ヨリ十日以內ニ收入官吏ヨリ事由ヲ具シ其缺損額ヲ地方長官ニ稟申スヘシ

第十一條　處分法第十一條ニ依リ滯納處分ノ囑託ヲ受ケタル收入官吏ハ其處分ニ由リテ徵收シタル金額ノ內處分費ヲ控除シ其殘金及諸書類ヲ囑託收入官吏ニ送付スヘシ若シ滯納者又ハ債主ニ交付スヘキ金額アリテ其者受託收入官吏ノ管轄地內ニ住スルトキハ受託收入官吏ニ於テ其金額交付ノ手續ヲナスヘシ

第十二條　處分法第四十三條ニ依リ殘餘金ヲ滯納者ニ還付シ又ハ負債金額ヲ債主ニ交付スルトキハ左ノ諸件ヲ記載シタル計算書ヲ添付スヘシ

一　物件賣却代金

二　保證金ヲ還付セサルトキハ其金額
三　處分費各費目ノ金額及稅金
四　債主ニ交付スヘキ金額及債主ノ氏名
五　滯納者ニ還付スヘキ金額

第十三條　處分法第四十五條ニ依リ使丁ヲ以テ書類ヲ送達スルトキハ第三號樣式ノ送達書ヲ添付スヘシ

第十四條　處分法第四十八條ニ依リ市町村長ニ於テ送達書類ノ公示ヲ爲シタルトキハ直チニ其公示ノ日時ヲ收入官吏ニ通知スヘシ

第十五條　督促令狀ヲ受クル後滯納者又ハ第三者ニ於テ滯納處分費及稅金ヲ完納スルトキハ滯納處分費ハ第四號樣式稅金ハ第五號樣式ノ納付書ニ督促令狀ヲ添付シ之ヲ金庫ニ拂込ムヘシ

第十六條　賣却物件ノ買受代金ハ買受人ニ於テ第六號樣式ノ納付書ヲ添ヘ之ヲ收入官吏ニ納付スヘシ

（書式略）

後チ明治三十年三月法律第二十一號ヲ以テ國稅徵收法ヲ改正シ之カ施行ト同時ニ前揭國稅滯納處分法ヲ廢セリ其所以ハ滯納處分法ハ國稅徵收ノ一部分タル强制徵收ノ手續ニ過キサルヲ以テ新法タル國稅徵收法ノ內ニ合同規定スルノ便ナルニ加カサルカ故ナリ而シテ滯納處分ハ此ノ如ク徵收法中ニ規定セラレタルカ故ニ以下國稅滯納處分ニ關スル制度ハ國稅徵收ニ關スル制度ノ

中ニ於テ之ヲ記述スヘシ

第三款　國稅犯則者處分

凡ソ租稅徵收ノ目的ヲ達セントスルニハ課稅ノ方法徵收ノ手續ヲ完備ナラシムルト同時ニ之カ脫稅ヲ防クノ方法ヲ講セサルヘカラサルハ論ヲ俟タス而シテ脫稅ヲ未然ニ豫防スルハ最必要トスル所ナリト雖モ納稅者ハ種々ノ方法ヲ以テ課稅ノ逋脫ヲ企ツルヲ以テ國家ノ課稅權行使ニ際シ幾多ノ犯則者ヲ出スニ至ルハ勢ヒ免ル可ラサル所トス是ヲ以テ國稅ノ賦課徵收ニ關シテ納稅者ノ課稅物件又ハ課稅標準等申告ノ義務ニ違背シ又ハ稅法ニ定メタル租稅ノ逋脫ヲ圖ルモノニ對シテ制裁ヲ加ヘ以テ徵稅ノ目的ヲ達スルノ策ヲ取ラサルヘカラス明治初年ニ於テハ租稅制度ハ一般ニ暫ク舊ニ依リタルヲ以テ國稅犯則者ノ處分ニ關シテモ亦主トシテ舊慣ニ依リタルモノノ如シ然ルニ明治三年十二月新律綱領ノ制定アルニ及ヒ戶婚律ノ章ニ於テ欺隱田糧ノ罪トシテ田糧ヲ欺隱シテ版籍ニ脫漏スル者ハ笞又ハ杖ニ處シ其田ハ官ニ沒入シ隱ス所ノ稅糧ハ數ニ依テ徵收スル旨ヲ定メ國稅犯則者ニ對スル處罰ヲ一般刑法中ニ規定スルニ至レリ而シテ明治六年六月ノ改定律例ニ於テモ亦戶婚律中欺隱田糧條例ヲ設ケ田宅版籍ノ文字ヲ變易スル者ノ處分ヲ規定シタリ此ノ如ク一般刑法中ニ於テ國稅犯則者處罰ノ規定ヲ見ルニ至レルハ唯清律模倣ノ結果ニ過キスシテ當時新定ノ諸稅法ニ於テモ各其稅法違反者ニ對スル制裁ヲ規定シ其處分ヲ定メタリ

明治十五年新刑法ノ制定アルニ及ヒテ租稅犯則處分ニ關スル分子ヲ其規定中ヨリ除キ之ニ關ス

ル規定ハ專ラ各種稅法ニ讓ルコトヽナセリ而シテ明治三四年ノ頃漸ク新稅法ノ制定アリシ以降孰レノ國稅ニ於テモ其稅法中ニ當該租稅逋稅ニ對スル制裁ヲ定メサルハ無ク其制裁ノ種類ニ至リテハ稅法ニヨリ各〻同シカラスト雖モ主トシテ罰金科料營業停止製品又ハ器物ノ沒收等ニシテ其脫稅額ニ對シテハ之カ追徵ヲ爲セリ其詳細ニ至リテハ夙ニ法規ノ定マレルアリト雖モ其審理ノ方法之ヲ述ヘス是ノ如ク國稅犯則者ノ制裁ニ關シテハ其直接國稅ニ屬スルト間接國稅ニ屬スルトヲ別タス皆司法裁判所ヲシテ審理セシメタリ然レトモ財政ノ膨脹ニ伴ヒ租稅ノ種類其數ヲ增加シ租稅制度亦複雜トナルニ及ヒ個人ノ負擔之ト共ニ重キヲ加フルヲ以テ國稅犯則者自カラ增加スルニ至リ直接國稅犯則ト間接國稅犯則トノ間ニ其處分方法ニ關シテ同一ノ制度ニ依ル能ハサルモノアルニ至レリ蓋シ間接國稅ハ其種類國稅中ノ大部分ヲ占ムルヲ以テ犯則事件極メテ多ク而モ其犯則事件ノ性質ハ直接國稅ノ場合ノ如ク重大ナラサルヲ常トス是ヲ以テ此等犯則者アル毎ニ必ス普通裁判所ノ審理ニ付シ嚴密ノ手續ヲ爲サンカ審查結了ノ遲延費用ノ增加手續ノ煩雜等殆ト其弊ニ勝ヘス而モ犯則者處罰ノ最終ノ目的ハ徵稅ヲ完フスルニアルヲ以テ之カ處分ニ關シテ特別ノ制度ヲ設ケ行政官廳ノ審理ニ委スルノ方法ヲ執ルノ必要ヲ生セリ是ニ於テ明治二十三年九月二十日法律第八十六號ヲ以テ間接國稅犯則者處分法ヲ制定シ間接國稅ノ犯則處分ニ關スル特別法ヲ創設シタリ同法ハ三章二十條ヨリ成リ第一章ニ於テ犯則事件取調ニ關スル規定ヲ設ケ間稅官吏ノ間接國稅犯則事件ニ對スル證憑集取物件差押等ニ關スル權限ヲ規定シ第二章ニ於テ犯則者ノ處分ヲ定メ罰金及沒收品ノ價額合計參拾圓以下ハ間稅分署長其以上ハ間稅署長ニ犯則事件審理處分ノ權ヲ與ヘ犯則者其處分ノ通告

ヲ受ケテ七日間以內ニ履行セサル場合ハ普通裁判所ノ審理ニ移スモノトシ又本人ノ住所不明ナル場合禁錮又ハ拘留ニ該ル事件罰金又ハ稅金完納ノ資力ナキ場合犯則者逃走ノ恐アルトキ竝ニ證憑煙滅ノ恐アルトキハ間稅官吏ハ管轄裁判所ニ告發スヘキモノトシ第三章ニ於テハ雜則ヲ設ケタリ而シテ本法ハ北海道沖繩縣及小笠原島伊豆七島ニハ當分之ヲ施行セサルモノトナセリ其全文左ノ如シ

間接國稅犯則者處分法

第一章 犯則事件取調

第一條 間稅官吏間接國稅ニ關スル犯則者アルコトヲ認知シ若クハ思料シタルトキハ其家宅倉庫其他ノ場所ニ立入リ證憑集取ヲ爲スコトヲ得

犯則者他人ノ家屋倉庫其他ノ場所ニ犯則ニ係ル物件ヲ藏匿スト思料スルトキハ間稅官吏其場所ニ立入リ證憑集取ヲ爲スコトヲ得

間稅官吏證憑集取ヲ爲ストキハ間稅官吏タルノ證票ヲ携帶スヘシ

第二條 前條ノ場合ニ於テ犯則者若クハ犯則ニ係ル物件其間稅官署ノ管轄區域外ニ在ルトキハ其地ノ間稅官署ニ證憑集取ヲ囑託スルコトヲ得

第三條 間稅官吏ハ犯則事件ノ搜查ニ關シ必要ナリト認ムルトキハ警察官吏ノ援助ヲ求ムルコトヲ得

第四條 間稅官吏證憑集取ヲ爲ストキハ本人若クハ其同居ノ親族又ハ傭人ヲシテ立會ハシムヘシ本人及同居ノ親族傭人俱ニ其家ニ在ラサルトキハ警察官吏又ハ市町村吏員若クハ鄰佑

二名以上ヲ立會ハシムヘシ

第五條　間稅官吏家宅捜索及物件差押ヲ爲スハ日出ヨリ日沒マテノ間ニ限ルヘシ但現行犯ノ場合又ハ店舖ヲ公開シ商品ヲ店頭ニ展列シタル時間ニ於テハ此限ニアラス

第六條　間稅官吏臨檢ヲ爲スニ際シ犯則者及證人ノ陳述ヲ聽クコトヲ必要トスルトキハ之ヲ尋問スルコトヲ得

第七條　間稅官吏證憑集取ノ處分ヲ爲スニ由リ犯則物件ヲ發見シタルトキハ之ヲ差押ヘテ封印若クハ認印ヲナシ差押目錄ヲ作リ市町村吏員又ハ鄰佑若クハ本人ニ之ヲ預ケ其預リ證ヲ徵スヘシ若シ之ヲ間稅署若クハ間稅分署ニ送致シタルトキハ其領收證ヲ取置クヘシ

差押物件ヲ市町村吏員若クハ鄰佑ニ預ケ又ハ間稅署若クハ間稅分署ニ送致シタルトキハ其差押目錄ノ謄本ヲ本人ニ交付スヘシ

第八條　間稅官吏ハ前數條ニ記載シタル處分中何人ニ限ラス其場所ニ出入スルコトヲ禁スルヲ得

第九條　間稅官吏證憑集取ノ處分ヲ爲シタルトキハ自ラ其調書ヲ作リ之ヲ本人ニ讀聞カセ本人ト共ニ署名捺印スヘシ本人署名捺印セス又ハ署名捺印スルコト能ハサルトキハ其旨ヲ附記スヘシ

調書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一　本人ノ氏名年齡身分職業住所

二　犯則事件發見ノ手續及日時場所

三　事實ノ尋問ヲ爲シタルトキハ其尋問及陳述

四　差押ヘタル證據物件及種類數量竝ニ本人ノ物件ニ對スル辯解

第二章　犯則者ノ處分

第十條　間稅官吏犯則事件ノ取調ヲ終リタルトキハ處分請求書ヲ作リ一切ノ書類物件ト倶ニ之ヲ管轄間稅署長又ハ分署長ニ差出スヘシ

第十一條　間稅署長又ハ分署長ハ犯則事件ノ調書及其他ノ書類ヲ調査シ犯則ノ心證ヲ得タルトキハ其犯則ト認ムル理由ヲ明示シ罰金ニ該ル者ハ其罰金ニ相當スル金額沒收ニ該ル者ハ沒收スヘキ物品竝ニ第十六條ノ費用ヲ其署ニ納付スヘキ通告書ヲ作リ之ヲ本人ニ送達スヘシ

前項ノ處分ハ罰金及沒收品ノ價額合計參拾圓ヲ超ヘサルトキニ限リ間稅分署長之ヲ爲シ其他ハ間稅署長之ヲ爲スモノトス

第十二條　犯則者前條ノ通告書ヲ受ケ通告ノ旨ヲ承諾スルトキハ七日內ニ履行スヘシ此期限ヲ過キ履行セサル者ハ間稅署長若クハ分署長ヨリ管轄裁判所ニ告發スヘシ

第十三條　犯則者通告ノ旨ヲ履行シタル時ハ同事件ニ付刑事又ハ民事ノ訴ヲ爲スコトヲ得ス

第十四條　間稅官吏犯則事件ヲ發覺シタル場合ニ於テ本人ノ住所分明ナラス若クハ犯則事件禁錮又ハ拘留ニ該ルト認ムルトキ又ハ罰金若クハ稅金ヲ完納スルノ資力ナシト認ムルトキハ該事件ヲ管轄裁判所ニ告發スヘシ

犯則者犯則物件ヲ遺留シテ逃走シタルトキハ間稅官吏其物件ヲ差押ヘテ調書ヲ作リ告發ノ

手續ヲナスヘシ

第十五條　間稅官吏ハ左ノ場合ニ於テハ犯則者ヲ管轄裁判所ニ引致シ其事件ヲ告發スヘシ

一　犯則者逃走ノ恐レアルトキ

二　證憑湮滅ノ恐アルトキ

第三章　雜則

第十六條　書類送達費及差押物件ニシテ本人ニ還付スヘキモノヽ運搬保管若クハ保存ニ要スル費用ハ犯則者之ヲ負擔スヘシ

第十七條　間稅署長若クハ間稅分署長ハ差押物件腐敗其他損失ノ虞アルトキハ本人ノ承諾ヲ得テ公賣シ其代金ヲ供託スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ其差押物件還付ノ申渡ヲ爲シタルトキハ其代金ヲ還付スヘシ

第十八條　此法律ニ於テ間稅官吏トハ間接國稅ノ檢查若クハ徵收ニ從事スル官吏ヲ謂フ

第十九條　間稅官吏ハ直接ト間接トヲ問ハス沒收物件又ハ差押物件ヲ買受クルコトヲ得ス

第二十條　此法律ハ明治二十四年一月一日ヨリ施行ス但北海道、沖繩縣及東京府管轄小笠原島伊豆七島ニハ當分之ヲ施行セス

右間接國稅犯則者處分法ノ制定ニ基キ明治二十三年勅令第二百三十二號ヲ以テ間接國稅犯則者處分書類送達方ヲ定メタリ卽チ左ノ如シ

第一條　間接國稅犯則者ニ對シ書類ヲ送達スルニハ使丁ヲシテ之ヲ送達セシムヘシ但送達ヲ受クヘキ者遠隔ノ地ニ在ル場合ニ於テハ書留郵便ヲ以テ送達スルコトヲ得

第二條　使丁ハ送達書類ヲ本人ニ渡スヘシ本人不在ナルトキハ同居人ニ渡スヘシ使丁ハ送達書類ヲ受取リタル者ヨリ領收書ヲ取リテ間稅署若クハ間稅分署ニ差出スヘシ若シ受取人領收書ヲ記スルコト能ハサルトキハ使丁代テ之ヲ記シ其旨ヲ附記シテ捺印セシムヘシ

第三條　送達ヲ爲スニ當リ本人不在ニシテ且本人ニ代リテ受取ルヘキ者アラサルトキハ送達書類ヲ其地ノ市町村長ニ渡シ市町村長ハ其書類ヲ受取人ニ渡シ其領收書ヲ取リテ間稅署長若クハ間稅分署長ニ差出スヘシ

第四條　市町村長ニ於テ相當ノ處置ヲ爲スモ受取人ニ渡スコト能ハサルトキハ其旨ヲ間稅署長若クハ間稅分署長ニ報告スヘシ

法律第八十六號間接國稅犯則者處分法ノ制定ニ基キ其施行細則ヲ定ムルノ必要アリ明治二十三年十一月十日大藏省令第三十一號ヲ以テ之ヲ公布セリ卽チ左ノ如シ

第一條　間接國稅犯則者ノ處分ハ其犯則發覺ノ地ノ間稅官署ニ於テ之ヲ爲スヘシ但犯則ノ地ト犯則發覺ノ地ト其管轄官署ヲ異ニシ犯則ノ地ニ於テ處分スルヲ便宜ナリト爲ストキハ之ヲ犯則ノ地ヲ管轄スル間稅署又ハ分署ニ移スヘシ

第二條　數個ノ間稅官署ノ管轄區域內ニ於テ同一ノ犯則ヲ爲シタルモノアルトキハ最初ニ之ヲ發覺シタル地ノ間稅官署ニ於テ之ヲ處分スヘシ

第三條　一稅則ニ付數罪俱發シタル場合ニ於テ其數罪中ノ一個ノ罪若シ間稅署ノ處分權限ニ屬スルトキハ其他ノ罪モ間稅署ニ於テ併セテ之ヲ處分スヘシ

第四條　間稅官吏犯則事件ノ證憑集取ヲ爲スニ際シ若クハ間稅署長又ハ分署ニ於テ犯則事件ヲ調査スルニ當リ其事件ニ牽連スル他ノ普通犯罪ヲ發覺シタルトキハ其普通犯罪ハ管轄裁判所ニ告發シ其犯則事件ハ刑法第一編第七章ノ數罪俱發ノ例ヲ用ユルモノヲ除ク外處分法ノ定ムル所ニ從ヒ處分ヲ爲スヘシ

第五條　處分法第十一條第二項ノ合計價額ハ法律ニ於テ罰金ノ額ヲ一定セサルモノハ其罰金ノ最多數ヲ以テ之ヲ算シ沒收品ノ價額ハ間稅官吏ノ見積リ價額ヲ以テ之ヲ算スヘシ

第六條　間稅官吏ハ處分請求書ヲ差出シタル後ト雖モ若シ事實參考トナルヘキ事物ヲ發見シタルトキハ直チニ之ヲ間稅署長ニ差出スヘシ

第七條　間稅官吏ハ犯則物件ニ付鑑定人ヲ必要ナリト思料シタルトキハ相當ノ者ヲシテ鑑定ヲ爲サシメ其鑑定書ヲ徵スヘシ

第八條　間稅官吏犯則事件ノ搜査ニ著手シタルトキハ該事件罪トナラス若クハ證憑不充分ナリト思料シ處分請求ヲ爲サヽル場合ト雖モ其取調書類ニ意見ヲ付シ直チニ之ヲ間稅分署長ニ差出スヘシ

第九條　犯則處分ニ關シ間稅官吏ヨリ間稅署長ニ差出スヘキ書類ハ所屬分署長ヲ經由スヘシ

第十條　間稅署長又ハ分署長ハ處分法第十一條ニ據リ犯則事件ヲ調査スルニ當リ事實參考ト爲ルヘキ事物ヲ發見シタルトキハ間稅官吏ヲシテ之ヲ集取セシムヘシ

第十一條　間稅署長又ハ分署長ハ處分法第十一條ニ據リ犯則事件ヲ調査スルモ犯則ノ心證ヲ得サルトキハ處分請求書ヲ棄却シ差押物件ハ本人ニ還付スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ處分請求書ヲ棄却シタル旨ノ通告書ヲ作リ之ヲ本人ニ送達スヘシ

第十二條　第十一條ニ據リ處分請求書ヲ棄却シタルトキハ處分法第十六條ノ費用ハ之ヲ徵收セサルモノトス

第十三條　間稅署長又ハ分署長ハ犯則者ニ於テ處分通告ノ旨ヲ履行セサルニ依リ管轄裁判所ニ該事件ヲ告發スルトキハ同時ニ處分法第十六條ノ費用ヲ該裁判所ニ訴求スヘシ

第十四條　處分法第十一條ノ沒收ニ該ル物品ニシテ市町村吏員又ハ鄰佑若クハ本人ニ預ケタルモノハ保管ノ儘納付ノ手續ヲ爲サシムヘシ

第十五條　間稅署長又ハ分署長ニ於テ沒收品ヲ領收シタルトキハ之ヲ主管官吏ニ引繼クヘシ

第十六條　處分法第十一條ノ罰金其他ノ收入金ハ會計法規ノ定ムル所ニ依リ之ヲ處理スヘシ

第十七條　處分法第十二條ニ揭ル七日ノ期限ハ通告書ヲ受取ルヘキ者ニ於テ之ヲ受取リタル翌日ヨリ起算スヘシ

第十八條　間稅署長又ハ分署長ヨリ發スル通告書ハ便宜ニ依リ犯則者所在地ノ分署ニ郵送シ該分署ヨリ使丁ヲ以テ本人ニ送達スルコトヲ得但本人ノ領收證ハ卽日之ヲ通告書ヲ發シタル間稅官署ニ發送スヘシ

第十九條　間稅署長又ハ分署長ハ犯則者若シ其管轄區域外ニ在ルトキハ處分法第十一條ノ通告ヲ爲スニ當リ其納付スヘキ金額物件ヲ犯則者所在地ノ管轄間稅分署ニ納付スヘキ旨ヲ通告スヘシ

間稅署長ニ於テ各分署管轄內ニ在ル犯則者ニ通告ヲ爲ス場合モ亦同シ

第二十條　間稅署長又ハ分署長ハ前條ノ通告ヲ爲シタルトキ該通告書ノ謄本ヲ犯則者所在地ノ間稅分署長ニ送付シ其金額物件ノ徵收方ヲ同署ニ移スヘシ

前項ノ場合ニ於テ犯則者期限內ニ通告ノ旨ヲ履行セサルトキハ之ヲ通告書ヲ發シタル間稅官署ニ報告スヘシ

第二十一條　處分法第四條ノ親族ト稱スルハ刑法第百十四條第百十五條ノ例ニ依ルヘシ

第二十二條　凡ソ犯則處分ニ關スル書類ニハ每葉ニ契印スヘシ若シ文字ヲ挿入削除若クハ欄外ニ記入ヲ爲シタルトキハ之ニ認印スヘシ但シ削除シタルモノハ其字體ヲ存シ置キ其字數ヲ記載スヘシ

第二十三條　間稅分署長ハ其管轄內ニ於テ處置シタル犯則事件ノ處分表ヲ調製シ每月五日限管轄間稅署長ニ報告スヘシ

第二十四條　處分法第一條第三項ノ間稅官吏タルノ證票、同第十一條ノ送達書、同第十二條ノ納證施行細則第二十三條犯則事件處分表ハ第一號ヨリ第四號マテノ樣式ニ依リ之ヲ調製スヘシ

（書式略）

間接國稅犯則者處分法ニ依レハ同第十六條ノ費用ハ有罪ノ判決確定ヲ待テ其納付ヲ命シ應セサルトキハ民事訴訟ヲ以テ請求ヲ爲スヲ得ヘキモ同施行細則第十三條ニ於テハ告發ト同時ニ訴求スヘキ規定アルヲ以テ往々裁判所ノ意見ト相反シ刑事附帶ノ私訴タル要素ヲ缺クモノトシテ棄却セラルヽモノアルヲ以テ明治二十六年六月二日大藏省令第十一號ヲ以テ明治二十三年大藏省

令第三十一號間接國稅犯則者處分法施行細則第十三條ヲ削除セリ

從來北海道、沖繩縣、小笠原島、伊豆七島ハ內地ト租稅制度ヲ異ニスルヲ以テ明治二十三年法律第八十六號間接國稅犯則者處分法ハ該地方ニハ當分之ヲ適用セサル旨ヲ定メタリシカ漸ク稅法ノ統一セラルヽニ及ヒ同法亦此等ノ地方ニ實施スルノ必要アルニ至レルヲ以テ明治三十一年十二月二十七日法律第三十號ヲ以テ同法第二十條但書ヲ削除セリ

前揭法律第八十六號ノ規程ハ時勢ノ進歩ニ適應セスシテ不備ノ點アリシカ故ニ明治三十三年三月十六日法律第六十七號ヲ以テ更ニ間接國稅犯則者處分法ヲ制定セリ其全文左ノ如シ

間接國稅犯則者處分法

第一條　間接國稅ニ關スル犯則アルトキハ收稅官吏ハ犯則事實ヲ證明スヘキ物件、帳簿、書類等ノ差押ヲ爲スコトヲ得

第二條　收稅官吏ハ犯則事實ヲ證明スヘキ物件、帳簿、書類等ヲ藏匿スト認ムル場所ニ臨檢シ捜索ヲ爲スコトヲ得

第三條　收稅官吏ハ犯則事件ヲ調查スル爲必要ト認ムルトキハ犯則嫌疑者參考人ヲ尋問スルコトヲ得

第四條　收稅官吏臨檢、捜索、尋問又ハ差押ヲ爲ストキハ其身分ヲ證明スヘキ證票ヲ携帶スヘシ

第五條　收稅官吏臨檢、捜索、尋問又ハ差押ヲ爲スニ當リ必要ナルトキハ警察官吏ノ援助ヲ求ムルコトヲ得

第六條　收稅官吏捜索ヲ爲ストキハ捜索スヘキ家宅、倉庫、船車其ノ他ノ場所ノ所有主、借主、管理

者事務員又ハ同居ノ親族、雇人、鄰佑ニシテ成年ニ達シタルモノヲシテ立會ハシムヘシ

前項ニ揭クル者其ノ地ニ在ラサルトキ又ハ立會ヲ拒ミタルトキハ其ノ地ノ警察官吏又ハ市町村吏員ヲシテ立會ハシムヘシ

第七條　收稅官吏犯則事實ヲ證明スヘキ物件、帳簿、書類等ヲ差押ヘタルトキハ其差押目錄ヲ作ルヘシ但シ所有者ハ其差押目錄ノ謄本ヲ請求スルコトヲ得

差押物件ハ便宜ニ因リ保管證ヲ徵シ所有者又ハ市町村ヲシテ保管セシムルコトヲ得差押物件ノ保管證ニ關シテハ印紙稅ヲ納ムルコトヲ要セス

差押物件腐敗其ノ他損傷ノ虞アルトキハ稅務管理局長ハ之ヲ公賣ニ付シ其ノ代金ヲ供託スルコトヲ得

第八條　收稅官吏ハ日沒ヨリ日出マテノ間臨檢、搜索、又ハ差押ヲ爲スコトヲ得ス但シ現行犯ノ場合ハ此限リニ在ラス

第九條　收稅官吏臨檢、搜索、尋問又ハ差押ヲ爲ス間ハ何人ニ限ラス許可ヲ得スシテ其場所ニ出入スルヲ禁スルコトヲ得

第十條　收稅官吏臨檢、搜索、尋問又ハ差押ヲ爲シタルトキハ其顚末ヲ記載シ立會人又ハ尋問ヲ受ケタルモノニ示シ共ニ署名捺印スヘシ立會人又ハ尋問ヲ受ケタルモノ署名捺印セス又ハ署名捺印スルコト能ハサルトキハ其旨ヲ附記スヘシ

第十一條　犯則事件ノ證憑集取ハ事件發見地ノ收稅官吏之ヲ爲ス同一犯則事件ニ付數稅務署管轄區域內ニ於テ發見セラレタルトキハ各發見地ニ於テ集取セラレタル證憑ハ之ヲ最初ノ發見地ノ收稅官吏ニ引繼クヘシ

第十二條　收稅官吏前各條ニ依リ臨檢、搜索、尋問又ハ差押ヲ爲スハ其所屬稅務署ノ管轄區域內ニ限ル但シ旣ニ著手シタル犯則事件ニ關聯シ他ノ稅務署ノ管轄區域ニ於テ臨檢、搜索、尋問又ハ差押ヲ爲スヲ必要トスルトキハ此限リニ在ラス

稅務署長ハ其管轄區域外ニ於テ犯則事件ノ調查ヲ必要トスルトキハ之ヲ其ノ他ノ稅務署長ニ囑託スルコトヲ得

第十三條　收稅官吏犯則事件ノ調查ヲ終リタルトキハ之ヲ稅務管理局長ニ報告スヘシ但シ左ノ場合ニ於テハ直チニ告發スヘシ

一　犯則嫌疑者ノ居所分明ナラサル時

二　犯則嫌疑者逃走ノ虞アルトキ

三　證憑煙滅ノ虞アルトキ

第十四條　稅務管理局長ハ犯則事件ノ調查ニ依リ犯則ノ心證ヲ得タルトキハ其理由ヲ明示シ罰金若クハ科料ニ相當スル金額、沒收品ニ該當スル物品、徵收金ニ相當スル金額及書類送達竝ニ差押物件ノ運搬、保管ニ要シタル費用ヲ指定ノ場所ニ納付スヘキ旨ヲ通告スヘシ但シ犯則者通告ノ旨ヲ履行スル資力ナシト認ムルトキハ直ニ告發スヘシ

第十五條　第十四條ノ通告アリタルトキハ公訴ノ時效ヲ中斷ス

第十六條　犯則者通告ノ旨ヲ履行シタルトキハ同一事件ニ付訴ヲ受クルコトナシ

第十七條　犯則者通告ヲ受ケタル日ヨリ七日以內ニ之ヲ履行セサルトキハ稅務管理局長ハ告發見地ノ收稅官吏ニ引繼クヘシ

第十二條　收稅官吏前各條ニ依リ臨檢、搜索、尋問又ハ差押ヲ爲スハ其所屬稅務署ノ管轄區域內ニ限ル但シ旣ニ著手シタル犯則事件ニ關聯シ他ノ稅務署ノ管轄區域ニ於テ臨檢、搜索、尋問又ハ差押ヲ爲スヲ必要トスルトキハ此限リニ在ラス

稅務署長ハ其管轄區域外ニ於テ犯則事件ノ調查ヲ必要トスルトキハ之ヲ其ノ他ノ稅務署長ニ囑託スルコトヲ得

第十三條　收稅官吏犯則事件ノ調查ヲ終リタルトキハ之ヲ稅務管理局長ニ報告スヘシ但シ左ノ場合ニ於テハ直チニ告發スヘシ

一　犯則嫌疑者ノ居所分明ナラサル時

二　犯則嫌疑者逃走ノ虞アルトキ

三　證憑煙滅ノ虞アルトキ

第十四條　稅務管理局長ハ犯則事件ノ調查ニ依リ犯則ノ心證ヲ得タルトキハ其理由ヲ明示シ罰金若クハ科料ニ相當スル金額、沒收品ニ該當スル物品、徵收金ニ相當スル金額及書類送達竝ニ差押物件ノ運搬、保管ニ要シタル費用ヲ指定ノ場所ニ納付スヘキ旨ヲ通告スヘシ但シ犯則者通告ノ旨ヲ履行スル資力ナシト認ムルトキハ直ニ告發スヘシ

第十五條　第十四條ノ通告アリタルトキハ公訴ノ時效ヲ中斷ス

第十六條　犯則者通告ノ旨ヲ履行シタルトキハ同一事件ニ付訴ヲ受クルコトナシ

第十七條　犯則者通告ヲ受ケタル日ヨリ七日以內ニ之ヲ履行セサルトキハ稅務管理局長ハ告

發ノ手續ヲ爲スヘシ但シ七日ヲ過クルモ告發前ニ履行シタルトキハ此限リニ在ラス

第十八條　犯則事件ヲ告發シタル場合ニ於テ差押物件アルトキハ差押目錄ト共ニ裁判所ニ引繼クヘシ

前項ノ差押物件所有者又ハ市町村ノ保管ニ係ルトキハ保管證ヲ以テ引繼ヲ爲シ差押物件引繼ノ旨ヲ保管者ニ通知スヘシ

第十九條　稅務管理局長犯則事件ヲ調査シ犯則ノ心證ヲ得サルトキハ其旨ヲ犯則嫌疑者ニ通知シ物件ノ差押アルトキハ之カ解除ヲ命スヘシ

第二十條　本法ニ於テ間接國稅ト稱スルハ勅令ノ定ムル所ニ依ル

第二十一條　本法中市町村吏員又ハ市町村トアルハ市制町村制ヲ施行セサル地ニアリテハ之ニ準スヘキモノニ適用ス

前揭犯則者處分法ノ制定ニ伴ヒ明治三十三年三月勅令第五十二號ヲ以テ間接國稅犯則者處分法施行規則ヲ定メ明治二十三年十一月大藏省令第三十一號ヲ廢止セリ今施行規則ノ全文ヲ揭クレハ左ノ如シ

間接國稅犯則者處分法施行規則　（明治三十三年三月勅令第五十二號）

第一條　間接國稅犯則者處分法ニ於テ國稅ト稱スルハ左ノ國稅トス

一　酒造稅

二　混成酒稅

三　沖繩縣酒類出港稅

四　醬油稅（自家用醬油稅トモ）

五　賣藥印紙稅

六　印紙稅

第二條　收稅官吏物件帳簿書類等ヲ差押ヘタル場合ニ於テ所有者又ハ市町村ヲシテ保管セシムルトキハ之ニ封印ヲ爲シ若クハ其ノ他ノ方法ヲ以テ差押ヲ明白ニスヘシ

第三條　差押目錄ニハ物件ノ品名數量帳簿書類ノ名稱個數差押ノ場所及時所持者ノ住所又ハ居所氏名ヲ記載スヘシ

第四條　收稅官吏物件帳簿書類等ヲ差押ヘタル場合ニ於テ之ヲ官廳又ハ市町村ニ送致スルトキハ差押目錄ノ謄本ヲ其ノ所持者ニ交付スヘシ

第五條　收稅官吏市町村ヲシテ差押物件ノ保管ヲ爲サシムルトキハ其ノ旨ヲ差押當時ノ所持者ニ通知スヘシ

第六條　稅務管理局長間接國稅犯則者處分法第七條ニ依リ差押物件ヲ公賣スルトキハ物件ノ品名數量公賣ノ事由公賣ノ場所及時其ノ他必要ノ事項ヲ公告スヘシ

第七條　稅務管理局長間接國稅犯則者處分法第七條ニ依リ差押物件ノ公賣代金ヲ供託シタルトキハ其ノ金額ト共ニ其ノ旨ヲ差押當時ノ所持者ニ通知スヘシ

第八條　收稅官吏臨檢搜索尋問又ハ差押ヲ爲シタルトキ調製スル顚末書ニハ臨檢搜索尋問又ハ差押ノ事實場所及時竝供述ノ要領ヲ記載スヘシ

第九條　間接國稅犯則者處分法第十四條ノ通告ハ通告書ヲ送達シテ之ヲ爲スヘシ

第十條　通告書ノ送達ハ使丁ニ依リテ之ヲ爲シ其ノ受領證ヲ徵スヘシ但シ配達證明郵便ヲ以テ送達ヲ爲スコトヲ得

第十一條　稅務管理局長間接國稅犯則者處分法第十九條ニ依リ犯則ノ心證ヲ得サル旨ヲ犯則嫌疑者ニ通知スル場合ニ於テ同法第七條ニ依リ供託シタル金額アルトキハ供託受領證ニ供託金ヲ受取ルヘキ事由ヲ證スヘキ書面ヲ添付シ之ヲ差押當時ノ物件所持者ニ交付スヘシ

第十二條　犯則事件ノ調查及處分ニ關スル書類ニハ每葉契印スヘシ又ハ欄外ノ記入ヲ爲シタルトキハ之ニ認印スヘシ

文字ヲ削除スルトキハ其ノ字體ヲ存シ置キ其ノ字數ヲ記載スヘシ

第十三條　收稅官吏ハ直接ト間接トヲ問ハス差押物件又ハ沒收物件ヲ買受クルコトヲ得ス

附　則

本令ハ間接國稅犯則者處分法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

間接國稅犯則者處分法第四條ニ依リ明治三十三年三月大藏省令第五號ヲ以テ收稅官吏ノ携帶スヘキ證票樣式ヲ定メ同時ニ大藏省訓令第八號ヲ以テ間接國稅犯則者處分法施行上ニ付キ左ノ訓令ヲ發セリ

間接國稅犯則者處分法施行上左ノ通心得ヘシ

第一條　收稅官吏臨檢搜索ヲ爲スハ犯則ノ嫌疑ヲ起スニ足ルヘキ事實アリタルトキニ於テノミ之ヲ爲スコトヲ要ス

第二條　收稅官吏犯則嫌疑者參考人ヲ尋問スルハ犯則ノ現場又ハ尋問ヲ受クヘキ者ノ所在ニ就テ之ヲ爲スコトヲ要ス

第三條　差押物件ニハ常ニ注意ヲナシ腐敗其ノ他損傷ノ虞アルトキハ時機ヲ失セス公賣ニ付シ其ノ代金ノ供託ヲナスコトヲ要ス但シ急速ヲ要スル場合ノ外ハ成ルヘク公賣前差押當時ノ所持者ノ意見ヲ聞クコトヲ要ス

第四條　收稅官吏證憑ヲ他ノ稅務署ノ收稅官吏ニ引繼ク場合及事件ヲ稅務管理局長ニ報告スル場合ニ於テハ所屬稅務署長ヲ經由スルコトヲ要ス

第五條　犯則事件ノ調查及處分ハ速ニ結了スルコトヲ要ス故ナク遲滯スルカ如キコトアルヘカラス

第六條　稅務管理局長通告ヲ爲ス場合ニ於テハ成ルヘク犯則者ノ住所地又ハ居所地所轄ノ稅務署ヲ指定シテ金錢物品ノ納付所ト爲スコトヲ要ス但シ沒收スヘキ物品ニシテ市町村又ハ所有者ノ保管ニ係ルトキハ其物品ニ關シテハ特ニ其所在ノ場所ヲ指定スルコトヲ妨ケス

第七條　通告書ハ金銀物品ノ納付所ト指定シタル稅務署ヲ經由シテ送達スルコトヲ要ス

第八條　稅務管理局長犯則事件ヲ調查シ犯則ノ心證ヲ得サルトキハ速ニ其ノ旨ヲ犯則嫌疑者ニ通知シ且ツ差押物件ノ解除ヲ當該官吏ニ命スルコトヲ要ス

差押解除ノ命令ヲ受ケタル當該官吏ハ直チニ之レカ解除ヲナスコトヲ要ス

右訓令ス

凡ソ法人ノ代表者其他法人ノ業務ニ從事スルモノ其業務ニ關シ租稅ニ關スル法規ヲ犯シタル場合ニ於テ各法規ニ規定シタル罰則ヲ其代表者若クハ從業者ニ適用スルトキハ租稅徵收ノ目的ヲ

達スルコト能ハサル場合アリテ不便少ナカラス法人ヲシテ其責任ヲ負擔セシムルノ必要アルヲ以テ明治三十三年三月法律第五十二號ヲ以テ右等ノ場合ニハ其罰則ヲ法人ニ適用スヘキコトヲ定メタリ卽チ左ノ如シ

第一條　法人ノ代表者又ハ其ノ雇人其ノ他ノ從業者法人ノ業務ニ關シ租稅及葉煙草專賣ニ關スル法規ヲ犯シタル場合ニ於テハ各法規ニ規定シタル罰則ヲ法人ニ適用ス但シ其罰則ニ於テ罰金科料以外ノ刑ニ處スヘキコトヲ規定シタルトキハ法人ヲ參百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二條　法人ヲ處罰スヘキ場合ニ於テハ法人ノ代表者ヲ以テ被告人トス

第三條　法人ヲ處罰スルノ裁判確定シタル日ヨリ罰金ニ關シテハ一月以內科料ニ關シテハ十日以內ニ之ヲ完納セサルトキハ民事訴訟法第六編ノ規定ニ從ヒテ其執行ヲ爲ス此ノ場合ニ於テハ檢事ノ命令ヲ以テ執行力ヲ有スル債務名義ト同一ノ效力アルモノトス

前項ニ依リ執行ヲ爲スニハ執行前裁判ノ送達ヲ爲スコトヲ要セス

明治三十四年法律第八號、第十二號、第十三號ヲ以テ酒精及酒精含有飮料稅法、麥酒稅法、砂糖消費稅法等ノ制定アリシニ依リ間接國稅犯則者處分法施行規則中改正ノ必要アリ乃チ明治三十四年八月勅令第百七十號ヲ以テ左ノ改正ヲナセリ

間接國稅犯則者處分法施行規則中左ノ通改正ス

第一條　間接國稅犯則者處分法ニ於テ間接國稅ト稱スルハ左ノ國稅トス

一　酒造稅

二　酒精及酒精含有飮料稅

三　沖繩縣酒類出港稅

四　麥酒稅

五　醬油稅（自家用醬油稅トモ）

六　砂糖消費稅

七　賣藥印紙稅

八　印紙稅

本令ハ三十四年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

斯クテ明治三十五年法律第四十四號ヲ以テ骨牌稅法ノ創定アリシニ依リ明治三十五年四月勅令第四十五號ヲ以テ間接國稅犯則者處分法施行規則第一條中第八號ノ次ニ骨牌稅ノ一號ヲ追加セリ

第三節　地租

第一款　地租ノ第一期（自明治元年正月至明治六年六月）

明治ノ初メ政權ノ朝廷ニ歸スルヤ從來ノ弊害多キ租稅制度ヲ釐革シテ全國均一ノ法則ヲ設クルコトハ庶政中最モ必要ノ事ナリシト雖モ朝綱未タ全ク張ラス人心尙未タ鎭撫セサルニ當リ遽ニ稅法ヲ改ムルトキハ却テ民情ニ悖ルノ虞アルヲ以テ一兩年間ハ舊慣ニ仍リ唯苛法弊習又ハ已ムヲ得サル事由アラハ會計官ニ稟議ノ上處置スヘク舊幕廳下ノ采邑ヲ沒收セシモノニ付テハ最寄

ノ府縣竝ニ藩ニ於テ管轄シ其來タ處置ノ終ラサルモノモ亦姑ク之ニ準シテ租稅ヲ收入シ會計官ニ屆出シムル爲メ太政官ハ明治元年八月七日左ノ如ク布告セリ

一 諸國稅法ノ儀其風土ヲ篤ト不相辨新法相立候テハ却テ人情ニ戻リ候間先一兩年ハ舊慣ニ仍リ可申苛法弊習又ハ無餘儀事件等有之候ハヽ一應會計官ヘ伺ノ上處置可有之事

一 諸府縣共役向諸事相心得候者一兩人上京爲政置彼此之御用相辨候樣可致事

一 租稅納方諸府縣諸藩御預所共金ハ會計官米ハ大阪會計官ヘ當辰年ヨリ上納可致事

一 諸府縣月給其外諸入用凡積ヲ以テ租稅之內ニテ金穀儲ヘ置夫々取計致シ皆納之節會計官ヘ明細勘定帳差出候樣可致事

一 舊幕麾下采邑沒收之分ハ最寄之府縣竝諸藩御預所可爲支配其他御處置未タ無之分ハ當分同樣支配致シ租稅取立置會計官ヘ可屆出事

一 丁銀豆板銀通用停止被 仰出候ニ付テハ是迄貢米代其外小物成運上物等一切可爲金納事

但金壹兩ニ付永壹貫文銀ハ六拾目換之算當タルヘキ事

右之通被 仰出候事

然レトモ此ノ布告ヲ發スルニ先チ舊幕府ノ地租ニ關スル簿書未タ政府ノ手ニ移ラス私領、社寺領等ノ村高及前年ノ收租額等分明ナラス課稅ノ基礎ヲ立ツル能ハサリシヲ以テ太政官ハ明治元年四月七日左ノ布達ヲ爲セリ

一 諸國萬石以上、以下私領竝寺社領共是迄幕府ヘ差出候振合ヲ以村高帳寫相添急速民政役所ヘ可差出事

一 諸國之內元幕府ヨリ預所竝元郡代、元代官支配所藩々ヘ取締被 仰付置候向共左之帳類相添急速民政役所ヘ可差出事、但御預所無之向ハ其旨可申出事

村高帳　昨卯年取箇帳

昨卯年鄕帳　村鑑帳

但帳簿美濃紙ニ可相認事

（註）村高帳（各村田地ノ石額ヲ記載スル帳簿）　取箇帳（取箇額ヲイフ）　鄕帳（鄕村ノ水陸二田ノ收穫額、賦租及雜租雜稅ヲ登載スル帳簿）

村鑑帳（水田、陸田ノ段數、石額、用水、戶數、人口、牛馬及地方盛衰、土質ノ沃瘠等ヲ詳明ニ登載スル帳簿）

預所（舊幕府直隸ノ土地ヲ諸藩ニ寄託シ民政稅務ヲ提理セシムルモノ）　舊郡代代官（共ニ舊幕府地方官吏ノ職名）

同年七月十二日會計官ハ更ニ各藩ニ「國中一圓　御領、自領、地領、寺社領、舊幕府麾下末方向不分明ニ候共其知行等モ不殘郡々每村名石高不洩樣取調生紙堅帳ニ相認メ當九月中迄當官ヘ可差出事」ヲ令達セリ

而シテ明治元年ハ夏期霖雨洪水ノ災害アリ近畿地方被害最モ甚シク加之各地兵燹ノ災ニ罹リ東北諸國ハ兵亂尙未タ止マス人民ノ困難實ニ名狀スヘカラサルモノアリシヲ以テ太政官ハ同年六月諸道府縣ニ令達シテ其徵稅ヲ酌量セシメタリ

明治元年六月八日

此度洪水ニ付秩苗之埋沒十三日ヲ過キ猶水底ニ沈ム所ハ當年之年貢　御免被　仰出候但十日前後水退ノ分ハ巡檢之上追テ可被　仰出候間此旨可相心得事

同月二十二日（布）

諸道府縣

方今　王化天下ニ洽カラント欲ス此時ニ當リ無辜ノ生民兵燹ノ災ニ罹リ加之洪水慘毒ノ至近畿最甚シ且東北諸路賊徒平定ニ至ラス生民ノ塗炭一端ニアラス　皇上深ク難被爲忍救恤阜財ノ道被爲盡度　勅旨痛切ニ被　仰出候ニ付テハ至仁之　聖意ヲ體認シ其民ヲシテ安堵セシムルハ今日府縣ノ責ナリ卽今創建ノ初救荒ノ典未タ立スト雖モ一日斯民ニ莅ム者卽一日此道ヲ講セスンハアラス況ヤ今日眼前ノ窮厄ヲヤ故ニ賑救ノ急務左ニ記ス（抄錄）

一　沒田ノ民ハ全ク其租賦ヲ免シ其他漂溢ノ田畑ハ荒敗ノ輕重ヲ量リ竭免其宜キヲ得ヘキ事

同年九月二十八日會計官ハ關東諸縣ニ令達シテ農民ノ疾苦ヲ生セサルタメ租額ヲ定メ其定免年期ノ滿了スル者ハ去歲ノ收穫ニ準シテ相當ニ增賦シ收租額內ニ入レテ差出サシメ又小物成諸運上等ノ收入モ亦姑ク舊慣ニ仍リテ之ヲ取扱ハシム其達ニ曰ク

御料所國々物成ノ儀舊政府ニテ檢見取竝年季ヲ以定免ニ申付年季明ニ付場所ハ地味厚薄ニ寄增米吟味ノ上繼年季申付定免村ニテモ水旱損等天災ニテ取米三分以上ノ損耗ニ相當候得ハ破免引方相立候儀ニ有之當辰年ノ儀モ先ツ右ノ振合ヲ以檢見被免村々共百姓痛ニ不相成樣勘辨御取箇附致シ可被相伺尤定免年季明之分ハ御取箇時節ニ差懸リ候間別段不相伺去卯取米辻ニ相應ノ增米致シ御取箇ニ組入可被申立其餘小物成諸運上等ノ納物モ先ツ舊政府引付ノ通取調候樣可被致候

尋テ翌二十九日同官ハ伊豆及關東諸縣舊幕旗下領上知ニ於ケル本年ノ貢租上納ヲ諭達スルコト左ノ如シ

旗下上知ノ分當秋御收納ノ儀ハ先納或ハ先々納等夫々困窮ノ地頭ヨリ申付候村々モ不少事ニ可有之候得共今度　王政御一新ニ付テハ前領ノ廉合申立私ノ都合ヲ以　朝廷ヘノ貢不相立候テハ御初政ノ御廉無之ニ付右上知ノ分一般ニ當年ノ分不殘　朝廷ヘ貢獻ノ事但水損ノ場所ハ知縣事ニテ檢見ノ上相當ノ年貢可取上事

同年十月二十九日會計官ハ韮山縣及關東府縣ニ令シテ舊幕府旗下ノ上納地ニシテ其農民ヨリ已ニ本年ノ貢額ヲ共領主ニ先納若クハ先々納ヲナセシモノハ其三分ノ一ヲ免除シ其餘ヲ貢納セシム

舊幕旗下上地當秋御收納ノ儀ニ付先達テ相觸候當年分不殘　朝廷ヘ貢獻可致トノ儀ハ地頭勝手ヲ以先納先々納申付候村方モ有之可爲難儀候ニ付右ノ分ハ御收納高ノ內三分一被免其餘ハ村方ニテ辨金上納可致候最三分一以下ニ相當リ候先納金有之村方ハ右先納金差引殘金上納ノ積リ且德川家ヘ奉職ノ者村方ヘ返濟可申達トノ儀ハ御差止相成候事

一　舊旗下知行ノ儀ハ是迄家來竝村役人等ヘ打任置地方定法ニ觸レ候取計ハ勿論此度上知ニ付先々收納帳等取調方ニ於テハ如何ノ風聞有之御新政ノ折柄何レニモ御改正不相成候テハ御取締向ニモ相拘リ候間猶精々取調可相伺其次第ニ寄リ候テハ追テ一村限地押繩入ヲモ被仰附候儀モ可有之其節不正ノ筋相顯ニ於テハ村役人共嚴重御沙汰ノ品モ可有之條右ノ趣相心得舊弊御改正路ニ取計候樣村々ノ者共ヘ可被申渡事

而シテ會計官ヘ提出スヘキ租稅皆濟目錄ハ幕府時代ニ於テハ前三十三箇年間ノ對照增減調等ヲナス要例アリシモ其繁冗ヲ省クタメ同年十一月九日關東諸縣ニ對シテ會計官ヘ可差出御取箇目錄ノ儀舊幕府ニテハ三十三箇年差引取調其外減一村限帳損地屆書起返屆書等相添差出來候處以

來ノ儀ハ前年ヨリ差引ノミニテ右樣數年差引取調候ニ不及其餘可差出書類ノ義モ銘々役所ヘ取置御沙汰候節差出候儀ト可相心得候事」ヲ令達セリ且ツ關東諸縣ハ新タニ政府ノ直轄地トナリタルモノ多ク貢租ノ收納高ヲ知ルコト容易ナラサルノミナラス同年ハ旣ニ收租期ニ迫リ取箇帳ノ進達ヲ俟テ之ヲ照料スルノ暇ナカリシヲ以テ同年十二月十八日會計官ハ關東諸縣ニ令達シテ特ニ旣往五箇年ノ平均收納額ヲ徵收セリ而シテ關東諸縣ハ當時戰亂ノ後ヲ承ケ事務上各縣自ラ區區ノ處理ニ出ツルノ虞アルヲ以テ同年十二月二十四日會計官ハ關東諸縣ニ向ヲ其取扱方針ヲ示スコト左ノ如シ

一 定免切換伺竝新規定免願

是ハ相當ノ年季ヲ以テ支配ノ分限リ承屆其段會計官ヘ可被相屆候

一 草永草錢其外都テ地所ニ付候小物成ノ類年季切換竝新規取立物

是ハ右同斷最新規ノ分ハ前ニ見合無之廉ハ伺ノ上可被取計候

一 諸運上冥加永

是ハ追テ及沙汰候迄取立ニ不及候事

一 御林木風損立枯

是ハ相當ノ直段ヲ以手限御拂取計右代金御勘定元ニ組候樣可被致無難ノ立木伐木ノ儀ハ會計官ヘ伺ノ上可取計候

一 御勘定元ニ組入候廉々

是ハ逸々伺ニ不及手限リ吟味イタシ御勘定帳突合ノ節ハ米銀納札差出可申事

一 御金藏納渡竝御收納ノ內ヨリ都テ拂ニ相立候廉々

是ハ其時々會計官ヨリ伺ノ上取計御勘定仕上ノ節右伺書突合トシテ可差出事

一 夫食種籾農具等諸拜借其外御救筋

是ハ舊幕中米金等口々借請未納有之村々ハ都テ被下切ノ積リ此後拜借等願出候分年季借ノ儀ハ相止メ精々吟味ノ上被下切ノ積リ取調可被相伺候

一 新開竝金銀山開堀ノ類

是ハ會計官ヘ伺ノ上可被取計候

一 御囘米難船吟味ノ事

是ハ御取締專一ニ相心得可成丈ケ手限吟味ノ取計御損失可相成廉重キ御處置等可被仰付廉會計官ヘ伺ノ上可被取計候

一 附屬下吏人員竝身分進退

是ハ伺ノ上可被取計候事

一 御取箇鄕帳

一 御勘定帳

一 皆濟目錄

是ハ年々取調突合物相添可被差出候事

一 村鑑帳

是ハ手繰次第取調先ツ一ト通リ可被差出候事

一 四季相場書
　是ハ正四七十中旬差出可被置候事
一 高國郡村名帳
　是ハ最初一ト通リ差出置入狂無之候ハヽ年々差出ニ不及候事
一 御林帳
　是ハ手繰次第取調差出置增減有之候ハヽ其節々可被屆候事
一 勤方明細書
一 八箇條書付
　是ハ舊幕中年々差出來候趣ニ候得共以來差出ニ不及候事
右ハ關東筋竝伊豆國御料ノ儀追々御委任ノ御規則モ可相立候得共支配郡村相接候場所ニテ區々ノ取計相成候テハ不都合ニ付當分前書ノ通可被相心得候事
明治二年二月十五日各府縣歲入ノ員數及ヒ管轄內ノ中下大夫上士竝社寺領ノ收入ヲ取調ヘ元治元甲子ヨリ明治元戊辰ニ至ル五箇年間ヲ平均シ四月限辨官事ヘ差出スヘキ旨ノ御沙汰アリ尋テ同年三月四日同一ノ趣旨ヲ宮堂上竝地下諸官人舊禁裏附等ニ御沙汰アリ斯クテ收納高等ノ調査ヲ終リタルヲ以テ同年四月二十七日會計官ハ府縣及預所アル諸藩ニ對シ管轄內ノ租稅其外諸入費ヲ調査シテ差出スヘキ旨ヲ令セリ
明治二年三月五日長崎府ニ令シ長崎港地子銀ハ姑ク舊ニ仍リ之ヲ處置セシム蓋シ地子銀ノ制度ハ同港家宅地ニ賦課スル一種ノ稅法ニシテ今其起源ヲ繹ヌルニ元和、延寶及寶曆年間德川氏海頭

ヲ埋メ若クハ風除地ヲ築キシ以來之ヲ徵收シ來レリ而シテ地子ナル名稱ハ元ト官田公田等ヲ人民ニ耕作セシムルトキ徵取スル所ノ賃租ヲ意味セシモ後該制度ノ廢頹スルニ及ヒ或ハ之ヲ市街地ニ課スルアリ或ハ之ヲ社寺領ニ賦スルアリ復タ一定ノ制ナク足利氏後多クハ都會ノ地ニ適用シ地租ト同性質ノモノトナリタリ然ルニ特リ長崎港ニ於ケルモノハ官營ニ係ル新地ニ居住スルモノニ對シ之ヲ賦課スルモノナルヲ以テ此點ヨリ云ヘハ地子ノ本質ニ合スルモノトイフヘシ

長崎府

明治二年三月五日（沙汰）
其地地子銀之義先般　御沙汰之筋モ有之候得共今般知府事上京言上之次第有之ニ付御僉議中從前之通可取計旨　御沙汰之事
而シテ從來東京府下ニハ上邸、中邸、下邸ト稱シテ諸藩各三箇所ノ邸地ヲ有スルアリ或ハ又德川氏ノ臣隷士卒ノ居宅所謂武家地ナルモノアリテ悉ク免稅セラレ來リシカ故ニ各藩邸地ノ數ヲ制限シ及ヒ武家地ヲ處分シテ地租收除ノ區別ヲ爲スタメ同年五月十七日布告ヲ發シテ曰ク

一 御布告之通萬石以下屋敷可爲一箇所事
　但下屋敷上地致シ候而差支尙又拜借願濟ニ相成候モノハ地稅可差出事
　但町屋敷受領之モノハ武士地へ引換相願可申最引替候テハ難澁ノ向ハ共儘被下候積ニ付其頭支配ニテ取調可申立何モ地稅之儀ハ追而可相達事
一 內神田濱町築地邊郭內ニ準シ候旨去辰九月中相觸置候處此度神田橋門通ヨリ昌平橋通ヲ境トイタシ東京方神田濱町築地邊以後郭外ト可相心得事
一 郭外ニテ町地ニ可相成武士地ハ屋敷改ニテ取調可申立事

但町地ニ相成候上ハ都而町並之通最武士地ヘ住居可相濟身分之者モ住居相免シ地稅町入用トモ爲差出可申事

一 拜領町屋敷所持之者ハ地稅可差出事

一 宮堂上家來諸藩士等文武師範致シ候歟又ハ無據筋ニテ其主家邸內ニ罷在候テハ差支候分ハ武士地拜借聞濟地稅爲差出可申事

但身分之儀ハ主人又ハ其頭支配ヨリ屋敷改役所ヘ添簡ヲ以テ申立候ハヽ糺之上地所貸渡シ可申事

一 是迄武士地ヘ住居致居候町人別之者又ハ町醫師御用達町人角力檢校勾當等者總テ從來町人別之部ニ入其所年寄共右地所拜借證文ヘ加印致シ差出候ハヽ當分差置地稅爲差出可申事

加之ナラス維新以來各藩ハ舊ニ依リ其封土ヲ領セシモノヽ中時勢ヲ察シテ其版籍ノ奉還ヲ奏請スルモノアリ明治二年六月十七日之ヲ勅許セラレ尙他ノ各藩ニ命シテ同シク之ヲ返上セシメ始メテ郡縣ノ制ニ復セリ然レトモ便宜上其封土限リ尙各某藩ト稱シ藩主及其臣僚ヲ知事大參事等ニ任シ以テ府藩縣三治ノ制ニ定メテ政令ヲ一途ニ歸セシメ更ニ同年十二月二日中下大夫以下ノ稱ヲ廢シ都テ士族及卒ト名ケ祿制ヲ定メ同二十日從來士族ノ采地ハ總テ之ヲ上地シ翌三年ヨリ租稅ヲ上納セシムルコトヽセリ

舊來ノ法タル畑ハ其作一回ニ止ラサルヲ以テ假設凶年ト雖モ減租セス唯非常ノ災害ニヨリ收穫皆無トナリタルトキニ限リ當時ノ損害ヲ量リ幾分ノ減租ヲナスノミ然ルニ其制度漸ク弛ミ僅ニ夏作ノミ些少ノ損害アルモ尙田ト同シク減免ヲナスモノアルニ至レルヲ以テ已ムヲ得サル場合ニ限リ經伺ノ上之カ處置ヲナサシムルコトヽシ明治三年正月二十八日民部省ハ左ノ令達ヲナセリ

昨巳年畑方貢米ノ內多分ノ引方相立御取箇帳取調差出候向モ有之甚以不都合ノ至候一體畑方ノ儀ハ三毛收納ニ付容易ニ引方可致筋ニ無之候條以後萬一非常違作ノ申立ヲ以引方相願候トモ麥作ヲ始夏秋ノ模樣等厚ク勘辨致シ篤ト吟味ノ上無餘義分ハ步合等巨細取調前以伺ノ上處置致シ候儀ト可相心得候此段申達候事

明治三年二月二十七日「洛中外境界御改正ニ相成洛中ハ從前之通地子免除被　仰出候事」トノ御沙汰アリ蓋シ京都市街ノ曾テ織田氏天正ノ初ニ於テ永代地子ヲ免除セラレ降テ德川氏ニ至ルモ尙依然タリシニ由リ今回洛中洛外ノ境界ヲ改正シ洛中ハ從前ノ如ク之ヲ免除シ洛外ハ之ヲ徵收スルコトヽシタルナリ同年三月二十二日民部省ハ府縣ニ「各支配地ノ內諸藩及舊旗下上知ノ分御料並吟味ノ儀其風土人情ニ不悖樣厚ク勘辨ノ上從前ノ通可據置分並有名無實ニテ相廢止可然品等巨細入念遂吟味當節ヨリ追々見込相付伺書差出可申候事」ヲ令達セリ蓋シ此令達アリシハ諸藩領又ハ舊旗下領ニシテ維新後御料地ニ歸シタル國郡ニシテ租稅賦課ノ方法等各自其趣ヲ異ニスルモノハ他ノ御料地ト同一ニ歸セシムヘキ必要アリシト雖或ハ土地人情ノ參酌スヘキモノアリ或ハ有名無實ニシテ廢止ズヘキモノアリシヲ以テ夫々調查稟議セシムルコトヽナセシナリ更ニ同月「士族並ニ舊旗下上地ノ儀兼テ御布告ノ通最寄府縣ニ於テ管轄ノ分自然相洩候樣ニテハ不都合ニ付天保年度御國郷帳寫別紙村高書付相渡候間實地ヘ校合ノ上相違ノ廉夫々掛紙致シ取調ノ上可差出事但一郡兩縣支配ノ分ハ申合引裂可差出事」ト達シ以テ調查上脫漏誤謬ナカラシメン爲メ

郷帳寫及村高帳等ヲ交付シ照査校合セシメタリ新ニ上地トナリタル士族ノ采地及舊幕旗下ノ知行所等ハ素ヨリ其版面狹小ニシテ一村數領ニ渉ルモノアル等頗ル錯雜ヲ極メシニ因ルナリ

五月七日府縣管內ニ在ル上納地ニ係ル郡村ノ租稅徵收法ハ姑ク舊慣ニ仍リ漸次ニ釐革スヘキコトヲ議定ス蓋シ舊ト諸藩及ヒ大夫士等各自ニ一家ノ法制ヲ立テ其封地采邑ノ租稅賦課ノ方法モ亦從テ異リ重歛濫課甚其當ヲ失スルモノアリ然レトモ今唯其一郡一區ニ釐革ヲ加ヘンヨリモ寧ロ姑ク舊慣ニヨリ以テ人民ノ危惧ヲ絕チ且ツ官府ノ冗勞ヲ省キ然後徐ニ一大革新ヲ施シ以テ全國課稅ノ方法ヲ齊整セシムルニ加カサルヲ以テナリ

越ヘテ明治三年十二月十日太政官達ヲ以テ皇族、華族、及舊官人以下ノ祿制ヲ定メ禀米ヲ以テ支給スルニ由リ各其采邑ヲ還納セシム又社寺領ハ古來ヨリ神宮修理祭祀料ノ地及其神官禰宜等ノ領スル所ヲ神領ト稱シ又堂塔伽藍ノ造營修理其他佛事ノ供料ニ充ツル所ヲ寺領ト云ヒテ之ヲ領セシカ鎌倉幕府以降モ亦或ハ除租地トシ或ハ半租地トシテ世々皆之ヲ重ンセリ而シテ神領ハ豐臣氏全國ノ地ヲ檢スルニ當リテモ亦之ヲ除キ或ハ更ニ新地ヲ加ヘ其租ハ之ヲ神社ノ有ニ屬セシム降テ德川氏ノ時ニ至リテモ亦舊慣ヲ改メス其尊崇スルモノニハ特ニ其領地ヲ增加セリ又寺領ハ朝野共ニ佛ヲ信シ競テ之ニ土地ヲ寄付シタレハ累世ノ間其所領漸次增加シ殆ト巨族大家ノ所領ニ過キ其盛ナルコト神領ノ比ニアラス織田氏ノ時或ハ之ヲ減シ或ハ之ヲ創リタルコトアリシモ德川氏ハ大寺小院ノ緣由アルモノハ其分ニ應シテ香花ノ料地ヲ附與シ之ヲ朱印地證文ト稱ス其他諸家ヨリ寄付セシモノモ亦均シク寺領トナシ以テ明治ニ及ヘリ然レトモ各藩既ニ版籍ヲ返上シ一般上知トナレルニ拘ラス社寺ノミ獨リ所領ヲ有セシムルノ理ナキヲ以テ其現域地ヲ除ク外

總テ之ヲ還納セシメ更ニ社寺祿制ヲ定メ以テ禀米ヲ支給スルヲ至當トシ明治四年正月五日太政官ハ左ノ布告ヲ發シテ神社佛寺ノ領有地ヲ還納セシム

諸國社寺由緒ノ有無ニ不拘朱印地除地等從前之通被下置候處各藩版籍奉還之末社寺ノミ土地人民私有ノ姿ニ相成不相當ノ事ニ付今度社寺領現在ノ境內ヲ除ノ外一般上知被　仰付追テ相當祿制被相定更ニ廩米ヲ以テ可下賜事但當午年收納ハ從前之通被下候事

一　領地ノ外ニ舊政府竝領主等ヨリ米金寄付ノ分依舊慣當午年迄被下候向モ有之候處來未年ヨリ被止候事但家祿ノ內ヲ以テ寄付致候儀ハ別段ノ事

一　上地ノ田畑百姓持地ニ無之社寺ニテ直作或ハ小作ニ預ケ有之分年貢諸役百姓竝相勤ルニ於テハ從前ノ通社寺ニテ所持致シ不苦候事但地所ニ關係ノ事務ハ村役人差圖可致事

右之通被　仰出候ニ付是迄支配致候府藩縣ヘ土地更ニ管轄被　仰付候事但高帳ハ追テ可相渡事

一　祿制御改革ニ付テハ元有祿之社寺ニテ是迄召仕候譜代ノ家來共三代以上元給祿高二代以下勤年數二十箇年以上五箇年以上譜代新規抱等ノ差別ヲナシ管轄府藩縣ニ於テ人名取調可差出事但一季抱ノ分ハ不及差出事

右之通相達候事

然ルニ寺院ノ如キ現境內ヲ盡定スルニハ別ニ標準トスヘキモノナク唯其實況ニ依リ斟酌査定スルニ過キサルヲ以テ寺院ハ成ルヘク其境內ノ廣カランコトヲ欲シ哀訴歎願スル等處理上至難ノ

事情アリテ容易ニ決定シ難キニ因リ或ハ從前ノ坪數段別ヲ標準トシ或ハ嚴ニ其境域ヲ限定スル等區々一定セス從テ境外上地高ノ調査上ニモ亦影響スル所アルヲ以テ同年五月二十四日太政官ハ左ノ如ク令達セリ

諸國寺院現在ノ境內ヲ除キ一般上地被　仰出收納現石高平均取調方相達置候處境內ノ區別調方一定不致向モ有之不都合ニ付從前ノ坪數段別ニ不拘相當ノ見込ヲ以テ境內ノ區別相定其餘田畑山林ハ勿論譬ヘ不毛ノ土地ニ候共墓所ヲ除クノ外上地ノ儀御布告ノ通相心得總テ收納有之分ハ六箇年平均取調兼テ相達候期限迄ニ差出スヘシ、但境內地ノ區別今般相達候趣意ニ反シ取調差出候向ハ早々再調ノ上可引換最調達無之分モ其段屆出ツヘシ

而シテ前記ノ布告中ニ社寺領上知ノ田畑ハ社寺ニテ直作又ハ小作預ケヲ爲スモノ年貢諸役百姓竝相勤ムルニ於テハ其社寺ノ所有トシ苦シカラストアルハ當初社寺カ他ヨリ讓受ケタルモノニ限リ云フモノニシテ其他ハ假令直作又ハ小作預ケヲ爲スモ元來其土地寄付地ナルトキハ其儘所持スルヲ允サヽルノ旨趣ナルカ故ニ處理上誤解ナカラシメン爲メ更ニ同年九月十三日大藏省ハ左ノ達ヲ發セリ

本年正月社寺領上知被　仰出候御布告書ノ內三箇條目上知ノ田畑百姓持地ニ無之社寺ニテ直作云々從前ノ通所持致シ不苦ト有之候ハ朱印地除地ノ田畑元來百姓持ノ地ヲ其社寺ニテ讓受所持致シ候ヲ直作或ハ小作ニ預置候田畑ノ儀ニテ最初寄付ノ節百姓ヲ放シ貢稅作德共一切附與有之分ハ都テ御拂下ノ上更ニ地主ヲ定メ候儀ト相心得地代金遂吟味伺出ツヘシ、但是迄所持ノ社寺ヨリ御拂下相願地代金不相當無之候ハヽ其社寺へ拂下不苦

一　有祿ノ社寺ニテ召仕候譜代ノ家來給祿高其外勤年數等取調人名可書出旨庚午十二月中御達ノ趣有之候處于今不書出向モ有之不都合ニ付不差出向ハ往返日數ノ外十日限リ取調可差出最有祿ニテ家來無之分モ其段屆出ツヘシ、但先達テ政府ヘ差出候向モ有寫相添何月何日差出候趣書付相添至急差出スヘシ

又明治四年三月二十日大藏省ハ三府及ヒ五開港場ニ地租ヲ賦課スルノ方法ヲ確定ス可キ旨ヲ太政官ニ建議シ獨リ農民ノ田畑ニノミ課稅セスヒ地租ノ均平ヲ圖ラントセリ其建議文ニ曰ク「我邦各外國ト貿易互市ヲ開ケル以來外國人ノ居留地域ハ管轄廳之ヲ競貸ニ付シ或ハ內外人民雜居ヲ爲ス等各港其處置ヲ異ニシ地租ノ課法一定ナラス然リ而シテ外交ノ漸ク盛大ニ赴クニ隨ヒ居留地域自カラ廣キヲ加フルニ至ルヤ縱令競貸ニ付シテ一旦利益ヲ得ル者ノ如クナルモ是レ徒ラニ其土地ノ所有者ヲシテ田地產米ノ利益ニ倍蓰スル利益ヲ占斷セシムルニ過キス現ニ三府下數百萬口ノ人民ノ如キ終年半錢一粒ノ租稅ヲ納致スル無クシテ官有ノ土地ニ安居シ以テ官府ノ保護ヲ受ク然ルニ農夫ノ如キハ常ニ僻邑ニ居住シテ重租厚稅ヲ負擔シテ其膏血ヲ官用ニ供シ而シテ官府ノ保護ヲ受ルヤ却テ府民ヨリモ薄シ其勞逸苦樂ノ相距ル啻ニ霄壤ノミナラス是レ實ニ政治上ニ於テ偏頗ノ責ヲ免カルヽ可カラス故ニ首トシテ三府五開港場ノ地租ヲ賦課スル方法ヲ確定シ以テ漸次ニ全國一般ニ擴行セント欲ス若シ允裁ヲ得ハ地理租稅兩司ニ命シテ速ニ之ヲ查定セシム可シ云々」

尙諸藩內ニ在ル穢多非人等ハ舊來一般民籍ノ外ニアリテ其宅地ニハ或ハ石高ヲ付スルモノアリ或ハ除地トシテ石高ヲ付セサルモノアリテ一定ノ常規アラサリシヲ以テ同年八月二十八日太政

官ハ「穢多非人等ノ稱被廢候條一般民籍ニ編入シ身分職業共都テ同一ニ相成候樣可取扱最モ地租其外除地ノ仕來モ有之候ハヽ引直シ方見込取調大藏省ヘ可伺出事」ト布告シ穢多非人等ノ民ヲ一般民籍ニ編入セシメ地租其他ヲ徵收スルコトヽシタリ

同年十月八日太政官ハ舊來ノ由緒ヲ以テ鄕士百姓町人共ノ內屋敷地山林地子免除ノ分ハ一切廢止自今相當ノ地稅上納申付段別其外精細ニ取調且收穫ノ模樣等篤ト檢查ノ上大藏省ヘ可伺出事但國家ニ功益有之其跡不可煙滅モノハ其事情精敷取調他ノ御賞可相伺旨ヲ令シ從來國家ニ功勞アル者若クハ由緒アル鄕士及孝子義僕等ヲ表旌スル爲メニ地租ヲ免除シ來リシ例ヲ廢止セリ

又曾テ荒地免租地タリシ地ニシテ舊ニ復セシモノ及其已ニ起返リタルモ地力回復セサルタメ低租ヲ付シタル地(免下ケ又ハ取下ケ場トイフ)等ニ付テハ常ニ注意ヲ怠ラス漸次復舊スルニ從ヒ正當ノ徵租ヲナスヘキ筈ナルニ其調查周到ヲ缺キ事實上既ニ復舊セルニ拘ラス尙免減租ノ儘放任シ置クノ傾向アリテ數百町步ノ荒地ニシテ其起返ニ至レルモノ少ナク或ハ數萬石ノ管轄地ニシテ免上增(低租ヲ舊ニ復スルヲ云フ)ノ地ヲ見サルモノ多ク脫稅ノ弊アルヲ以テ明治三年三月二十五日民部省達ニテ一層其調查ヲ綴密ナラシメンコトヲ訓告シ且ツ幕政中川缺川成等ノ如キ容易ニ起返リ難キモノヽ外ハ多クノ年季ヲ與ヘサルヲ以テ地主モ亦却テ多クノ年季ヲ請フヲ不利トシ單ニ一作引ト稱シテ其年ノミノ免租ヲ受ケ置キ而シテ翌年以後年々一作引ノ名義ヲ以テ種々ノ手段ニ依リ數年ノ免租ヲ得ルニ至リ遂ニ一般ノ弊習トナリ自然普通荒地ハ免租年季ヲ與ヘサル規定ノ如クニシテ他日調查ノ漏脫ヲ免カレサルヲ以テ今後ハ免租地及低租地トモ必ス相當ノ年季ヲ與ヘ其季滿了ノ翌年ニ於テ周到ノ取調ヲ爲スヘキ旨ヲ令セリ

各府縣諸藩御預所去巳御取箇帳追々差出候處同年ノ儀ハ春來不順氣ニテ田畑共出來劣貢米永トモ相減候向多候ハ無餘儀次第候得共荒地起返ノ有無竝取下場地位立直ノ模樣等ハ豐凶ニ不拘年々無油斷吟味可取計儀各〻職掌ニ付農隙見計夫々見分等可致ハ勿論ノ儀最モ年柄違作ニテ吟味ニ付起返ニ差出候段別靑立等ノ不熟ニ相成候節ハ皆無引ニ相立免上增ノ分モ出來方ニ寄候テハ出來劣減ニモ取計候故荒地取下場等至當ノ吟味致シ候儀ハ衆歎ノ筋ニハ決テ無之候處中ニハ心取違ノ向モ有之候哉數百町步ノ荒地ノ內起返ノ廉無之數萬石ノ支配地ノ內聊モ免上增等無之分相見候ハ如何ノ事ニ候當午年以來一際念入吟味取計候樣可致候一體連々可起返荒地ノ內川缺川成等容易ニ難起返分ハ格別其餘ハ夫々吟味ノ上起返ノ年季ヲ定引方相立可然筋ノ處舊幕府中ハ手餘荒地ノ外ハ年季引等ニハ不取計向モ有之趣候得共年季無之候得ハ箇所多ノ儀ニ付自然吟味洩相成候分等モ可有之哉ニ付向後荒地出來候節ハ其度々年季ヲ定引方申付且是迄引方相成居候荒地ノ分モ夫々見分ノ上容易難起返見込ノ分ハ十箇年又ハ十五箇年程ニ年季ヲ定置右年限ニ至起返不相成分ハ繼年季申候ハヽ下民難澁ノ筋モ有之間數其餘ノ分ハ場所ノ厚薄ニ寄三箇年又ハ五箇年程ニ年季ヲ定置起返方爲取計起返地ノ分モ本免入可相成年季ヲ定取下申付年季中地所手入方厚世話致シ地味ノ立直方ニ應シ追々免上申付年限ニ至候ハヽ本免入相成候樣吟味可有之候就テハ各支配地荒地總寄仕譯竝取下場總寄仕譯共別紙雛形ノ趣ヲ以テ可成丈早々取調差出置夫々無油斷吟味致シ年々起返免上本免入等ニテ增減ノ分ハ內書外書等ニ記シ前年トノ差引明細相分候樣取調可差出候事（書式略ス）

以上ノ如ク田畑ニ荒地ヲ生シタル時ハ實地檢查ノ上其損害ノ厚薄ニ依リ起返シ得ヘキ目途ノ年

季ヲ定メ免租スヘキモノトセリ然ルニ定免村ニ在テハ田地收穫十分ノ一以內ニカヽル凶歉ニハ年季中之ヲ免除セスシテ完納セシメ而テ其起返ノ分ニ對シテモ賦課ノ手續ヲ爲サヽルヲ以テ一村全般ヨリ見レハ敢テ損益ナキカ如シト雖一人一箇ノ上ニ就テハ不公平ヲ免カレサルカ故ニ此慣行ヲ廢シ土地ノ廣狹ニ拘ラス每時審査シテ處置セシムル事トシ翌同四年九月左ノ令ヲ發セリ

各府縣管下當未年ヨリ田細荒地竝起返共別紙雛形ノ通取調本年ノ貢租帳エ添可差出且又場所ニ寄從前定免村々ノ內荒地出來候節小前高十分一迄之小數ハ年季中引方不申付起返ノ分モ同樣ノ方法有之候得共右等ノ仕來ハ自今相廢止場所ノ廣狹ニ不拘其時々遂吟味引方竝起返共可

申付事

追テ去午年三月雛形ヲ以相達置候荒地總寄仕譯書早々可差出事（別紙略ス）

惟フニ開墾ノ業タル國家ノ要務ニシテ幕政中モ尙之レカ勸誘ノ途ヲ設ケタリト雖或ハ町人ノ請負開墾ハ之レヲ禁止シ或ハ私領ノ地ハ假令恰好ノ地アリテモ幕府之ニ干涉セサルヲ以テ空シク曠漠タル原野ヲ荒蕪ニ委シ去リタリ就中關東地方此類ノ土地最モ夥シ故ニ維新後士民ヲ論セス之レカ開墾ヲ企圖シ其建白ヲナスモノ少ナシトセス然レトモ百事多端ノ際頗擾ヲ極ムルヲ以テ明治二年三月十日會計官ハ先ツ關東府縣ニ令シテ新田開墾ノ申請書ハ必ス管轄廳ヲ經由シテ會計官東京出張所ニ上進セシム

新田開墾等ノ儀御維新ニ乘シ府縣ノ手ヲ不經建白ノ者多ク有之　朝廷ニ於テ御多端ノ折柄其頗擾不少土地ハ府縣ノ管轄ニ付支配內荒原平野等有之開墾差支無之場所ハ銘々見込書ヲ以テ當官へ可申立候事

斯ノ如ク政府モ亦之レヲ勸誘シ爾來民間ニ於テモ各地ノ開墾ヲ企圖セシト雖モ出願ニ方リ其都度主務省ヘ稟議スルタメ或ハ時機ヲ失シ爲ニ畝歩ノ狹少ナル地ハ捨テヽ其事業ヲ果タサヽルアリ或ハ稟請手續ノ煩雜ヲ厭ヒ私ニ其事業ヲ創ムル者アリ竟ニ全國新開墾地ノ歩數ヲ計知スルヲ得サルニ至リシヲ以テ翌三年九月二十七日太政官ハ新ニ開墾規則ヲ制定シ之ヲ頒布セリ

府藩縣管內開墾地之儀是迄御布告ニ遵ヒ都テ伺出指圖相受候處左候テハ時日相後レ自然機會ヲ失ヒ開業難行屆儀モ有之候間向後別紙之通規則被相定候條右ニ照準シ取計致事

（別紙）

規　則

一　府藩縣支配地之內山林野沼及ヒ海岸附寄洲等之場所自費ヲ以テ開墾致度段願出候節ハ村內ハ勿論近傍村々故障之有無相糺屹度有益無害ニ候ハヽ段別五町歩ヲ限リ其管廳ニ於テ差許錄下年季地代永等至當之處分可致事但些少タリトモ故障之次第有之ハ利害得失ヲ明辨シ民部省ヘ相伺可否之決ヲ可請事

一　試作ハ地所之種類段別之多少ニ不拘全ク故障無之節ハ管廳限可聞屆置事但御林陣屋敷地其他御用地ニ屬スル場所ハ試作タリトモ都テ繪圖相添民部省ヘ伺ノ上可取計事

一　五町歩以上ノ開墾ハ土地之種類ニ不拘段別其他故障之有無利害之原由ヲ記載致シ且繪圖面ヲ副總テ民部省ヘ伺之上諸般之施行可致事

一　府藩縣入會之地或ハ他之管轄ニ關係致シ候用水ヲ分流シ一管內ト雖モ田畑ヲ潰シテ溝渠ヲ疏シ又ハ從前之養水溜池等ヲ埋堤防ヲ毀或ハ川中附寄洲等水利ニ關涉致候地ヲ開墾願出

候節ハ地ノ廣狹ニ不拘土地ノ模樣故障之有無最精密ニ取調繪圖面相添民部省ヘ相伺指圖ニ依テ可取計事

一 高入之儀段別之多少ニ不拘土地之品位ヲ檢查致シ至當之免付取調民部省ヘ可伺出事但一區百町歩以上之土地竝管轄入リ交候場所ヲ檢候節ハ民部省役員之立會可請事

一 官費ヲ以テ開墾致シ候節ハ五町歩以下ト雖モ故障之有無利害得失ハ不及申經費之數ヲ精算シ土地之品類段別等明細ニ書記シ繪圖面相添民部省ヘ伺出許可之上功ヲ可起事

一 管廳ニ於テ差許候開墾地ハ段別其他鍬下等之取極振竝繪圖面ヲ詳明ニシ且又伺之上免許之分ハ唯段別而已相記毎年十二月限リ民部省ヘ可屆出事

右之通確守可致候事

然ルニ開墾其他荒地復舊竝ニ地目變換等ハ以上ノ如キ成規アルニ拘ラス幕府ノ末年國事多端又ハ制度ノ紊亂ニ乘シ農民ニ於テ竊ニ空地ヲ開墾シ又ハ切添切開ヲ爲シ或ハ荒地起返ヲ申告セス或ハ無願ニテ地目ヲ變換スル等ノモノアリ其弊延ヒテ維新後ニ及ヒ尙往々此類ノコトアルヲ以テ之ヲ矯正セント欲シ四年正月十四日太政官ハ畑ノ田トナレルモノ田ノ畑トナレルモノ若クハ田地ノ隱匿私占ニ係ルモノヲ點檢シテ之ヲ常制ニ歸セシムヘキヲ府藩縣ニ令達ス

近來農間ニ於テ竊ニ空地ヲ開墾シ又ハ持地ヘ切添作リ取致シ候隱地之類或ハ荒地起返ヲ不申立或ハ無願ニテ畑田成及ヒ田畑ヲ屋敷地ニ致シ候類往々有之哉ニ相聞ヘ不屆ノミナラス銘々持地モ相混シ爭論ノ基トモ相成以之外ノ事ニ付總テ御釐正可相成筋ニ候得共從來ノ弊習一時ニ洗除候樣ニモ難相成其儘打棄置候テハ追々經界紊亂終ニ許多之罪人可出來儀ニ付府

藩縣各管廳ニ於テ平常懇篤ニ說諭ヲ加ヘ漸々定制ニ歸スヘシ

更ニ同年八月大藏省ハ左ノ規定ヲ示シテ種藝牧畜等ノ起業ヲ奬勵スル爲メ各府縣管內ニ於ケル荒蕪不毛ノ土地ヲ入札ニ據リテ拂下クルコトヽセリ

別紙ノ通今般御布告相成候條各府縣管內於テ地所望ミノモノ有之節ハ廣ク入札爲致三番札迄上落札可申渡事

但代金之儀ハ其都度當省ヘ上納可致事

（別紙）

各管內荒蕪不毛之地所自今相當ノ價ヲ以テ御拂下ケ相成候間士民ヲ論セス望之者ハ別紙雛形ノ通リ入札致シ其地方官ヨリ當省ヘ願出可申事

（入札雛形）

何國何郡何村字何々

一 段別何程

此地代金何程

但壹段歩ニ付金何程

但當何年ヨリ來ル何年迄鍬下何箇年ノ中ニ開墾仕成就之上ハ（種藝牧畜）何々之見込ニ御座候最鍬下年季中野錢等ハ從前通リ上納仕候事

右之通入札仕候處相違無御座候落札相成候節ハ卽日代金十分一殘金之儀ハ開墾成就ノ上皆納可仕萬一相違ノ節ハ地所御取揚ケ被遊候テ聊申分無御座候以上

年號月日
何國何郡何村
何 某 印

前書之通リ立會候處相違無之候以上

何府縣官員
何 某 印

明治五年正月十三日同省ハ「蕪荒不毛ノ地開墾致度者ハ入札ノ上地所拂下可相成筈昨未九月中相達候ニ付テハ一昨午年九月中布告相成候開墾規則ノ儀ハ取消候儀ト可心得事」ト達シ以テ曩ニ發布セシ開墾規則ヲ廢止セリ然ルニ一旦荒蕪地除地等ノ拂下ヲ許セシヨリ各地方ニ於テ古來ノ名所舊蹟等ノ拂下ヲ請ヒ切ニ破壞伐木シ隨テ其風致ヲ損スルモノアルヲ以テ同年四月十二日同省達第五十三號ヲ以テ「先般荒蕪除地等拂下ノ儀公布相成候ニ付テハ於各地方古來ヨリ聲譽ノ名所古蹟等ハ素ヨリ國人ノ賞觀愛護スヘキ者ニ付右等ノ場所ハ叩リニ破壞伐木セサル樣篤ト注意可致事」ヲ訓示シ更ニ明治六年七月二十日ニ至リ太政官ハ布告第二百五十七號ヲ以テ「各府縣管內荒蕪不毛地竝官林等望ノ者ハ士民ヲ論セス入札ヲ以テ拂下ケ可申旨辛未八月壬申五月兩度ニ大藏省ヨリ相達置候處自今差止候條此旨布告候事但不得止事情有之拂下ケ不致候テ難相成節ハ詳細具狀シ大藏省ヘ可伺出事」ト令シ不毛地竝官林拂下ヲ禁示スルニ至レリ蓋シ土地ノ入札拂下ハ當初專ラ開墾ノ事業ヲ奬勵スルノ旨趣ニ出テタレトモ其拂下ヲ請願スルモノ概ネ目前ノ小利ニ走リ山林ノ如キ開墾ヲ名トシテ濫リニ樹木ヲ伐採スル等ノ弊害續出セシニ因ルナリ

既ニ述フルカ如ク租稅ハ姑ク舊慣ニ仍リ之ヲ徵收スルコトヽ爲セシヲ以テ地租ノ賦課徵收ニ關シテモ亦從來ノ檢見定免ノ方法ヲ襲用セシカ明治二年九月二日民部省ハ畑方木綿作檢見致シ來候分御廢止相成候條當巳年以前十廢シ定免取ト爲ス旨ヲ令セリ

其（府藩縣支配地御預所）村々ノ從前仕來ヲ以テ畑方木綿作檢見取ヲ定免取ニ可被取調事

箇年又ハ十五箇年畑方正租平均ヲ以テ相當ノ定免取ニ可被取調事

蓋シ往時ニ在テハ畑作モ田ト同シク檢見ヲ爲シタリシカ享保年中畑方檢見取ノ方法ヲ止メ獨リ木綿作ノミヲ檢見シ來リシモ等シク一地方ノ畑地ニシテ檢見ト定免取ノ二途ニ出ツルハ不便尠カラサルヲ以テ曩ニ豐岡縣ヨリ木綿ノ熟否ヲ檢省スル慣例ヲ廢止スルノ要アルコトヲ開陳セシニヨリ之ニ基キ此ノ令ヲ發セシナリ

明治三年正月二十三日同省ハ田方檢見法竝ニ坪刈春法ノ手續ヲ取調上申スヘキコトヲ達セリ

各（支配地預所）村々新規定免同運上冥加ノ類願出候ハヽ地味ノ善惡村柄ノ盛衰餘業潤助ノ厚薄故障法ノ手續御取箇付ノ次第等巨細取調至急可申立候事

各（支配地預所）田方檢見御取箇付ノ取計國々ニ於テ差等ハ可有之候得共銘々耕地ヘ相臨見分坪刈春之ト同時ニ新規定免同運上冥加ノ類願出候ハヽ地味ノ善惡村柄ノ盛衰餘業潤助ノ厚薄故障有無等巨細相糺諸物價ヲモ見合相當增方申付相伺可申最モ右品年季切換等ノ儀ハ前同樣ノ手續ヲ以テ相當增方吟味ノ上不及伺承屆廉限一紙ニ取束ネ可相屆候事

而シテ又定免ノ村々水旱害ノ爲メ減租ヲ請フトキ之ヲ檢見シテ三分以上ノ減損ナル場合ニハ其定率ヲ破リ相當ノ減租ヲ爲ス成規アリ是則チ破免ト稱スルモノナリ然ルニ此ノ場合ニ於テ往々檢見ヲ爲サス荒作手當米又ハ用捨引ノ稱ヲ以テ容易ニ減租ヲ爲スノ傾アリ仍テ明治三年五月二

日民部省ハ此等ノ出願ニ對シテハ必ス坪刈檢查ノ上相當ノ減租ヲナシ而シテ田畑成畑田成本免下（本租額ヲ降減スルモノ我日地位租率ノ降等ナリト）或ハ田畑屋敷成等ヲ出願スルトキハ總テ實地ヲ檢查シ稟議ノ上處理スヘキコトヲ達セリ

昨巳年凶歉トハ乍申定免村々檢見モ不致荒作手當米或ハ用捨引等ト唱ヘ御取箇帳ヘ組入差出候向モ有之甚不都合ノ事ニ候向後凶荒破免檢見入願出候節ハ坪刈檢查ノ上三分以上ノ損毛ニ候ハヽ相當ノ引方可申付候事

一　漸々養水ノ注疏ニ由リ田畑成畑田成本免下或ハ下方ノ都合ニ依リ田畑屋敷成等變轉願候節ハ都テ見分ノ上無餘儀次第ニ候ハヽ繪圖面相添伺濟ノ上御取箇帳ヘ組入差出候樣可致候事

右規則ニ遵ヒ獨裁專決ノ施行無之樣可致候事

抑モ當時ノ租稅制度ハ單ニ舊慣ヲ襲用シ各地區々ニシテ頗ル錯雜ヲ極メ曾ニ之カ取扱手續ノ煩シキノミナラス人民負擔ノ衡平均一ヲ得サルヲ以テ明治二年三年ノ間民部省ハ全國田積ヲ檢スルノ議ヲ起シ明治三年六月時ノ衆議院判官神田孝平ハ田租改革ニ關シテ建議スル所アリ從來行ハレタル檢地石盛ノ不完全ニシテ且檢見ノ弊害甚シキ所以ヲ辯明シ此積弊ヲ一掃セント欲セハ須ク田地ノ賣買ヲ許シ地券高ニ準シテ租稅ヲ賦課スヘキコトヲ論セリ

當時膳所藩モ亦地租ノ賦課徵收法ヲ均一ナラシメンコトヲ太政官ニ稟議シ太政官ハ之ヲ民部省ニ垂問セルヲ以テ同年七月五日同省ハ左ノ如ク答申セリ

膳所藩稟議セル地租ヲ均定ス可キノ垂問ヲ欽承ス抑モ地租ハ國家ノ經費ニ供給スル大本ト爲

スヘキ故ニ各衙署廳廨ノ基地及ヒ官用ノ土地ヲ除クノ外ハ寸壤尺土モ之ヲ賦課セサル可キノ理由有ルヘシ而シテ膳所藩ノ建議タル萬國公行ノ常理ニ悖ヒ至當ノ讜議ト謂フ可キナリ然ルニ方今諸藩ノ城郭第宅ハ或ハ官有地ニ屬シ或ハ私有地ニ屬シ其區分ノ劃一ナラス神祠佛刹ノ域地ヨリ華士族及ヒ卒ノ宅地ニ至ル迄總テ租稅ヲ賦課セサル例習ト爲ス之レニ加フルニ農商ノ宅地モ亦昔時其賦課ヲ蠲除スル者有リ或ハ近時之ヲ蠲除スル者有リ且ツ維新以後ト雖モ新タニ地租ヲ免除スル土地ノ在ル有リ畢竟地租ハ全國均一ノ賦課法ヲ制設スルニ非サレハ則チ其公平ヲ得セシム可カラス故ヲ以テ漸次ニ其方法ヲ創設ス可キナリ請フ膳所藩ノ建議ヲ聽納シ更ニ之ヲ推擴シテ其規則ヲ整備シ我省ニ稟候ス可キヲ指令シ別ニ特命ヲ我省ニ下タシテ全國地租ノ賦課法ヲ改正セシメヨ乃チ爰ニ省議ヲ對稟ス

此ノ如ク地租改正ニ關スル議漸ク世上ニ現ハルヽニ至リシモ地租ヲ改正シテ全國均一ノ賦課法ヲ定ムルコトハ事態重大ニシテ容易ニ斷行セラルヘキ事ニアラサルヲ以テ尙姑ク舊慣ニ仍ルヘトヽシ大藏省ハ先ニ明治三年正月差出方ヲ命シタル檢見規則ヲ定ム維新以前檢見ノ法固ヨリ備ハラサルニアラス然リト雖モ各地概ネ其法ヲ異ニシ隨テ寬苛輕重其趣ヲ一ニセス況ンヤ積習ノ餘弊言フヘカラサル要務タリ然レトモ檢地ナルモノハ從ヲ正シ檢見ヲ以テ租額ヲ定ムルハ田制ニ於テ缺クヘカラサルモノアリ且ツ夫レ檢地以テ田積ヲ紛紜ヲ生ス先轍既ニ然リ況ンヤ當時維新後日尙ホ來農民ノ嫌忌スル所ニシテ此擧アル毎ニ率ネ紛紜ヲ生ス先轍既ニ然リ況ンヤ當時維新後日尙ホ淺ク民信未タ厚カラス此時ニ當リ檢地ニ著手スルハ最モ策ノ得タルモノニアラサルヲ以テ先ツ舊慣ニ依リ三年乃至五年間檢見ヲ以テ登量ヲ試驗シ以テ均一ノ租率ヲ定ムルノ優レルニ如カス

是レ本法ヲ定ムルノ必要アル所以ナリ

田方檢見御取箇付之仕法去巳年ハ舊慣ニ仍取扱候儀之處各地異同モ有之成規難相立ニ付當年ヨリ左ノ通規則相定候條各地方取扱向右規則ニ照準シ不都合無之樣可致事

檢見規則

一 取箇付之儀ハ其年ノ豐凶ニヨリ可致確定重事ニ付各地方重官屹度吟味之上可相定候事

一 村々刈旬申出候ハヽ早々致出郷順序ヲ以テ取扱遷延ノ弊有之間敷事

一 檢見ハ一村之耕地ヲ熟覽平均シ坪刈登量ノ多寡ニヨリ取箇相定候儀ニ付不平均無之樣精密ニ行屆候タメ別紙雛形ノ通內見帳竝耕地繪圖面爲差出可申事

一 右繪圖面ヲ以前後之方嚮相定村役人同道ニテ建札ヲ爲讀地所字番號等內見帳ヘ照シ坪刈可取掛候事

一 坪刈ハ作方之模樣ヲ見分ケ熟穗上中下三等ニ相分チ村役人ヘ竿入爲取扱最モ官員附添可致指圖候併右三等ニテ難決候ハヽ上中下之內一等二等之增竿入可致坪刈帳ハ別紙雛形之通可相心得事

一 刈坪古檢ハ六尺五寸中檢ハ六尺三寸新檢ハ六尺一分何レモ其地方ノ舊法ニヨリ畔際三尺除稻株二方付之法ヲ以無偏頗可致竿入候事

一 右竿入相濟候ハヽ小前之者ヲ還爲刈取落穗無之樣相改筵ニ包封印致シ村役人宅又ハ社寺等ニテ舂方可致候事

一 舂方之節廻シハ重立候村役人ニ爲取扱其他村役人小前總代ニ爲見屆登量穀野帳ヱ記シ押印可爲致候事

一 內見帳ノ內皆無ニ書載差出候分相改立毛有之候ハヽ坪刈之上相當之取箇付致候事

一 干缺之儀ハ二割減ヲ以目的ニ可相立取箇付假仕出ハ別紙可爲雛形之通候事

一 登量石數ハ可爲五公五民候事

一 取箇付相濟候ハヽ早々村々ヘ免狀可相渡候事

一 檢見濟歸著ノ日ヨリ凡四十日以內ニ取箇帳可差出候事

一 從當午年爾來年々鄕村高前年ニ比較致シ增減有之候ハヽ其譯柄總寄ヱ下ケ紙ヲ以テ書載可致候事

右之通相定候間可致確守候事

（別紙雛形）

內見帳

何國何郡

何村

高何程

此段別何程

內譯

畑高何程

此段別何程

田高何程
此段別何程
高何程
此段別何程
高何程
內 此段別何程
高何程
此段別何程
小以高何程
此段別何程
殘高何程
此段別何程
此小前

壹番 字何
一 上田何段歩
内見上毛
貳番 字何
一 中田何畝歩

年々引
連々引
取下定取

田主 誰

内見中毛
三番 字何
一 下田何畝歩
内見下毛
四番 字何
一 下々田何畝歩
内見仕附荒
五番 字何
一 見付田何畝歩
内見不作

以下倣之
但作柄ニ應シ下ノ下ト別ヲ可立右寄

田主 誰

高何程
上田何町何段歩
内 何段歩 何段歩 何段歩
高何程
中田何町何段歩

上毛 中毛 下毛 仕付荒
十五
十三

內 何段步 何段步 何段步 何段步 上毛 中毛 下毛 不作

高何程 十

下田何町何段步

內 何段步 何段步 何段步 中毛 下毛 仕付荒

高何程 七

下々田何町何段步

內 何段步 何段步 何段步 上毛 下毛 仕付荒

高何程 五

見付田何段步

內 何段步 何段步 中毛 下毛

右毛揃

何町何段步 上毛

何町何段步 中毛

何町何段步 下毛

合毛付段別何町何段步

外何町何段步 皆無

內 何段步 何段步 仕付荒 不刈

右者當支田方御檢見ニ付村役人田主立會內見仕候處書面之通御座候尤田每字番附內見仕付認候畝札竝隣村境ヘハ葉竹建置紛敷儀無之樣仕候以上

支 何 月

右村 百姓代 誰 印

組頭歟 年寄歟 誰 印

名主歟 庄屋歟 誰 印

何御役所

新田段高見取場等傚之

坪刈帳

私共村々當田方爲御檢見被成御越村役人田主罷出御案內仕一筆限巨細御見分之上坪刈御樣被成候處出合左ノ通相違無御座候於然者右出合ヲ以御取箇被 仰付願筋且御改方ニ付御非分之儀無御座候以上

壹番 字何

舊主 誰 印

一 上田何畝步

內見上毛 稻草何 何株

改何合

貳番字何

一 中田何畝歩

內見仕付荒 稻草何 何株

改何合

田主 誰 印

但改方之儀者立毛朝露ヲ請又ハ雨天等ニテ籾拵充分ナラサレハ升廻シ斟酌勘辨可有之事

外傚之

何月幾日

百姓代 誰 印

組頭歟 年寄歟 誰 印

名主歟 庄屋歟 誰 印

何御役所

御取箇假仕出

何國何郡

何村

段別一町八段二畝歩ノ內

一 毛附段別一町三段八畝二十一歩

此籾二十九石九斗五升九合二勺

△段別四段三畝九歩

引戻シ二段歩

此籾一石四斗四升

△支米七石八斗三升二合

合籾三十一石三斗九升九合二勺

此米七石八斗五升

內一升八合

外米二斗

取合米八石五升

（△印ハ朱書）

△上一升二合 △下六合

△中九合 △平均

正九合△千欠二割引

刈出七合二勺

正三合△二割引

刈出二合四勺

反米四斗九升五合內

去支增

取下定取

以上ノ如ク檢見法ヲ改定セシト雖モ尙新タニ御料ニ歸シタル諸藩及舊幕旗下ノ領地ニ於ケル地租ハ或ハ檢見法ヲ以テシ或ハ舊領地ノ標準ニ據リ之ヲ定ムル等其申出ニ依リ便宜區々ノ處置ニ出テタルヲ以テ村民ノ疑惑ヲ招クニ至リシヲ以テ同年八月二十四日數年間檢見ノ上其租率ヲ定ムルコトヽシテ左ノ如ク令セリ

諸縣支配地之內諸藩及舊幕旗下上地村々去巳年檢見之上取箇取極又ハ私領引付等依申立取計候分モ有之候得共畢竟是迄取租ノ法不一定所ヨリ村民狐疑ヲ抱不都合之場合ニ立至候間當午

年ヨリ兩三年乃至四五箇年致檢見豐凶平均地味厚薄熟知無偏頗定免辻取極右ヲ目的ニ相立伺出可申候事

但府縣調方一定不相成候テハ不都合ニ候間隣接地方官エ申合取計可申候事

曩ニ民部省ハ全國地租ヲ改正シテ之ヲ均一ナラシムヘキコトヲ太政官ニ稟議セシモ爾來未タ決スル所アラサルヲ以テ明治三年閏十月二十二日重ネテ之ヲ太政官ニ建議セリ

本年七月膳所藩其ノ管轄內ノ地租ヲ均定ス可キヲ稟議シ貴官之ヲ我省ニ垂問シ我省對議スルニ宜シク併セテ全國內ノ地租賦收法ヲ改定スル命令ヲ我省ニ下ス可キヲ以テセリ然ルニ未タ其ノ裁令ヲ得ス爾來各地方ニ於テ廳廨官邸鄕倉等ノ官有ニ屬スル者ヲ建造スルニ有リテ其ノ基地ノ租額ハ高內引法ヲ以テ之ヲ蠲除スルヲ稟請スル者間々多シ蓋シ從前各藩ノ城郭知事ノ邸宅ニ係ル基地ハ或ハ之ヲ公有地ニ屬シ或ハ之ヲ私有地ニ屬スル等其ノ區分畫一ナラス神社佛寺ノ域地、華族、士族ノ邸地ノ如キモ亦タ一般ニ除租地ニ屬シ農商ノ宅地ト雖モ往々ニ地租ヲ蠲除スル者有リ且ツヤ京都府下ノ市街ハ維新以後更ニ其ノ地子卽チ宅地沽券稅ヲ蠲除セリ故ニ無租ノ土地益〻多ク其ノ課收法モ亦タ公均ナラス自今以後府藩縣ノ廳廨等ヲ創造スル基地ヲシテ悉ク除租ニ屬セシメハ則チ全國ノ歲入額隨ツテ減少シ大ヒニ財政ノ贏縮ニ關セントス因ツテ時勢ヲ酌量シ漸次ニ畫一ノ制度ヲ立定スル有ルニ非サレハ則チ目下ノ處分ト雖モ亦タ支障スル無キナラス因テ請フ迅速ニ前日ノ稟議ヲ裁下スルヲ

此ニ於テ翌四年二月十八日太政官ハ之ヲ裁令シ大藏省ト協議シテ査定スル所アラシム

殊ニ各藩ノ租稅法ハ從來封土ノ異ナル每ニ率ネ之ヲ區々ニシ且種々ノ名義ヲ以テ適宜ノ賦課ヲ

ナスモノ等アリテ啻ニ煩累複雜ナルノミナラス之ヲ幕府直轄地ニ比スレハ却テ負擔ノ重キモノアリタリ然レトモ說法ヲ改革增減スルコトハ民心ノ向背ニ關スル至重ノ事項ナルニ因リ明治四年正月二十五日太政官ハ「租稅ハ建國ノ基本ニシテ民心ノ向背ニ關係候至重ノ事件ニ付追テ海內一般ノ法則可被相定候間藩々ニ於テ新ニ改革增減等ノ儀總テ伺ノ上可取計事」ト達シ以テ輕忽ニ其擧行ヲ許サヽルコトヽシ更ニ同年四月三日大藏省ハ翌五年以後ノ地租ニシテ新ニ定免ヲ出願スルモノ及ヒ既往定免年季ヲ付シタルモノニシテ本年滿季トナリ翌五年ヨリ尙定免ノ繼續ヲ請フモノニ對スル伺屆ノ書式ヲ一定セリ

何國何郡何村干支

新規定免伺
定免切替御屆

何府縣

何ヨリ何マテ何箇年季明

當何ヨリ何マテ何箇年季定免願

一 段別何程

段別

此高

內

段別

何國何郡

何村

年々引

此高
小以段別
此高
殘段別
此高
此貢米
內米
內米米
內米米米
此譯
田段別
此高
段別
此高
內
段別
此高
小以段別
此高

連々引

段米
高免
毛付免
增
定免切換增
本免入增
何々增

年々引

連々引

殘段別
此高
此貢米
內米
內米米
內
段別
此高
此貢米
段別
此高
此貢米
段別
此高
此貢米
畑段別
此高
段別

段米
高免
毛付免
增
定免切換增
本免入增
何々增

本田
段米
免

何々新田
段米
免

取下
段米
免

此高
內
段別
此高
小以段別
此高
殘段別
此高
此貢米
內米
內米
段別
此高
此貢米
段別
此高
此貢米
段別
年々引
連々引
段米
高免
毛付免
增
本免入增
何々增
本畑
段米
免
新畑
段米
免
何々
取下

此高
此貢米
但新規定免ノ分ハ此處ヘ前二十箇年增減差引ヲ付ケ可申減米相立候分ハ其譯下ケ札ニ可申立候事
一切換ノ分ニテモ元年季ヨリ年季ヲ延シ又ハ切換增無之分ハ相伺可申事
右ハ支配地村々干支新規定免切換一村限書面之通ニ御座候也
府縣　印
干支月
右雛形ニ倣ヒ來申年以來切換竝ニ新規定免ノ分共取調尤同年季ノ分ハ總寄ニテ一村限帳相添參テ相達候期限通差出可申事
新規定免竝ニ切換ニテモ元年季ヨリ年季ヲ延シ又ハ切換增無之分同年季ヲ組合何村外何箇村ト致シ合段別高諸引殘段別高取米等巨細ニ相認奥文言ヲ付ケ前二十箇年差引尤一村限帳ヘモ同斷二十箇年差引ヲ付ケ箇相添可相伺事
一　定免切換相當ノ增米致シ元年季ニ振置候分モ同年季ヲ組合前同斷相認奥文言ヲ付ケ一村限帳相添可相伺事
當時舊幕府ノ遺法ニヨリ正租ノ外口米永及出目米延米等ノ附加稅アリ蓋シ口米トハ胥吏ノ俸給筆墨紙等ノ費用ニ充テ出目米等ハ正租ノ缺減ヲ補フモノニシテ畢竟重斂タルヲ以テ明治四年三月民部大丞松方正義黨民處分ノタメ岩代國福島縣ニ在ルヤ書ヲ上リ斷然此等ノ賦課ヲ廢止シ朝

廷ハ億兆ニ對スル愛護賑恤ノ本旨ヲ實ニス可キコトヲ建議ス

府縣租稅ノ項中彼ノ口永延米出目米等ノ課稅ハ輓近幕府ノ施行セシ稅則ニ因襲シテ之ヲ徵收ス然ルニ此等ノ課科タル諸國各地一樣ニ出テス究竟適宜ニ徵收スル者ノミ本ト是レ小物成浮役ノ如キ課科ト異ナルカ故ニ重斂ヲ以テ目セサルヲ得ス或ハ曰ハン此ニ類スル課科ハ舊慣法中尙ホ多ク之レ有リ而シテ今日廢除スル能ハサルハ財政未タ立タス稅法未タ定マラス國家百般ノ用途ノ支ヘサルニ是レ由ル宜シク其ノ廢除ノ期ヲ緩クシ歲入歲出ノ大體ヲ定メ國用度支ノ目途ヲ立ルヲ待チ始テ之ヲ廢除スヘシト正義謂ク彼ノ雜稅ノ如キ舉テ廢除ニ付スルモ不可ナル無シ況ンヤ其徵收額ノ僅々數萬兩ニ上ラス而モ名義ノ重斂ニ涉ルノ嫌ヒ有ル課科ヲヤ且ツ此等ノ課科ハ各藩スラ尙ホ已ニ廢除セル者有リ然ルニ我カ政府ノ施治既ニ四年ニ亘リ而シテ未タ廢除スル能ハス人必ス言ハン是レ稅則ヲ釐正スルノ宜シキヲ得サルニ由ルト夫レ王政ノ本旨ハ斯ノ民ノ束縛ヲ解キ之ヲ塗炭ニ救フニ在リ維新以來聖上萬揆ヲ親裁シ朝廷淸明ナリ故ニ億兆生黎ノ治化ヲ待ツ大旱ニ雲霓ヲ望ム如ク愛護賑恤ノ施設ヲ旦夕ニ仰キ欣抃歡舞セサル莫シ然ルニ此際偶〻下ニ紓ヘス上ニ漁スルノ弊竇ヲ啓ク有リ民心爲メニ危疑ス客歲以來奸民屬〻此機ニ乘シテ煽惑ヲ逞クシ眞民爲メニ大法ニ觸レ嚴刑ニ罹ル有リ而シテ此輩ノ口實ト爲スヲ得スト言フニ出テス正義竊ニ恐ル彼ノ得テ以テ此ノ所ハ重斂苛課ニ苦ミ生命ヲ旦夕ニ延クヲ得テ以テ此ノ失ヲ償ハサルヲ因テ思フニ士農工商ノ四民ニ對シ一般ニ租稅ヲ賦課シ以テ全國ヲ護守スル費用ニ供セントスルノ官旨ハ亦能ク之ヲ眞解ス然リト雖モ其ノ方法ヲ確定シテ之ヲ實地ニ施行スルニ至ルマテ宜シク各衙ノ重官ト各藩ノ貴族トノ俸祿ヲ改定シ勅任官ハ官祿ノ幾分ヲ減シ

知藩事ハ家祿二萬石以上ニ若干ヲ殺キ以テ國費幾分ノ供備ヲ之ニ取リ斷然口永延米出目米ノ如キ課科ヲ廢除スヘシ蓋シ撫字ノ要訣ハ課科ヲ輕減シテ民人ノ勞苦ヲ紓クシ且ツ惰農ヲ懲シ眞農ヲ奬ムルニ在リ實ニ今日ノ急務ニシテ正義ノ深ク政府ニ望ム所トス然ルニ慣行スル安石代ノ如キ弊習ノ租法ヲ釐正スルヲ要ス正義ノ見ル所是ノ如シ夫廣ク海外各邦ノ租稅課法ヲ酌取シテ我カ全國ノ租稅課法ヲ確定シ堅守牢持シテ撓マス倦マス小民細氓ノ瞽々ヲ顧ミス以テ畫一ノ施設ヲ謀ルニ至テハ正義別ニ意見ノ在ル有リ將サニ異日ヲ以テ陳明セントス

次テ四年五月十三日民部省ハ全國ノ租稅賦課方法ヲ改革セントノ太政官ノ垂問ニ對シテ稟議スル所アリ其要旨ニ曰ク社寺ノ領地ハ之ヲ還納セシメ本年以降ハ官有地ニ準シ其租稅ヲ徵收スヘキヲ令セリ然ルニ此等領地ハ今ヤ其負擔頗ル輕キニ拘ラス此令アルハ會〻以テ庶民ノ怨ヲ招クニ過キス抑モ租稅ハ之カ負擔ノ均一ヲ期セサルヘカラス從テ根本的革新ヲ要ス而シテ徒ラニ小改革ヲ施シ一時ノ安ヲ欲センヨリハ寧ロ他日一定ノ制度ヲ確立スルニ至ルマテ總テ舊慣ニ準據スルニ如カサルナリト此ニ於テ翌十四日太政官ハ之ヲ大藏省ニ垂問シ同月晦日大藏省之カ對議ヲナシテ曰ク民部省ノ主旨タルヤ全國一般ニ稅法ヲ革ムルニアリト雖モ此事タルヤ頗ル至難ニシテ輕シク施行セハ其患ヤ實ニ測ルヘカラサルモノアリ故ニ今ノ時ニ當リテハ先ツ舊法ノ弊害最モ甚シキモノヨリ逐次之ヲ改正シ以テ徐ニ之カ革新ヲ謀ルヘキナリ而シテ舊社寺ノ領地ノミ之ヲ不問ニ措カハ負擔ノ公平ヲ失ヒ其弊ヤ知ルヘカラス故ニ宜ク府縣同樣ノ取扱ヲナスヘシ唯已ムヲ得サル事情アルモノニ限リ民部省ニ協議シ之カ實施ヲ延期セント

民部省稟議ニ曰ク神社佛寺ノ領有セル除地ハ一般ニ還納セシメテ之ヲ府藩縣所屬トシ而シテ

庚午年額ノ租稅ハ舊ニ仍リ神社佛寺ニ收入セシメ本年以後ハ官有地ニ準視シテ其租稅ヲ官府ニ徵收シ各藩ニ屬スル者ハ口米口永ヲ下付シテ諸般ノ費用ニ充テ每年納租期限ニ照ラシ其ノ租稅ヲ納完セシム可キヲ大藏省ニ協議シ貴官ニ稟申シテ旣ニ已ニ之ヲ公布セリ然ルニ尙ホ更ニ熟案スルニ舊來慣行ノ租稅法タル各地殊異一轍ニ歸セス今ヤ大政維新ノ日ニ際ス宜ク公平均一ニ之レヲ改正スヘシ然リト雖モ神社佛寺ノ領有地ハ本來幕府臣僚ノ食邑采地ニ同シカラスシテ助鄕役夫ノ如キモ總テ之ヲ蠲除セリ故ニ他ノ村里ニ比較スレハ則チ課役甚稀少ナリ今若シ除地ヲ官有地ノ例規ニ準擬スルモ亦是レ一時苟且ノ處置ニシテ曾ニ永遠ニ施行ス可カラサルノミナラス或ハ反テ民庶ノ怨嗟ヲ招カントス夫レ稅法ノ平均ナルヲ尙フハ固ト論ヲ待タスト雖モ本邦ノ財賦ハ獨リ農民ノ負擔スル所ト爲リ士及ヒ商工ノ如キハ分毫モ租稅ヲ納ル無ク而シテ政府ノ保護ヲ受ク是レ同一人民ニシテ其勞佚ノ懸隔スル斯ノ如ク其レ甚シキニ至ラシム宜ク當サニ大ニ舊制ヲ釐革シ重ヲ減シ輕ヲ增シ以テ天下ノ民產ヲシテ平均ヲ得セシムヘキナリ蓋シ改革ヲ施行スルニ臨ミテハ一時或ハ民心ヲ搖撼スルノ患慮無キヲ保セサルモ國家經綸ノ大基礎ハ斷乎之レヲ立定セサル可カラス但苟且ノ小改革ヲ爲シ徒ラニ紛擾ヲ招クハ亦輕重ノ辨ヲ失スル者ト謂フ可キナリ若カン日後一定ノ稅則ヲ立ツルマテ總テ舊慣ニ仍シメンニハ諸藩ノ內地ノ如キモ亦將サニ大概之レニ準セシメントス請フ之ヲ大藏省ニ下問シ若シ異議ノ在ル無ケレハ則チ直チニ地方廳ニ布令スルヲ

大藏省對議（租稅司立案）ニ曰ク下問ノ事宜ヲ審案スルニ民部省ノ論旨ハ大抵卑近ヲ舍ケ遠大ヲ圖リ以テ全國一般ニ租稅法ヲ釐革スルヲ其ノ目的トナセリ然リト雖モ租稅法ヲ變更スルニハ古今

ノ沿革ヲ斟酌シ將來ノ得失ヲ推究シ及ヒ施設ノ便否經費ノ多少民情ノ好惡物產ノ盛衰等ニ至ルマテ明詳ニ查量シ而ル後ニ此ニ從事ス可キ者ナリ若シ然ル能ハスシテ卒爾ニ擧行セハ則チ必ス不測ノ患害ヲ釀成セントス是レ實ニ國家隆替ノ由ル所人民安否ノ繫ル所ナルヲ以テ級ヲ逐ヒ敍ニ順ヒ大ニ改正ヲ加フ可ク且ツ廣ク各外國ノ例制方規ヲ參酌折衷スルニ非サレハ則チ我カ今日ノ實際ニ適合スル不易ノ眞法ヲ立ツルヲ得可カラス故ニ我省向キニ稅務ニ練達セル學士ヲ米利堅ヨリ聘致ス可キヲ貴官ニ稟請シ漸次ニ改正ニ著手セントスルモ元來至重至難ノ大事業ニシテ幾多ノ歲月ヲ積ムニ非サルヨリハ得テ整頓ヲ期ス可カラス是ヲ以テ目今ニ在リテハ諸般ノ租稅法ノ其甚タ公均ヲ失シ或ハ得失ニ關シテ一日モ措閣ス可カラサル者ヨリシテ臨機權宜ノ改革ヲ施行セリ是レ所謂一層ヨリ一層ニ進ムノ理ニシテ卽チ逐次改正ヲ施行スルノ階梯ト爲ス故ニ己巳年ヨリ以來舊慣法ノ弊害最モ多キ者ヲ釐革シ其餘ハ姑ク舊幕府ノ成例ニ沿仍シテ田租ハ之ヲ五公五民ノ法ニ取リ石額ニ賦スル雜課ハ三役ヲ除クノ外彼ノ夫役ノ類ノ數種ヲ廢罷シ而シテ此ノ措置ヲ府縣並ト稱シ以テ諸藩ノ封地及ヒ幕府臣僚ノ采邑ヲ還納セシメ卽チ村ノ租稅ヲ釐革シ稍ク齊一ニ歸セシメタリ然ルニ今日ニ於テ特ニ神社佛寺ノ納地ノミ因循シテ不同ニ舍カハ轉タ開進ノ路ヲ杜キ且ツ一府縣內ノ民租ニ輕重ヲ存セシメ政令岐分シテ民心益〻狐疑ヲ懷キ却ツテ遂ニ言フ可カラサルノ大害ヲ釀成スルモ亦未タ知ル可カラス且ツ從前諸役ヲ蠲除セル地所ハ獨リ神社佛寺ノ領有地ノミニ止ラス皇華二族ノ食邑ノ如キ元年以後助鄕役夫ヲ課發セル的例ノ在ル有リ因テ思フ日後大ニ租稅法ヲ改正スルニ至ルマテ神社佛寺ノ納地ハ宜ク府縣並ノ措置ヲ施行シ若シ別ニ情由有リテ遽ニ改正ヲ如フ可カラサル爲メニ

展期ヲ申請スル者卽次ニ民部省ニ協議シ稟准ヲ經テ以テ之ヲ處分セン

明治四年七月十四日藩ヲ廢シ縣ヲ置クノ詔アリ

朕惟フニ更始ノ時ニ際シ內以テ億兆ヲ保安シ外以テ萬國ト對峙セント欲セハ宜ク名實相副ヒ政令一ニ歸セシムヘシ朕曩ニ諸藩版籍奉還ノ議ヲ聽納シ新ニ知藩事ヲ命シ各其職ヲ奉セシム然ルニ數百年因襲ノ久キ或ハ其名アリテ其實擧ラサル者アリ何ヲ以テ億兆ヲ保安シ萬國ト對峙スルヲ得ンヤ朕深ク之ヲ慨ス仍テ今更ニ藩ヲ廢シ縣ト爲ス是務テ冗ヲ去リ簡ニ就キ有名無實ノ弊ヲ除キ政令多岐ノ憂無ラシメントス汝群臣其レ朕カ意ヲ體セヨ

是ニ於テ全國悉ク朝廷ノ直轄ニ歸シ始メテ政令一途ニ出ツルニ至リ租稅ノ如キモ全國劃一ノ制ヲ布クヲ得ルニ至リシト雖モ因襲ノ久シキ一朝ニシテ之ヲ改ムルトキハ却テ民情ニ悖ルノ虞アルヲ以テ同月二十四日太政官ハ第三百六十七號布告ヲ以テ「今般藩ヲ廢シ縣ヲ被置候ニ付テハ租稅ノ儀一般ノ法則ニ可引直ノ處因襲ノ久キ一時ニ引直候テハ却テ民情ニ悖リ候義モ可有之ニ付當未年ハ悉皆舊慣ニ仍リ可申尤是迄取扱來リ候方法竝雜稅ノ名義區別等詳細取調來ル申年三月中迄ニ可伺出候事」ト令シ明治四年ハ姑ク舊慣ニ仍リ租稅ヲ徵收セリ

是ヨリ先キ地租改正ノ議漸ク起リ神田孝平先ツ土地ノ賣買ヲ許シ地券分一ノ制ヲ實行スヘキコトヲ建議セルコト既ニ述フルカ如シ而シテ廢藩置縣ノ大命ヲ下シ兵食ノ大權全ク朝廷ニ服シ從テ一國財政經綸ノ籌圖ヲ大藏省ニ委スルニ及ヒ四年九月大藏卿大久保利通及大藏大輔井上馨ハ地所賣買放禁分一收稅法施設之儀」ニ付正院ニ稟議スル所アリタリ

地所賣買放禁分一收稅法施設之儀正院伺

稅法ハ治民ノ要務ニシテ理財會計ノ基本ナリ其當否ニヨリ邦國ノ隆替人民ノ盛衰ニ關渉シ至大至重ノ要件タル今更喋々論辯ヲ不竢抑〻皇國中古以降ノ慣行ナル稅則ハ戰國ノ遺法ニシテ妥當ヲ得サルモノ多シ旣ニ地ニ石高アリ貫高アリ東高アリ無高アリ無段別アリ稅ニ檢見法アリ定免法アリ五公五民モ名有テ其實大ニ不同アリ其他雜稅等ニ至テハ千差萬別枚擧ニ不遑加フルニ割據ノ陋習比鄰法ヲ異ニシ農民苛酷ニ苦シムコト久シ今ヤ政權一ニ朝廷ニ歸シ凡百ノ政務齊一ノ際治國ノ樞要タル稅法ニ於ケル均一ノ法則ヲ設ケサルヘカラス茲ニ於テ古來ノ沿革當今ノ形勢內外ノ制規等夫々探討考覈審議細案仕候處斷然從前ノ方法ヲ廢棄シ一般ニ地所ノ賣買ヲ許シ更ニ地代金分一ノ收稅法ヲ施設スルニ如カス此法ヲ設ルトキハ第一耕作地ノ廣狹地味ノ善惡秋毛ノ熟否等檢查ノ煩勞ヲ省キ前ニ陳述スル數件ノ錯雜ヲ一掃シ年來ノ通患一朝ニ氷解シ前日偏頗ノ田租稍〻平準ヲ得テ億兆ノ農民一樣ノ恩澤ニ浴センコト實ニ此方法ニアリ最モ新法ハ速成ヲ戒ム其施行ノ順序ニ至テハ許多ノ法則更張無之テハ難相成殊ニ從前地代金ノ高低ハ當ニ地味ノ肥瘠耳ニ不拘多クハ貢租ノ多寡等ニ因レリ然ルニ一時ニ之ヲ釐革スルトキハ均一ヲ需メテ却テ不公平ヲ釀シ實際ニ於テ扞挌ノ憂無之トモ難申故ニ時勢人情ヲ揣リ逐次施行シ先ツ以テ地所永代賣買ヲ許シ各所持地ノ沽券ヲ改メ全國地代金ノ惣額ヲ點檢シ而後更ニ簡易ノ收稅法ヲ設ケ豫シメ弊害ヲ防キ民ニ示スニ毫モ疑ヲ容レサル盡一ノ條令ヲ以テセハ永世不拔ノ眞法ト奉存候間御制可ヲ蒙リ候ハヽ追々取調可伺出先以改革ノ順序御布告條目案相添此段奉伺候也

而シテ租稅權頭松方正義亦地租ノ改正ヲ急務トシ租稅寮中ノ吏員ト商量シ從來ノ制度ヲ改正シ

第一田畑作物ノ自由ヲ地主ニ附與ス第二田畑永遠賣買ノ自由ヲ地主ニ允許ス第三穀物ヲ海外ニ輸出シ若クハ輸入スルノ自由ヲ人民ニ公認ス第四全國ノ田宅山林ノ地積ヲ檢査ス第五一般ニ地價ノ程度ヲ調査ス第六土地ノ賣買價格ニ隨テ其租額ヲ賦課ス第七全國一般ニ地券ヲ發行スト(第二款參照)ノ議ヲ決シ大藏卿大久保利通ニ之ヲ開陳セリ

此ニ於テ頭ノ意見ニ基キ明治四年十一月大藏大輔井上馨大藏少輔吉田清成ハ內國稅法改正見込ヲ正院ニ上申シ從來施行シ來レル田租ハ今俄ニ之ヲ廢シ難キヲ以テ先ツ土地賣買ノ禁ヲ解キ地券稅法ヲ設ケ且物產ヲ興シ工藝ヲ勸メ保護政策ニヨリテ輸出ノ盛大ヲ謀リ其他內國租法ノ平準ニヨリテ農民貢租ノ偏重ヲ除キ以テ下ニハ負擔偏倚ノ弊ナク上ニハ歲入增加ノ利アラシムヘキヲ論述セリ

內國稅法改正見込正院へ上申

夫レ皇國ノ稅法ニ於ケル往古ハ兵農不分賦稅無別中古ニ至リ政權武門ニ移リ封建ノ制行ハレシニ依リ兵農全ク分レ比隣法ヲ異ニシ農民特リ其重歛ニ苦シムコト久シ今ヤ皇威煥發郡縣ノ體裁ニ歸シ百政濟一ノ際經國ノ樞機理財會計ノ基本タル稅法ヲ更張セサル可ラス抑モ租稅ハ人民保護ノ要具タレハ之ヲ出サシムルヤ上下均一貧富公平ヲ旨トス而シテ稅法ヲ施設スルニ當テヤ特リ地ヲ耕ヤシ力ヲ勞スル者ニ課スルニアラスシテ物品ヲ費ス者ヨリ出サシメ有用品ニ薄クシ無用品ニ重クスルヲ以テ普通ノ公理トス然リト雖モ從來田租ヲ主トシテ五公五民坪取ノ法ノ如キ今俄ニ之ヲ廢セントセハ因襲ノ久シキ旣ニ人心ニ固結シ一時ニ釐革シ難シ故ニ先ツ地所賣買ノ禁ヲ解キ地券ノ稅法ヲ施設シ或ハ物品稅印稅等ヲ起シ其實

擧ルニ從テ一般土地ノ稅ヲ薄クシ以テ生產ノ增殖ヲ勸メ或ハ專賣特許ノ稅ヲ設ケ以テ人ノ智識ヲ開キ百工ヲ奬勵シ以テ人工品ノ增殖ヲ誘導スルトキハ內地ノ物品繁殖シテ國用以テ豐足スヘシ加之全國ノ地宜ニ應スル物產ヲ育シ邦俗ニ適スル工藝ヲ開キ其稅ヲ權衡シ海外ニ輸出シ然シテ我國不足ノ物品ト交易シ海關保護稅ノ活用ヲ以テ內地ノ物品輸出ノ利害ヲ去就シ海外ヨリ輸入ノ物品ヲ計較シ其得失ニ從ヒ之カ稅額ヲ輕重シ常ニ輸出ノ物品ヲシテ輸入ノ物品ヨリ數倍セシムル事ニ注意シ以テ之カ稅法ヲ設クルトキハ海外ニ對シテ許多ノ利益ヲ得ヘシ尤モ內地ニ於テハ稅法ニ平準ヲ極メ農民貢租ノ偏重ハ漸次消却シ至當公平ヲ得ルニ至リ始メテ下ニ偏重偏輕ノ弊害ナク上ニハ年ヲ逐フテ歲入ノ利ヲ增シ實ニ稅法ノ要機ニシテ今日ノ急務ナリ聊カ微衷ヲ記シテ謹ンテ公評ヲ乞フ

正院仍チ大藏省ノ議ヲ採納シ其施設ノ方法ヲ詳細審査セシム會ヽ此歲特命全權大使ヲ歐米ニ派遣シ大久保大藏卿其副使ニ膺ル依テ大輔井上馨卿ニ代リテ省務ヲ掌理シ租稅權頭松方正義ト改租施設ノ方法ヲ商議シ地券法ヲ創定セリ此ニ於テ明治三年六月神田孝平ノ建議以來朝野ノ問題タリシ地租ヲ改正シ地券分一ニヨルノ議ハ今ヤ方ニ實行ノ機運ニ際會セリト謂フヘシ仍テ明治四年十二月二十七日太政官ハ「東京府下從來武家地町地ノ稱有之候處自今相廢シ一般地券發行地租上納被仰付候條此旨可相心得事」ト布告シ同五年正月地券發行地租收納規則ヲ發布シ從來地子免除ノ地タリシ東京市街ニ地券ヲ發行シ分一ノ稅法ヲ施行スルコトヽ爲セリ今左ニ其規則ノ大意及全文ヲ示サン

一　地券　從來ノ武家地等ニシテ官ニ收メシモノハ之ヲ拂下ケ而シテ一般土地所有者ニ地券

ヲ交付シテ其證トシ兼テ課稅ノ標準トス

二　地價　地券ニ記載スヘキ地價ハ土地ノ拂下代價又ハ近傍ニ於ケル土地ノ價格ニヨルモノトス而シテ受券者ノ申立價格ニシテ低廉ナルトキハ之ヲ增價セシメ若シ從ハサレハ競賣方法ニヨリ其土地ヲ他人ニ讓與セシム但シ所有者ニシテ之ヲ拒ムトキハ競落ノ價ヲ以テ地券金額ト定ム

三　地租　地租ハ地券金額ノ百分ノ二ヲ以テ其率トシ外ニ廳費トシテ稅金壹圓ニ付參錢ヲ賦課ス而シテ此等ノ課率ハ時ノ實況ニヨリテ之ヲ高低スルモノトス（後五年四月地租ヲ地價ノ百分ノ一ニ改ム）

東京府へ

其府下從前武家地町地ノ稱有之候處自今相廢シ一般地券發行地租收入ノ儀被　仰出候ニ付別紙規則書ニ照準取計可申事

（別紙）地券發行地租收納規則

第一　自今地券ヲ發行スルカ爲メ所轄廳ニ於テ別ニ記錄局ヲ設ケ相當ノ官員ヲ備ヘ置キ地券ニ係ル事務一切ヲ司ラシムヘシ

第二　東京中各大區ヲ以テ分界シ其大區ノ一小區毎ニ地界ヲ正シ精密ナル地圖ヲ製シ毎分區ニ番號ヲ附置可申事

第三　武家地ノ儀ハ從來ノ賜邸竝ニ諸縣ノ上地開墾地等入交リ境界坪數判然セサルニ付先上地跡ノ坪數ヲ點檢シ入札拂イタシ落札ノ金高ヲ以テ地券ヲ定新規ノ持主ヘ可相渡事

第四　賜邸ノ分ハ更ニ地代金ヲ取立スト雖モ其坪數ヲ改メ其近傍拂地代等ニ比較シ地券高取極メ上納可爲致事

低價標準

一　上等	千坪ニ付	金二拾五圓
一　中等	同斷ニ付	金二拾圓
一　下等	同斷ニ付	金拾五圓

第五　從來貸附地ノ分ハ其坪數ヲ點檢シ是迄ノ拜借人ヘ低價ヲ以テ可拂下筈ニ付地位ヲ上中下ノ三等ニ分チ左ノ低價標準ヲ以テ拂下代金高取極メ上納可爲致事

一拜借地ハ低價ヲ以テ拂下ケ遣スト雖モ比隣ノ地券金高ト格別相違アル時ハ以後稅金等ノ割合ニ不公平ヲ相生シ可申候間實地拂直段ニ拘ハラス比隣ニ比較シ的當ノ地券金相定メ下ケ渡スヘキ事

第六　總テ拂下ケ地代金ハ地券相渡候節一時上納可爲致事

第七　華士族卒賜邸竝現住ノ拜借地ノ外更ニ他ノ地所ヲ御拂下ケ願フ者ハ總テ公ノ入札法ヲ用ユヘキ事

第八　從來ノ沽券地ハ區號町名番號所持主名面竝ニ地所坪數沽券高等巨細ニ爲申立更ニ實地的當ノ地券金高取極メ可相渡事

但地價ノ的當ヲ欲スルカ爲ニ持主ヨリ舊沽券ニ拘ハラス其土地現今相應ノ代價ヲ爲書出申スヘシ自然不都合ノ代價ヲ書出スルモノアラハ第十三條ノ如ク所置スヘシ

第九　是マテ開墾地ノ名目ニ相成居候トモ現今市街ノ景況ニ相成候歟或ハ家宅取建候類ハ其

近傍ノ地所ニ照準シ相當ノ地價ヲ定地券相渡可申事

但如此地價ヲ改ムル時ハ最前相納メ候金高ト新規相渡候地券金高トノ間金ハ上納不及候事

第十　地券ハ別紙雛形ノ通リ本紙竝ニ控トモ二枚ヲ書シテ本紙ハ地主ニ與ヘ控ハ記錄局ノ綴込ト爲シ置可申事（雛形略ス）

第十一　地券發行帳ヲ製シ地券ノ廉書ヲ認メ置キ是ヲ大帳ト定メ年々ノ地租モ此大帳ニ照シテ收納可致事

右ノ大帳ハ二通リ製シ一通ハ大藏省ヘ差出シ置キ可申且讓渡シ質流其外等ニテ書替候分ハ一箇年取マトメ同省ヘ可相屆事

第十二　質入ノ地面流込トナルカ或ハ他人ヘ賣渡候ニ付書替申受度旨ヲ地券ノ裏ニ書式ノ通リ雙方連印ノ裏書ヲ以テ願出ル時ハ府廳ニ於テ右ノ裏書ヲ見猶其ノ情實ヲ吟味シテ後新地券ヲ與ヘ舊券ヲ取消スヘシ尤大帳ニ地主ノ代替リ其年月日ヲ詳カニ書載可致事

但相續人或ハ親戚ヘ遺物又ハ割與致度旨ヲ地券申受ケ規則ノ振合ヲ以テ願立ルトキハ書替渡シ方等本文ノ通可取計事

第十三　地券ヲ受ケ候爲メ申立タル代價ヲ不相當ト察スル時ハ篤ト增價ノ儀申談承伏不致時ハ其地所番號及ヒ申立ノ代價ヲ府下ニ布告シテ望ミノモノヘ入札爲致落札ノ者ヘ地所ヲ讓ラシムヘシ若持主讓リ渡ス事ヲ否マハ落札ノ價ヲ以テ地價トシ地券相定メ可申事

落札直段ヲ以テ舊地主猶其地所ヲ持續度旨願出候ハヽ最初申立直段ト入札直段トノ間金高ノ二割上納爲致ヘキ事

但入札高價ヲ以テ地券ヲ定候ハ至公ノ法ニ候ヘトモ其ノ實際ニ於テ頗ル妥當ヲ得サル儀モ有之候ニ付入札ハ全ク不得止ノ仕法ニ設置萬一近傍隣地等ニ見合不相當ノ價ヲ申立候モノ有之候ハヽ當人及ヒ組合戸長等ヘ反復說諭ヲ加ヘ增價可爲致其上ニテモ承伏不致節ハ不得已儀ニ付熟議ノ上入札法ヲ施シ可申事

右地所落札人ヘ讓渡候上ハ其地內ニアル家作持主ハ十箇年ノ間ハ其所竝地ノ借地代ヲ新地主ヘ相拂候上ハ住居不苦候事

但十箇年中ニ其建物ヲ他ヘ引移候カ又ハ新地主ヘ讓リ渡シ候カ或ハ普通ノ借地人ニ相成リ候カ何レニモ新地主ヘ相對ヲ以テ期限マテニ所置可致最年限中火災等ニテ灰燼セシ時ハ新築ノ儀ハ地主ヘ對談ノ上タルヘシ

第十四　新規竝ニ書換モ地券申受候節ハ左ノ通印稅爲相納可申事

地券ノ印稅

地價		百圓以下
同	百圓以上貳百圓迄	千分ノ五卽拾圓ニ付五錢
同	貳百圓以上五百圓迄	五拾錢
同	五百圓以上千圓迄	壹圓
同	千圓以上貳千圓迄	壹圓貳拾五錢
同	貳千圓以上五千圓迄	壹圓五拾錢
同		貳圓五拾錢

地價　五千圓以上　參圓七拾五錢
　　壹萬圓迄
同　壹萬圓以上　五圓

第十五　右印稅ハ其月限取マトメ其名前書替ノ次第區別町名何某等巨細ニ仕譯ケ府印ヲ押シ大藏省ヘ可相納事

第十六　地租ノ儀ハ年々左ノ通收納可致事

地券ニ記セシ金高ノ百分ノ二

外ニ廳費金トシテ

稅金壹圓ニ付金參錢

地稅竝ニ廳費金トモ目今前條ノ通定ルト雖トモ其時ノ實況ニ因リ猶高低可致筈ニ候事

右地租ハ年々六月十月兩度ニ收納シ第二十一條ノ通リ納方可取扱事

第十七　廳費金ノ儀ハ收入高明細帳ヲ製シ大藏省ヘ差出シ其金ハ府廳ヘ止置記錄局入費ニ可充事

第十八　地主無之地所ハ其町村等ニテ地租償納ニハ不及最其地ノ廣狹等ハ其區ニ於テ爲取調入札拂ニ可取計事

第十九　盜火難ニテ地券ヲ失ヒ其段屆出候ハヽ其情實ノ信ニ然哉否ヲ察シテ後新地券ヲ與フ可キコト

第二十　地主ヨリハ新地券ヲ得タル上ハ舊地券ハ無用ニ屬スル趣ノ受書書式ノ通リ取置ク可キコト

第二十一　地券受取ノ節地主方ニテ製造シタル地租納收帳ヲ差出候ヘハ雛形ノ通リ稅額ヲ認メ與ヘ地券ト同時ニ渡シ置クヘシ年々大帳ノ高ヲ照檢シテ其納帳ノ金高ヘ大帳ト押切シ雛形ノ通落手ノ旨ヲ脇ニ記入調印シ其納帳ヲ下渡スヘシ年々地租ハ六月十月中兩度ニ取マトメ納主ノ區別町所其外記載セル明細帳ヲ添大藏省ヘ可相納事

第二十二　地券ヲ申受ケ所持致シ候上ハ其地所ノ持主ニテ向後其地御用ニ候トモ必ス持主承諾ノ上タルヘシ最世上一般ノ利益ノ爲ニ御用相成リ候節ハ券面通リノ代金及ヒ其建物ニ應シ相當ノ手當差遣シ上地可爲致事

第二十三　爾後五箇年ノ後ニ至リ實地ノ景況ニヨリ地券ノ檢查可有之事

但五箇年未滿タリトモ賣買致シ候カ或ハ天災ニテ變地致シ候ニ付地券書換相願候分ハ此例ニアラサル事

第二十四　各區中戶長其外ノ諸入費ハ一般地券金高ニ割合相當ニ出金セシムル等ノ規則ハ府廳ニ於テ取設クヘキコト

第二十五　社寺現存ノ境內之ヲ除キ無稅地ト致シ門前町地等ハ兼テ御達有之候通リ更ニ上地爲致御拂下ケニ可取計事

但社寺境內地ノ儀ハ逐テ被　仰出候儀モ可有之事

第二十六　諸官省御用地タリトモ物產生育所或牛馬牧場竝ニ病院貧院等ノ如キハ沽券高ヲ定メ地稅竝市街諸費用トモ可相拂事

第二十七　此規則ハ目今ノ景況ニヨリ相定ムト雖モ爾後施行ノ後實際ニ於テ故障アラハ猶改

正ヲ要スル事アルヘシ

第二十八　此ニ掲タル條例中一般心得置カセ可申廉及ヒ地所ニ係リ爲心得置可然稜ハ府廳ニ於テ規則取調伺ノ上施行スヘキ事

右之通ニ候事

壬申正月

而シテ右規程ニヨリ之カ施行ニ關スル細則ヲ府廳ニ於テ定メタリ

二月十日東京府達

大藏省

今般地券御發行地租上納被　仰出候ニ付左之通區々無漏可觸知者也

六大區正副戸長ヱ

壬申二月

今般府下武家地々稱ヲ廢シ一般地券發行地租上納被　仰出候ニ付テハ當府下賜邸受領地從前所持沽券地ヲ除クノ外更ニ拂下ケ相成候地券申請地租納方之義ハ別紙規則之通相心得可申最向後土地町地ノ別無之ニ付諸縣其外上邸ノ分ハ入札ヲ以テ拂下ケ候條望ノモノハ士民トモ願出ヘク候事

但箇所ノ義ハ區別ヲ以追々可相達候事

一　華士族卒賜邸竝受領地ノ分ハ更ニ地券可相渡候條區號町名竝間數地坪等書入候繪圖面相添別紙日割之通第十二字ヲ限當府地券掛ヘ可願出候事

一　華士族卒其外拜借地ノ分ハ別紙規則之通ニ拂下ケ相成候條前同斷繪圖面相添地券掛ヘ可

願出候事

一　從前所持沽券地之分ハ別紙規則之通相心得現今相當之地價取極早々可申出其節從來ノ沽券狀相添可差出候事

一　諸上邸其外地主無之場所入札ヲ以落札致シ其地ノ持主ト相成候節地租竝區入費納方ノ儀ハ月割ヲ以相納可申事

一　規則中ニ有之候地租納帳之外廳費金其外上納帳相添可差出事

一　元朱引內町竝屋敷之義モ更ニ地券相渡定額ノ地租上納申付候條區號町名竝間數地坪等書入候精細之圖面相添別紙規則中從前沽券地同樣之振合ヲ以現今相當ノ地價取極可願出事

但地券相渡候上ハ抱地町竝屋敷之稱ハ相廢竝通ノ沽券地タルヘキ事最是迄納來候地稅ノ義ハ當申年ヨリ不及上納候事

一　所持地前道路下水掃除等之義ニ付テハ別紙規則ニ掲示有之トイヘトモ右ハ所持地蕃盛ノ基ニ付地面前川溝石垣柵等ハ其地主ニテ引受可申ハ勿論川附住居之者ハ最注意可致候若川中ヘ塵芥ヲ取捨或ハ猥ニ家作ヲ張出シ候體ノ儀於有之ハ糺ノ上罰金可申付候事

右之趣府下普ク可觸示モノ也

壬申二月

東京府

（別紙）

地券申請地租納方規則

第一　武家地之儀諸縣邸竝從前之賜邸共上地ノ分ハ入札拂致シ落札ノ金高ヲ以テ地券ヲ定メ

新規持主へ相渡ス可キ事

第二　賜邸受領邸ノ分ハ更ニ拂下ケ候儀ニハ無之ト雖モ其坪數ヲ改メ其近傍拂地代等ニ比較シ地券高取極メ從來ノ持主へ券狀可相渡事但賜邸受領邸ノ稱自今相廢候事

第三　從來武家地拜借地之分當府貫屬ハ勿論諸官員竝普通ノ寄留人ト雖モ當府へ寄留屆濟地所拜借罷在候者ハ其坪數ヲ點檢シ是迄ノ拜借人へ低價ヲ以拂下ケ地位ハ右拂下ケ直段ニ不拘比隣ノ地券金高ニ見合券狀相定メ下渡可申事但寄留ノ向ハ故アツテ致歸縣候トモ地所ハ所持候テ不苦候條右歸縣中引請人相立置地所ニ付候諸務ヲ掌ラシムヘシ尤其段ハ前以テ可屆出事

第四　華士族卒賜邸竝現在ノ拜借地外之更ニ他ノ地所ヲ御拂下ケ願候者總テ公ノ入札法ヲ用ユヘキ事但寄留之者ト雖モ當府へ屆相濟居候者ハ本文ノ如ク入札法ヲ以テ拂下ケ可致事

第五　從來ノ沽券地ハ精細ノ繪圖地所坪數竝區號町名番號所持主姓名沽券高等巨細ニ可申立最地價的當ヲ欲スルカ爲ニ舊沽券ニ不均持主ニ於テ其土地現今ノ代價ヲ書出スヘシ檢査ノ上的當ノ地券金高取極メ券狀可相渡自然不都合ノ代價ヲ書出ス者アラハ第七箇條ノ如ク處置スヘシ

第六　是迄開墾地ノ名目ニテ買請所持致候共現今其近傍ノ地所ニ照準シ相等ノ地價ヲ定地券相渡可申事

但如此地價ヲ改ムル時ハ最前相納候金高ト新規相渡候地券金高トノ間金ハ不及上納候事

第七　地券ヲ請ル爲申立タル代價ヲ不相當ト察スル時ハ增價ノ儀可申談萬一承伏不致時ハ府下ニ布告シテ望之者へ入札爲致落札ノ者へ地所ヲ讓ラシムヘシ若シ持主讓渡ス事ヲ否マハ落札ノ價ヲ以テ地價トシ地券相定可申候事但落札直段ヲ以舊地主尙其地所ヲ持續度旨願出候ハヽ最初申立直段ト入札直段トノ間金高ノ二割上納可致候事

第八　右地所落札人へ讓渡候上ハ其地內ニアル家作持主ハ十箇年ノ間ハ其所竝ノ地代ヲ新地主差出候上ハ住居不苦候事但十箇年中ニ其建物ヲ他へ引移候歟亦ハ新地主へ讓渡候歟或ハ普通ノ借地人ニ相成候歟何レニモ新地主へ相對ヲ以期限迄ニ處置可致最年限中火災等ニテ灰燼セシ時ハ新築ノ儀ハ地主へ對談ノ上タルヘシ

第九　總テ新規拂下ケ地代金ハ地券相渡候節一時上納可致最是迄所有致來候地所ハ更ニ上納ニ不及候事

第十　新規竝書換共地券申請候節ハ左之通印稅可相納事

地券之印稅

地價	百圓以下	千分ノ五
同	百圓以上貳百圓迄	卽拾圓ニ付五錢
同	貳百圓以上五百圓迄	五拾錢
同	五百圓以上壹千圓迄	壹　圓
同	千圓以上貳千圓迄	壹圓貳拾五錢
同	貳千圓以上五千圓迄	壹圓五拾錢
同	五千圓以上壹萬圓迄	貳圓五拾錢
同	壹萬圓以上	參圓七拾五錢

地價　壹萬圓以上　五圓

第十一　地租ノ儀ハ年々左之通收納可致事

地券ニ記セシ金高ノ百分ノ二

外ニ稅金壹圓ニ付　參錢　廳費金

但稅額ノ儀ハ爾今本文ノ如ク定ムルト雖モ其時々實況ニ因リ猶高低可致筈ニ候事

第十二　前條稅金之外六大區中戶長其外區內用向取扱候者給料ハ其員數未定ニ候得共今年ノ儀ハ先ツ左ノ通相納ムヘキ事

地券ニ記セシ金高百分ノ三

右遣拂ノ儀ハ明春ニ至リ決算ノ上殘金ハ來癸酉年ノ諸入費元ニ立猶同年分出金ノ儀可申渡且右遣拂書ハ判然揭示ス可キ筈ニ候得共尙諸帳面一覽致シ度向ハ其區ヘ申立次第可差免事

第十三　右地稅其外共年々六月、十月兩度ニ當府ヘ上納可致事

第十四　地券請取ノ節地租納帳ヲ製シ當府ヘ差出稅額ノ記入ヲ受置年々稅納期月ニ至金高竝干支月日等雛形之通書入稅金ト共ニ差出受取證印可申受事

第十五　賣買ハ勿論代替讓渡分地其外質地流込等都テ地主相變候節ハ其旨地券ノ裏ニ書式ノ通リ相認書替ノ儀可願出事但地所賣買之節自然其土地ノ盛衰ニヨリ沽券高ノ高低相生シ候儀モ可有之ニ付右ハ實地賣買ノ金高申出券狀書替可願出事

第十六　盜火難等ニテ地券紛失燒失致シ候ハヽ其情實ヲ明細ニ認メ證人連印致シ手後レ無之樣速ニ相屆新地券可申受事但新地券受取候節ハ舊地券ハ可爲不用旨書式ノ通請書可差出事

第十七　地券所持致シ候上ハ其地所ノ持主ニテ向後其地御用ニ候共必持主承諾ノ上券面通リ之代金及ヒ其建物ニ應シ相當ノ手當差遣シ上地申付候事

第十八　諸官省御用地タリトモ物產生育所或ハ牛馬牧場竝病院貧院等ノ如キハ沽券高ヲ定メ地稅竝其區入用共可相拂事

第十九　社寺現在ノ境內ハ追テ被　仰出ノ儀モ可有之ニ付差向可爲無稅事

第二十　所有地面前道路竝下水掃除等其地主ノ受持タル事當然ニ付隣里相互ニ申合不都合無之樣可取計事

第二十一　消防竝道普請用水惡水樋筋ノ修繕竝區內町用扱所入費其外臨時町入用之儀ハ別段ニ割合出金可致筈ニ候事

第二十二　地券ヲ請其者所持ト相成候上ハ其地所ヲ空地ノ儘或ハ家屋ヲ造營シテ他人ニ貸ストモ諸出銀怠リナク相納メ地所ノ法律ニ違背無之分ハ可爲勝手若シ規則ヲ犯ス時ハ其罪ノ輕重ニ應シ罰金可申付事

第二十三　自今五箇年ノ後ニ至リ實地ノ景況ニヨリ地券ノ檢査可有之事但五箇年未滿タリトモ賣買致シ候歟或ハ天災ニテ變地致シ地券書替相願候分ハ此例ニ非サル事

第二十四　前斷ニ揭ル諸願等ハ總テ其區戶長奧印ヲ受當府ヘ可願出事

右之通相定候事

地券書替願裏書之式

表書之地所今般質地流込又ハ買受讓受等相續相濟自今以後何某所持候ニ付而者沽券御書替御渡被下度仍而雙

方連印奉願候也

干支月

盜火難紛失新券請取書式

東京何大區何小區內何町東西側第何番地所表口何間奥行何間此坪何坪此沽券金何圓之地所干支月日附之沽券一紙盜火難ニ而紛燒失候間書替之儀奉願候處御吟味ノ上書替御渡ニ付請取申候就テハ最前御渡之地券ハ爾後可爲不用旨被仰渡奉承知仍而御請書如件

年號干支月日

表書持主　何　某　印

新持主　何　某　印

何大區何小區何町何番地所謹借(家地)

戸長表書地所ニ屬スル　何　某　印

右地所持主　何　某　印

證人　何　某　印

同　何　某　印

戸長　何　某　印

納帳式

西ノ內紙四ツ折帳數限リナシ

干支年月

地租上納帳

何大區何小區何町何番地所

何　某

納帳書式

東京何大區何小區何町何番地所何百何十坪

住居何大區何小區何町何番地所

沽券金何千何百圓　何　某

此地租一箇年金何圓

干支月日納　納人印

年號干支年分金何圓　東京府　受取

東京府押切

切押

（別紙）

地券願日割

第一大區　二月十五日ヨリ同月二十七日マテ

第二大區　二月二十八日ヨリ三月十日マテ

第三大區　三月十二日ヨリ同月二十三日マテ

第四大區　三月二十四日ヨリ四月七日マテ

第五大區　四月八日ヨリ同月十九日マテ

第六大區　四月二十日ヨリ五月二日マテ

但一六ノ日竝三月三日ハ休暇ノ事

同月右地券發行及地租收納規則ヲ各府縣下將來地子免除ノ市街地ニモ施行スル方針ナリシヲ以テ租稅寮ハ左ノ通達ヲ發セリ

明治五年正月（租稅寮）

東京府下之儀從來地子免許相成居候處今度御僉議ノ上沽券稅御發行ニ付テハ各地方之內地子免許ノ場所エモ追々推及御施行ノ筈ニ候處土地ニ寄リ從來ノ慣習モ可有之候ニ付夫々御取調可相成筈依テハ各地ニ於而モ從來地稅免除ノ地ハ兼テ右心得ヲ以テ別紙規則ノ趣ニ致照準見込取調有無共御申立可有之候此段及御達候也（別紙ハ東京府ヘ達ト同一ナレハ略ス）

府　縣

尋テ同年二月十五日太政官ハ第五十號布告ヲ以テ「地所永代賣買ノ禁ヲ解キ土地ノ所有權ヲ認メタリ而シテ買致所持候儀被差許候事」ト令シ全國一般ニ地所賣買ノ儀從來禁制ノ處自今四民共賣買讓渡ニ際シ地券ヲ交付スルコトヽシ同月二十四日大藏省ハ達第二十五號ヲ以テ地所賣買讓渡ニ付キ地券渡方規則ヲ定メタリ（第二款第六項地券ノ部參照）

郡村耕宅地ノ租法モ亦時機ヲ俟テ舊制ヲ廢シ一般ニ地券稅法ヲ施行スル方針ナリシカ土地ノ賣買讓渡ニ際シ地券ヲ交付スルコトヽシ同月二十四日大藏省ハ達第二十五號ヲ以テ地所賣買讓渡ニ付キ地券渡方規則ヲ定メタリ（第二款第六項地券ノ部參照）

土地ノ賣買讓與ニ就テハ一般ニ之ヲ認メタリト雖モ之ヲ外國人ニ讓渡ストキハ彼我ノ間ニ不都合ヲ生センコトヲ虞レ明治五年四月地券ノ書入ヲ禁止セリ

明治五年四月十四日太政官布告第百二十四號

御國內一般地所ノ儀銘々所持ノ分タリ共外國人ヘ對シ賣渡候儀ハ勿論金銀取引ノ爲メ地所又ハ地券等書入致シ候儀ハ決テ不相成候條末々ノ者ニ至ル迄心得違無之樣各管內無遺漏可觸示事

而シテ翌明治六年一月十七日太政官布告第十八號ヲ以テ地所質入書入規則ヲ定ムルニ及ヒ先ツ第一條以下第三條ニ於テ質入書入ノ定義ヲ與ヘ金穀ノ借主（地主）ヨリ返濟スヘキ證據トシテ貸主（金主）ニ地所ト證文トヲ渡シ貸主其作德米ヲ以テ貸高ノ利息ニ充ツルヲ質入トイヒ借主ヨリ貸主ニ地所引當ノ證文ノミヲ渡シ而シテ借主ノ作德米ノ全部又ハ一部ヲ貸主ニ渡シ利息ニ充ツルカ又ハ其利息トシテ米又ハ金ヲ拂フヲ書入トイフトシ而トモ外國人ヘ賣買質入書入等致シ金子請取又ハ借受候儀一切不相成候事」ト規定シ以テ前段禁止ノ主旨ヲ強固ニセリ

是ヨリ先キ東京市街ノ地券分ノ稅施行ニ際シテ其稅率ハ地券面ニ記入セシ金高ノ百分ノ二ト定メタルコト前ニ述フル如シ然レトモ久シク無稅ニ慣ルヽ市街地ニ對シ新ニ地租ヲ賦課スルニハ極メテ輕徵ニ出テ其負擔ノ苦痛ヲ感セシメサルヲ以テ可トス殊ニ漸次他府縣ノ市街地モ亦之ニ準セシメサル可ラサルカ故ニ五年四月二十七日更ニ大藏省ハ之ヲ百分ノ一ニ輕減スヘキコトヲ東京府ニ向テ達セリ

其府下地券稅發行地租收入高ノ儀最前相達置候處更ニ御僉議ノ筋有之地券高ノ百分ノ一可致收入筈議定候條此旨相心得諸事不都合無之樣可取計事

更ニ同年五月ヲ以テ租稅寮ハ東京府ト相議シテ左ノ方法ヲ定メ之ニ基キ地主ヲシテ坪數ヲ具申セシメ而シテ其犬牙交錯シテ地主自ラ算定シ能ハサルモノハ吏員ヲ派シテ之ヲ丈量セシム是蓋シ市街地稅法ヲ東京府ニ達シ府下各大區ヲ分界シ更ニ一小區毎ニ經界ヲ正シ各實地ヲ點檢セシメントスルモ數十萬ノ邸宅一々丈量スルハ容易ナラサレハナリ

地券稅發行ニヨリ市街地ノ坪數ヲ算定スルニ間以下ノ端尺ヲ間法ニ改ムモノ處分一ナラス因テ左ノ便法ヲ用フ

一間以下端尺整數

三寸（間法ノ五厘）	六寸（同上一分）	九寸（同上一分五厘以下之ニ準ス）	一尺二寸
一尺五寸	一尺八寸	二尺一寸	二尺四寸
二尺七寸	三尺	三尺三寸	三尺六寸
三尺九寸	四尺二寸	四尺五寸	四尺八寸
五尺一寸	五尺四寸	五尺七寸	一間

此間ノ端寸ハ捨テ、算入セス

譬ヘハ

横八間一尺八寸（間法ニテ三分ヲ得除キ）

縦十二間三尺九寸（同上六分ヲ得五厘ヲ得）

此ノ如ク申出ルモノハ前記整數ノ如ク改算シ横八間三分縦十二間六分五厘ヲ得縦横相乘シ百四坪九合九勺五撮ヲ得則チ端數ハ四捨五入シ百五坪ト爲ス但勺以下ノ端數ハ四捨五入シテ合ニ止ム

然ルニ同年六月十五日ニ至リ租稅寮ハ更ニ月番府縣ニ達シテ地券申請規則第十一節第十二節及地租收納規則第十六節ニ揭載スル所ノ地租竝ニ町費ニ就テ左ノ如ク改定セリ

一　地租之儀最前地券ニ記セシ金高之百分之二ト有之候處百分之一ト相改候事

但從前無稅地ニ限リ候事

附應費金是迄ノ通リ

一　戸長給料其他町費ノ儀ハ最前地券ニ記セシ金高ノ百分ノ三ト有之候處右ハ官ニテ可相定筋モ無之候間取消區内人民申合適當ノ割合ヲ以テ相定候筈ニ決定致候事

同年七月四日大藏省第八十三號達ヲ以テ土地ノ賣買讓渡ノ場合ト否トニ關セス一般ニ地券ヲ授與スルノ條ヲ追補シ同月二十五日大藏省（第九十四號達）ハ地券渡方規則中分筆地ニ對スル地番號竝合筆券狀ノ制及ヒ金高拾圓以下ニ係ル證印稅ノ規定ヲ增補セリ（第二款第六項第四號參照）

尙社寺領及同除地上地中舊社人居屋敷ハ拜借地トナシ來レルモ今ヤ一般貫屬屋敷モ普通ノ貢租地トナセシニ獨リ舊社人居屋敷ノミ依然拜借地ト爲スハ不都合ナルヲ以テ之ヲ拂下クルコトヽセリ（第二款第十三號達）

明治五年七月二十五日　（大藏省第九十三號達）

先般社寺領上地被　仰出候節舊社人居屋敷ノ儀ハ拜借地ト相心得有之候處今般更ニ低價ヲ以テ當人ヘ拂下候間左ニ照準實地取調繪圖面相添可申出候事

低價ハ其地ノ賣買直段ノ半數ト可相心得事

拜借ノ儀上地ノ内ヘ孕リ候分ノミ拂下ケ境内ニ有之分ハ是迄ノ通タルヘキ事

拜領ノ當人若シ其地所望ニ無之候ハヽ入札ヲ以拂下可申事

拂下ケ候上近傍地位ニ比較シ稅額取調可申事

以上述フルカ如ク既ニ各藩ハ其版圖ヲ奉還シテ悉ク府縣ニ編入セラレ隨テ其稅法ノ如キモ亦少

シク改革ノ端ヲ啓キ先ツ東京府ニ向テ地券分一稅ヲ施行シ漸次其他ノ地子免除ノ市街地ニ及ス
シ以テ郡村宅地田畑等全國一般ニ及スノ方針ナリシト雖モ舊藩地ノ如キハ容易ニ之レカ改革ヲ
施ス能ハス已ムヲ得ス舊法ニ據ラサル可ラサルカ故ニ明治五年三月十三日大藏省ハ省令第三十
七號ヲ以テ新置ノ各縣ニ發シ當年收租ノ方針ヲ指示セリ

故藩藩管轄中定免地ノ分ハ兼テ庚午八月中相達置候趣ニ照準取計可申ハ勿論ニ候得共當年ノ
儀ハ府縣新置初メテノ儀ニ付廳中取調向ノ都合ニ寄當秋檢見難出來向ハ其情實取調從前ニ據
置候見込相立可伺出事

辛未年以前上地ノ分竝從前檢見地ノ儀ハ勿論檢見可致筈ニ付兼テ其手續取調置刈旬等手後レ
不相成候樣厚ク可相心得事

從前ノ定免地檢見地トモ別紙仕譯書ノ通取調當九月限可差出事

檢見ノ儀ニ付テハ庚午七月中元府縣ヘ規則書相達置候通リ相心得貢租辻相定メ候儀ハ知事令
參事ノ可爲主任事

知事令參事檢見濟歸著候ハヽ其時日早々可屆出其節本年ノ年柄秋收ノ模樣巨細書取ヲ可申立
事

但是迄租稅帳差出候節年柄申立書差出來候得共以來本文ノ通可相心得事

干支定免檢見仕譯書

何ヨリ何迄何箇年定免

何國何郡

一　高　何箇村

新規

當何ヨリ何迄何箇年定免

何國何郡

一　高　何箇村

小以高

檢見取

何國何郡

一　高　何拾箇村

當何ヨリ新規

檢見取

何國何郡

一　高　何箇村

小以高

合高

右ハ當管下何國干支定免檢見仕譯書面ノ通候也

午申月　何府縣

明治五年七月十三日大藏大輔井上馨ハ租稅寮事務章程改正ノ義ニ付正院ニ伺書ヲ提出シテ曰ク

「當省事務日增多端相成候ニ付テハ細務迄一々決判致候時ハ頗ル繁雜ニ渉リ簿書堆積候ヘハ從テ
緊要ノ事件迄礙滯可致哉ト其懸念不勘就中租稅寮關係ノ義ハ最繁雜ニ有之候處多クハ成規例格

ニ據リ踐行致候義ニ付租稅關係ノ儀ハ府縣ノ申牒同寮ヘ直達セシメ細事ハ寮頭決判直チニ指令爲致候ハヽ若干ノ繁冗ヲ省キ候義ト相考候間同寮事務章程別紙ノ通改正自今踐行爲致度存候依之章程案相添此段相伺候也」ト此ニ於テ同年八月五日正院ハ「伺之通」ト指令シ遂ニ租稅寮內ニ改正局ナルモノヲ設置シ事務章程ニ於テ「改正局ハ全國租庸ニ屬スル一切ノ舊規ヲ更革シ新法ヲ創肇スル處ナリ」ト規定セリ

明治五年八月二十八日地券渡方規則第一條第二條ヲ改正シ更ニ同年九月四日地券交付ノ事務取扱上從來ノ條項ノミニテハ不備ナル點少カラサリシヲ以テ第十五條以下二十六條ヲ追加セリ（第二款第六項地券ノ部參照）

又東京府下諸省寮司ニ於テ民有地ヲ購買シ之ヲ官用ニ供スルトキハ區費ノ課徵ヲ止メ該區內地主ヲシテ之ヲ補償セシム然ルニ右買收地日ヲ逐フテ增加スルニ及區民ハ其負擔ニ堪ヘサルニ至ルヘキヲ以テ諸省使ヲシテ之ヲ納付セシムルコトヽシ明治六年一月九日太政官ハ之ヲ令達セリ

諸省使東京府下諸官省使寮司御用地ノ儀ニ付別紙ノ通東京府ヘ相達候條自今　皇城ヲ除ノ外一切地券受置區入費出金可致事

東京府下諸官省使寮司御用地ノ儀地租區入費出金ノ儀確定無之ニ付テハ箇所限坪數取調悉皆地券相渡區入費可受取且從前ノ御用地ハ各所御用ノ次第柄委曲爲申出具ニ大藏省ヘ可申立事

田租定免ノ方法ハ前二十箇年皆增免ヲ以テ三箇年五箇年又ハ七箇年乃至十箇年ノ年季ニテ約束

スルヲ通則トナセシカ今ヤ舊習改革百事進歩ノ際獨リ定免法ノミ尙依然トシテ舊幕府ノ方法ニ基キ二十箇年皆增免ノ例ヲ襲用セハ其實ノ如何ニ關セス名義ノミニテモ頗ル苛法ニ似タリ然リト雖モ二十箇年平均ヲ以テ租額ヲ定メ猶三分以上ノ凶歲ニ當リ蠲除ヲナストキハ歲入ノ半ヲ減シ政府ノ要費ニ缺乏ヲ來スノ虞アリ又右平均ヲ以テ租額ヲ定メ水旱蝗害ヲ論セス年々同額ヲ收稅セハ農民ハ豐歲ニハ五穀ヲ浪費シ凶歲ニハ官給ヲ仰クノ風習生スルヲ以テ其實行ハレ難ク却テ弊害ニ陷ルアラン故ニ前十箇年ノ內三分以上ノ凶歲ハ破免タルヲ以テ之ヲ除キ其餘ニ於ケル當年分ノ平均ヲ以テ之ヲ定ムルトキハ名義姿當ニシテ官ニ減稅ナク民ニ餘裕アラントシ依テ左ノ令ヲ發ス

明治五年七月十八日大藏省達

定免ノ儀是迄前二十箇年皆增免之仕來ニ候處今般更ニ詮議ノ上前十箇年ノ內最高免ト比較致シ三分以上ニ當レル凶年ハ除之其餘常年之分平均免ヲ以テ可申付候條自今新規定免ハ右ニ照準取調可申事但新規ノ分ハ一村限帳相添繼出季伺之分ハ分租帳差出以前可屆出事

然ルニ此新規定免願ニ係ル既往年租平均ノ調查方法區々ナリシヲ以テ同年九月五日大藏省ハ一定ノ書式ヲ定メ之ニ據ラシムルコトヽセリ

更ニ明治六年五月二十二日ニ至リ前記ノ新規定免ニ關スル書式ニテハ調查上不都合ノ向アルヲ以テ租稅頭ハ左ノ達ヲ發セリ

新規定免ノ義ニ付昨壬申九月雛形ヲ以相達置候處調方不都合ノ向モ有之候間尙箇條書ヲ以左ニ相達ス

一 十箇年貢額ノ內最高免ヨリ三分以上ノ損耗ニ當レル凶年ハ朱書ヲ以記載平均ヲ除キ其餘平年ノ分ノミ墨書ニテ記載平均候分ヲ定免貢額辻ト定メ右平均辻ヨリ減米相立候テハ定免難聞屆事ト心得ヘシ

一 昨壬申九月中相達候雜形ノ內外米新規定免八箇年平均ニ增減ト有之候外減ノ二字ハ取消ス

右ノ通相心得本年新規定免伺出候向ハ可成丈手繰致シ當七月ヲ限リ差出スヘシ

曩ニ明治四年七月廢藩置縣ノ令アルヤ同月二十四日太政官ハ元藩ニ對シ當年ハ悉皆舊慣ニ仍リテ收稅シ且舊來ノ課稅方法竝雜稅ノ名稱區別等取調ヘ具進スヘキ旨布告スル所アリシ事已ニ述フルカ如シ而テ翌五年五月九日ニ至リ大藏省ハ第六十四號ヲ以テ右稅法改正ヲ急要トスルモノハ六月十五日限リ其方法ヲ調查提出スヘキモノトシ且本年モ尙從來ノ儘據置クヘキ旨令達セリ先般廢藩立縣被 仰出候ニ付テハ租稅取立方ノ儀去未年ハ悉皆舊貫ニ據置右從前取扱方法竝雜稅名義區別等廉限詳細取調當申三月中迄ニ可伺出旨去未七月中正院ヨリ御達有之候處今以差出無之不都合之事ニ有之就中差向稅法改正無之テ難相成向ハ別テノ義ニ候條廉限見込共詳細取調當六月十五日限無滯遲可伺出事

但本年ハ從前ノ儘據置候見込ニ候共總テ不經伺取扱候義ハ難相成候ニ付本文期限迄ニ屹度可伺出事

斯ノ如ク明治四年廢藩置縣後ハ尙舊各藩ノ慣行稅法ニ依リタリ然レトモ之ヲ改メサルヲ得サルモノハ舊法ヲ參酌シ適當ノ方法ヲ設ケ豫メ其目的ヲ定メサレハ收穫ノ日ニ及ヒ遽ニ改正ヲ爲サ

ントスルモ時機已ニ後レ爲メニ事宜ヲ誤ルノ虞アルヲ以テ同六年一月二十日太政官ハ第二十四號布告ヲ發セリ

各地方舊來ノ稅法昨壬申一箇年ハ舊慣ニ據置追テ改正可致條件ハ本年ニ至リ伺出候樣大藏省ヨリ相達置候向ハ調查ノ上尙六月三十日限リ取調主務ノ官員持參同省租稅寮ヘ可伺出自然右時機ニ後レ申立候分ハ本年ノ改正ニ難相立候此旨相心得無遲滯調查可致事

市街地賦稅ノコトハ各府縣共總テ明治五年ヨリ收稅スヘキ旨指令セリト雖或ハ未タ其處分ヲ稟議セス遷延此ニ至リシハ地所錯雜シ遽ニ整理シ難キモノアルニ由ルナラン然ルニ今遽ニ前年ニ遡リ之ヲ收稅スルハ實ニ不條理ナルノミナラス實際ニ於テモ亦支障多ク且其著手整理ノ遲速ニ因リ各地其徵租ノ期ニ前後アルハ草創ノ際止ムヲ得サルコトナルヲ以テ同六年二月九日左ノ達ヲ發セリ

各地方市街士族卒居住地舊來地子免除ノ分收稅ノ儀壬申年ヨリ上納ノ積既ニ追々取調申立候處間ニハ其手順相運兼候向モ有之右等モ一般壬申年ヨリ收納不致候テハ不公平ニ候得共不得止事故等有之遷延此節ヨリ取調實際著手ノ向前年ニ遡リ收稅候儀ハ難被行情實モ可有之候ニ付右樣ノ場所モ出格ノ僉議ヲ以壬申年分收入ノ不及沙汰候條本年ヨリ悉皆上納ノ積相心相得早々取調伺出ツヘシ

尙又各藩ニ於ケル城郭ハ之ヲ存續スルコトニ決定セシヲ以テ同年二月十四日大藏省ハ達第十五號ヲ發シテ曰ク

舊藩藩城郭內士族邸地之儀ハ是迄處分見合置候處今般各城廢存御決定ニ付テハ廢城之分ハ一

般沽券稅施行之積可取調存城內居住之分ハ當分拜借地ト看做シ各邸歩數丈量之上近傍之沽券ニ見合相當之稅賦課可致候條夫々取調可伺出事

斯ノ如ク存城內士族邸地ハ拜借地ト看做シ賦課ノ稅金ヲ定メ廢城內ノ邸地ハ一般沽券稅ヲ施行スルコトヽシ更ニ同年三月四日大藏省ハ市街地沽券稅額年季ヲ限リテ据置ヲ許サス常ニ賣買市價ニ從テ其地租ヲ收入スヘシト決議シ以テ益々市街地ニ對スル租額ノ確立ヲ圖タリ蓋シ沽券稅ノ法タル唯其地價ニ就テ之ヲ課稅スルヲ以テ之ヲ舊法ノ區々雜然極リナキモノニ比スレハ其簡便ニシテ且公平ナル固ヨリ言ヲ俟タサレトモ地價ハ元來地位ノ便否ト地味ノ肥瘠トニ由テ異ルモノニシテ或ハ界ヲ接シテ等級ヲ異ニシ或ハ時ニ隨テ價格ヲ變スルモノナルニ其租額ヲ定メ數年間之ヲ變更スルコトナクンハ爲メニ其平準ヲ失ヒ遂ニ其弊害舊法ト太タ差異ナキニ至ルヲ以テ如上ノ決議ヲナシテ神奈川縣及京都大阪ノ二府ヘ指令セシ所以ナリ

又從來各種ノ土地ニ對シテハ未タ判然タル稱呼アラサリシカ地券發行ニ隨ヒ土地ノ處分上其名稱ヲ定メ劃然タル區別ヲ立ツルノ必要アルカ故ニ同年三月二十五日太政官ハ左ノ布告ヲ以テ其名稱區畫ヲナセリ

今般地券發行ニ附地所ノ名稱區別共左ノ通更正ス

一 皇宮地　皇居及各所ノ離宮皇族ノ邸宅等ヲ云

一 神地　宗廟山陵及官國幣社ノ在ル所ヲ云

以上ノ地所ハ地券ヲ發スルニ及ハス唯其坪數ノ廣狹ヲ檢シ地方官ノ帳簿ニ記載シ置クヘシ

一 官廳地　官省使寮司府縣ノ本廳及確定セル支廳裁判所海陸軍本營分營等ヲ云

右地所ハ地券ヲ其地方官ヨリ其省使ヘ渡シ府縣廳ノ分ハ其坪數ヲ本廳ノ帳簿ニ記載スル地租ハ出スニ及ハスト雖モ區入費ハ各地方適宜出金ノ方法ヲ設クヘシ

一 官用地　官廳使寮司府縣一時ノ用ニ供スル地ヲ云

右地所ハ其本廳ヨリ所轄ノ官省使寮司ヘ地券ヲ渡シ府縣ニ屬スルハ其坪數ヲ本廳ノ帳簿ニ記載シ地租ヲ免サヽル可カラサルモノハ官廳地ノ部ヘ加フヘシ

一 官有地　各所公園地山林野澤湖沼ノ類舊來無租ノ地ニシテ官簿ニ記載セル地ヲ云

右地所ハ政府ノ都合或ハ人民ノ願ニヨリ之ヲ賣買スル等總テ大藏省成規ニ從フ可シ最地券ヲ發スルニ及ハスト雖モ其坪數地方官ノ帳簿ニ書載シ置クヘシ

一 公有地　野方秣稅ノ類郡村市坊一般公有ノ稅地又ハ無稅地ヲ云

右地所ハ本廳ヨリ其公有セル郡村市ノ戶長ヘ公有地ノ證トシテ地券ヲ渡シ地租區入費ハ該地ノ景況ニ仍リ收入セシムヘシ最開墾牧場等ノ爲メ私有地トナサント欲スルトキ管轄廳ニテ其得失ヲ詳明シ村方故障ナケレハ成規ニ隨テ拂下可シ

但公有地ノ內自然村方ニ出金致シ買入レタル地所ハ賣買トモ村方一統ノ自由ニ任ス可シ

一 私有地　人民所有ノ田畑屋敷其他各種ノ土地ヲ云

右地所ハ地券ヲ法ノ如ク授與シ地租區入費トモ成規ノ如ク收入スヘシ

一 除稅地　市街郡村ニ屬スル埋葬地制札場行刑場道路堤塘及鄕社寺院ノ類當分此部ニ入ル

右地所ハ地券ヲ發セサルモノトナシ其地方廳ニ於テ坪數ヲ檢シ其帳簿ニ記載スルノミトス且從來使用セシ田畑石高ノ稱ハ天正文祿ノ間ニ起リシモノナルカ其石高ヲ付スルニハ一步ノ禾ヲ苅リ其實量ヲ推シテ一段ノ收穫ヲ算シ其多寡ニ從ヒ土地ノ品位ヲ查定シテ之ヲ石盛ト稱シ以テ租稅及諸公費賦課ノ標準トナセリ然レモ年月ノ久シキ必ス土地ニ變化ナキ能ハス而カモ賦課尙舊ニ據ルカ故ニ大ニ其平準ヲ失フ是ヲ以テ享保年中更ニ檢田色取ノ法ヲ設ケ其租額ハ稍平均ヲ得タリト雖他ノ諸費尙石高ニ課スルヲ以テ民ノ出ス所未タ減少セス隨テ本田ヲ耕スハ新田ヲ起スノ利ニ若カサルニヨリ遂ニ本田ヲ拋棄スルニ至ル蓋シ新田ハ收穫少シト雖其石盛低ク之ニ賦課スルノ諸費少ナキヲ以テナリ斯ノ如ク其弊害全ク石高制度ニ在ルニ拘ハラス地券稅法施行ニ方リ尙其石盛高ヲ以テ課稅ノ標準トナサハ其障害尠少ナラサルヤ必セリ玆ニ於テ乎明治六年六月八日太政官ハ布告第百九十四號ヲ發シテ斷然田畑石高ノ稱ヲ廢シ總テ段別ヲ以テ換用スヘキコトヲ命シ更ニ同月十五日大藏省ハ左ノ達ヲ以テ租稅及諸公費悉ク反別ニ割當テ之ヲ收入スヘキコトヲ府縣ニ令セリ

今般石高之稱被廢候ニ付租稅之儀ハ從前之稅額ヲ以テ段別ニ割付收入スヘシ

一　郡村諸公費從來石高ニ相掛リ候分ハ此度相渡シ候地券之代價ニ割合猶各種類例ニ寄段別戶數口數等ニモ分賦致シ各地之景況ニ寄其平準ヲ不失樣之方法設立スヘシ但市街諸公費之儀モ本文ニ準シ處分スヘシ

次ニ貢租ハ從來米納ヲ以テスルノ制ナルニヨリ諸稅徵收ノ金納ニ屬スルモノ及代金ヲ以テ給與スヘキモノ等ハ石代相場ヲ調定シ之ニ憑據スヘキノ處戰亂ノタメ之ヲ調定スルノ遑ナカリシヲ

以テ本年ハ各自其領地ニ於テ定メ來レル處ニ從ヒ收支スルモノトシテ明治元年十月三日會計局ハ關東諸縣ニ對シテ「去卯御物成取立竝諸渡方直段當辰年ハ私領引付ノ通取計來巳年ヨリ取立方渡方直段取調可相伺事」ト令達シ(令達中私領ト稱スルハ關東諸藩若クハ幕府麾下ノ領土ノ內新々ニ政府直轄トナリタルモノヲ指スナリ)而シテ又關東各郡村中舊來畑租トシテ大豆ヲ納メシメ或ハ大豆ノ相場ニ依リテ右代納ヲナサシメタレトモ收納上往々煩雜ヲ來スカ故ニ之ヲ省クノ旨趣ニテ會計官ハ同年十月關東諸縣ニ向テ令ヲ發シテ曰ク

關東筋村々大豆石代直段ノ儀當辰年ヨリ大豆御入用ノ節ハ市中御買上取計石代正納其御差止メ相成候間右ノ分米納ノ積可取計候事

一　當辰年御囘米高凡積取調書可差出候事

斯クテ大豆納ヲ廢シテ悉ク正米ヲ以テ畑租ヲ納メシメ尙同年十一月十五日更ニ諸縣ニ對シテ「是迄相納來御年貢漆竝菜種ノ儀以來永代納ノ積取調可被申聞候」ト達シ以テ從來山野若クハ堤防等ニ栽培セル漆ニ對シ年貢トシテ其若干ヲ徵收シ又ハ高百石ニ付正租ノ外若干ノ菜種ヲ加ヘテ徵收シ來リタレトモ之ヲ廢シテ永ヲ以テ代納セシムルコトヽス蓋シ漆及菜種ノ如キハ官府ニ供スルノ極メテ稀ナルニヨリ之ヲ其價格ニ換算シテ納メシメシムルハ官民共ニ却テ便宜アレハナリ

又更ニ明治二年五月二十九日會計官ハ「是迄正大豆又ハ石代ヲ以テ納來代米永渡來候分當巳年以來御廢止相成候條可被得其意候事」ト達シ以テ從來正租ノ外高百石ニ付大豆二斗ヲ納メシメ而シテ其代トシテ大豆二升ニ對シ米一升ヲ又永ヲ以テスルトキハ大豆五石ニ永一貫ヲ下與シ來レルコトヲ廢止セリ其他從來雜稅トシテ蠟櫨其他鹽漆等ノ現品ヲ以テ收納シ來レルモノハ總テ之ヲ

拂下ケ永納トナスコトヽシ以テ收納上ノ煩雜ヲ排除セリ今左ニ其達文ヲ示ヘシ

明治二年五月二十九日（會計官）　越後府

其府管轄ノ場所ヨリ是迄蠟槽等正納致來候當巳年ヨリ以來其年々所相場ヲ以テ精々直段吟味ノ上御拂取計永納ノ積御伺可有之候事

其支配所ヨリ是迄鹽正納致來候處追テ及沙汰候迄當巳年ヨリ以來其年々所相場ヲ以精々直段吟味ノ上御拂取計永納ノ積可被相伺候事

小菅縣、倉敷縣

其支配所ヨリ漆正納致候處追テ及沙汰候迄當巳年ヨリ以來其年々所相場ヲ以精々直段吟味ノ上御拂取計永納ノ積可被相伺候事

岩鼻縣

其支配所ヨリ漆正納致候處追テ及沙汰候迄當巳年ヨリ以來其年々所相場ヲ以精々直段吟味ノ上御拂取計永納ノ積可被相伺候事

以上ノ如ク總テ實物納ヲ廢シテ永代納トセシト雖獨リ油菜實ハ東京府下佃島徒役場ニテ之ヲ搾取セシムルカ故ニ其原料ニ充テン爲メ同年六月七日同官ハ若松韮山及關八州諸縣ニ對シ「是迄菜種正納致來候分ハ從前ノ通取計石代ニテ納來候分ハ當巳年以來御廢止ノ事」ト令シテ其實物納ニ係ルモノハ舊ノ如ク收納シ石代納ニ屬スルモノヽミヲ廢セリ又從來日光外三縣ヲシテ油菜實ヲ納付セシメ之カ代米ヲ交付シ而シテ東京府佃島ノ徒刑者ヲシテ之ヲ壓搾セシメタリ然ルニ此等諸縣ノ之ヲ納付スルヤ其管內ニ於テ課徵セス却テ東京府下ニ於テ買收スルノ實況ナルヲ以テ明治四年十月二十七日大藏省達第八十三號ヲ以テ日光、韮山、宮谷及品川ノ四縣ニ令シテ菜種ノ正納ヲ廢止ス而シテ又幕政中米穀ヲ士人ニ給シ或ハ石代納ノ一法タル石代等ヲ定ムルタメ市中ノ米

價ニ依リ上中下米各其一箇年ニ於ケル價格ヲ平均シ官ニ於テ其米價ヲ設定ス之レ所謂張紙直段ト稱スルモノニシテ維新ニ際シ關東奥羽ノ府縣下ニ於テハ定租雜稅ノ內定式金納ノモノニ對スル石代ハ總テ之ニ據リタレトモ之ヲ改メテ新ニ其地方相場立アル土地ノ十月中旬ニ於テ下米平均直段ニ豐凶ノ參酌ヲ加ヘ其石代ヲ以テ上納セシムル爲メ明治二年六月二十二日會計官ハ關東奥羽府縣ニ其旨ヲ令セリ

支配地村々定租雜稅ノ內定式金納石代直段ノ儀舊幕中張紙直段相用來候分已來其場所々々年年十月中旬下米平均直段豐凶ニ寄リ相當ノ割引ヲ以テ石代金上納ノ積相心得相場書取ノ平均直段前以可被申立候事

然ルニ右ノ示達ニ對スル申報ニ基キ照査スルニ其相場高貴トナリ大ニ民心ニ影響スルノ虞アルヲ以テ其中ニ就キ最モ低廉ナル小菅縣ノ申報ニヨリ下米平均ノ時價ヨリ其五割ヲ低減シテ米三十五石ニ付キ金百七拾五兩貳分ニ當ツルトキハ元年ノ張紙直段ヨリ概ネ八拾兩ヲ增加スルノミナレハ當時ノ時價ニ照シ稍其當ヲ得タリト認メ之ヲ採用シテ同年十二月八日民部省ハ關東奥羽ノ府縣ニ向テ令ヲ發セリ

舊幕中張紙直段ヘ參兩增拾五兩增等ノ儀ハ以後令廢止當巳年ノ儀ハ各縣見込ノ趣參考ノ上上米三十五石ニ付金百七拾五兩貳分替ヲ以テ石代金取立上納可有之候事

明治三年閏十月二十九日大藏省ハ舊幕府張紙直段ヲ以テ他ノ石代納ヲ爲シ來リシ部分ニ對シテモ亦令ヲ發シテ「舊幕中張紙直段相用候分當午年ノ儀ハ各縣見込之趣參考之上米一石ニ付金五兩貳分永貳百文替ヲ以テ石代金取立上納可有之候事」トセリ就中米納ハ運搬不便ノ地方ニ在テハ非

常ノ困難ヲ感スルカ故ニ往々石代納ヲ請求スルモノ起レリ殊ニ社寺領上知村々ノ如キ從來何レモ其社寺ノ附近ナルヲ以テ之ヲ納租スルコト容易ナリシト雖上知以後府縣管轄ニカヽルモノヽ如キハ東京若クハ大坂ニ納付セサル可ラス從テ一層ノ不便ヲ感シ石代納ヲ要求スルモノ漸ク增加シ政府モ亦金納ヲ便利トナセシカ故ニ四年五月八日太政官ハ布告ヲ發シ實際輸納ニ困難ナル村里ハ價金ヲ以テ納付スルヲ許ス

府縣管下竝諸藩管轄ノ社寺領上知村々貢米ノ儀畑方ハ石代田方ハ正米ヲ以テ上納可致旨大藏省ヨリ相達置候處畑方ノ分石代納ノ儀追々申立候向モ有之ニ付事實正米納難澁ノ場所ハ左ノ條件ノ通相心得石代上納取計フヘシ

一　田方貢米ノ分金納相願候向ハ以來東京納ハ淺草御藏京都大坂納ハ同所ニ於テ其年十月中國柄相當ノ直段ヘ各管下從來石代上納ス可シ

但平均直段ハ年々大藏省ニ於テ取調ノ上相達候間所相場書十一月二日仕立便ヲ以テ至急大藏省ヘ可差出尤京都大坂納ノ分ハ同所出張大藏省ヘ差出申スヘシ

一　米金納譯書關東八箇國竝伊豆國、甲斐國ハ十一月晦日限其他ハ十二月二十日限可差出事

但京都、大坂納ノ國々ハ同所ヘ可差出之總テ正米納ト心得ヘシ

一　右日限後申立候分ハ御採用無之總テ地拂聞屆置候分ハ廢候事

一　年限ヲ以テ地拂聞屆置候分ハ廢候ノ仕來リ有之不公平ニ付右樣ノ場所ハ篤ト遂吟味改正スヘシ

一　府藩縣廳ニ於テ米渡ノ定額有之分ハ米納申付渡方取計フ可シ

一　石代金取立方ノ儀一時ニ相成候テハ自然相場合ニ差響キ却テ困難ニ立到可申ニ付初納ニ納ト實地適宜ノ順序ヲ以テ取立可成丈年內上納翌年三月限皆濟スヘシ

一　米納ノ分皆濟期月ハ從前ノ通タルヘキ事

一　畑方石代相場ノ儀ハ兼テ相達候通相心得年內皆濟スヘシ

然ルニ尙普通ノ石代ヲ以テ上納ノ取扱ヲ爲スノ府縣アリ又石代納ハ極メテ不便ナル郡村ニ限ルモノト誤認スル等畢竟右ノ布告ノ旨趣貫徹セサルニ因リ尋テ同年八月二十五日大藏省ハ左ノ達ヲ發シテ之ヲ注意セリ

當未年以來田方貢米石代金納相願候者ハ納所ニ於テ本年十月中國柄相當ノ直段ヘ各管下從來石代ニ用來候市町上米直段ヲ加ヘ平均ヲ以テ代金上納ノ義ニ付取扱振トモ當五月中御布告相成候處當今普通ノ石代納等申立候縣モ有之候ニ付テハ右御布告等閑ニ心得或ハ極難ノ場所ニ限リ候儀ニハ無之右ハ御規則ニ照シ相願候ニ於テハ悉皆金納ニ候共不苦御趣意ニ候條御布告面篤ト了解イタシ末々マテ貫徹候樣丁寧ニ可及示諭此段更ニ達ス

而シテ以上ノ如ク石代納ヲ許可セシヲ以テ益〻米ノ相場ハ其確實ヲ期セサル可ラス玆ニ於テ同年十二月五日同省第百十九號達ヲ發シテ從來毎年十月十一日ヨリ二十日迄ノ平均相場ヲ徵シ來リシヲ更ニ毎月上中下米ノ相場ヲ取調ヘ其申報ヲ爲サシム

先ニ明治四年五月田租ノ石代納ヲ許セシト雖廢藩置縣ノ諸國未タ同一ナラサルヲ以テ明治五年八月十二日太政官ハ左ノ布告ヲ發シ本年以後田畑ノ貢米竝ニ雜米ハ其近傍市街ノ上米平均價格

ヲ以テ金納ヲナスコトヲ允シ本年ヨリ安石代ノ舊法ヲ廢止ス

各府縣貢米ノ儀田方ハ正米畑方ハ最寄市町村十月上米平均直段ヲ以石代ニテ相納田方ノ分金納相願候向ハ其年十月中納所相場ヘ管下上米直段ヲ加ヘ平均ヲ以石代金ノ筈去未五月中相達置候處右石代直段伺ヲ經相決候迄ハ村々收穫ノ米品凡石數ヲ量備置候ニ附遠隔ノ國々ニテハ自然痛米缺減等モ出來其上納譯書附差出方定期ヲ過候得ハ石代納ノ手筈モ正納ト相換リ其外多少不都合ノ次第モ有之ニ附今般衆議ノ上當壬申年ヨリ以來田畑貢米ハ勿論雜稅米ニ至ル迄其所最寄市町十月朔日ヨリ十一月十五日迄日々上米平均直段ヲ以金納ノ義相願候分ハ聞屆候事

一 米ノ外粟大小麥大小豆荏菜種粟黍稗其外ノ雜穀ハ其所最寄市町十月朔日ヨリ十一月十五日迄日々上品平均直段ヲ以石代金納可致事但夏稅雜穀納ノ分土地ニ寄リ夏納有之候分ハ從前納期月ノ前月朔日ヨリ納月十五日迄最寄市町平均直段ヲ以上納候儀ト可相心得事

一 從前金銀不融通ノ土地ニテ石代上納難致段相願候分ハ米納可申附事但正米ノ分廻漕取扱方ノ儀ハ不日委細可相達事

一 石代納正納ノ員數仕譯書取調十一月晦日限可差出事

一 本年ヨリ願ニ依リ所相場石代金納被 仰附候ニ附テハ皆濟期限ノ儀別紙ノ通改正候事

一 從前夏納ノ分ハ九月皆濟可致事

一 年限ヲ以地拂聞屆置候分竝舊來安直段定石代ヲ以相納候分本年ヨリ悉皆廢候事

右之通相定候事

貢米石代金府縣廳ヘ上納期月

一 年內五分通リ

一 正月ヨリ二月迄ニ二分五厘

一 三月ヨリ四月迄ニ二分五厘

一 四月晦日限悉皆可納濟事

右之通相定候條上納有之節々府縣ヨリ速ニ東京租稅寮ヘ上達致シ五月晦日限上納濟ノ段可屆出事但米納ノ中定額渡方ヨリ過越候分廻漕取扱方ノ儀竝皆濟期限ノ儀ハ別段可相達事

然ルニ其後往々注意ヲ怠リ或ハ不當ノ相場書ヲ提出スルアリテ稍ゝ緩慢ニ流レシヲ以テ翌六年一月二十七日租稅寮ハ左ノ達ヲ示シテ其注意ヲ促セリ

租稅石代相場ノ儀ハ最注意可有之筈ノ處中ニハ相場立無之日ヲ相除キ其外不都合ノ相場書差出候向モ有之右ハ壬申八月中布告ノ通十月朔日ヨリ十一月十五日迄日々ノ平均ニ致シ尤モ右日數ノ內相場立無之日ハ前日相場引用ノ積相心得同十一月分達置候雛形ニ倣ヒ中下品共一同入念取調至急可差出事

又正稅雜稅等石代金納ヲ爲スモノニシテ土地ノ不便若クハ作物不熟等ノ理由ヲ以テ安石代ト稱シ特ニ其價ヲ賤クシ或ハ半石半永ト唱ヘ年租ノ內半ハ米七石ニ付金壹兩ノ安石代ヲ以テ納稅シ或ハ小切ト稱シテ米四石一斗四升ヲ金壹圓ノ安石代ニ定ムル等舊來種々ノ因襲アリテ維新後尙之ヲ襲用セシカ同三年十一月五日布告シテ之カ改正ヲ圖レリ

府縣支配地竝諸藩御預リ所ノ內舊來ノ因襲ヲ以テ正租雜稅等ノ內種々名目ヲ設ケ石代金納其

他不相當ノ仕來有之候處向後實地相當候樣改正之見込相立早々可申出事但從前取扱振竝原由等巨細取調可申出事

又舊來ノ法ニ十分一大豆金納ト云フモノアリ卽チ其村田畑ノ總租額ニ於ケル十分一ヲ大豆ノ石代ヲ以テ之ヲ納ムルコト宛モ關東ノ畑永ノ如クニシテ專ラ關西諸國ニ行ハレタリシカ維新以後モ尙斯ノ法ヲ襲用シ來レリ然レトモ元來石代納ナルモノハ動モスレハ民ニ利アリテ官ニ不利ナル傾アリ何トナレハ若シ之ヲ現物ヲ以テ納ムルトセハ苞裝運搬藏入等ノ如キ煩雜ナル手數ト費用トヲ免レサルニ反シ之ヲ代金納トセハ新穀初メテ成ルノ時ニ於ケル價格卽チ最モ低廉ナル相場ヲ以テスルカ故ナリ之ニ因テ幕政ノ時ニハ此ノ如キモノニ對シ特ニ諭告シテ正米ヲ納附セシメ只其止ムヲ得サルモノニ限リ石代相場ヲ增加シテ之ヲ代納セシメタレトモ固ヨリ便法ニアラサルヲ以テ同三年二月二十七日民部省ハ「正租ノ內十分ノ一大豆名目ヲ以テ石代納來候處以後相廢當午年ヨリ都テ正米ヲ以テ可相納候事」トノ達ヲ發シテ悉ク正米納トス尤畑租ニ至テハ從來概ネ石代納トスレトモ往々又米大豆等ヲ以テ正納スルモノアリテ維新以來收納ノ法努テ煩ヲ去リ便ニ就クノ方針ニ反スルニ因リ一般ニ石代納トナシ又田ノ米納ハ舊慣遽カニ變更シ難キノミナラス以上ノ如キ弊害アルヲ以テ姑ク正米ヲ納附セシメ其他三分一米十分一大豆等ハ諸國ノ田畑ヲ平均シ田ヲ三分ノ二畑ヲ三分ノ一ト算定シ而シテ田畑地租總額ノ三分ノ一ヲ畑租ト概定シテ之ニ對スル米ヲ金納トシ或ハ其慣例若クハ不熟多クシテ正納ヲナシ難キモノニ付テハ畑租ノ總額十分ノ一ハ大豆ヲ以テ納ムルモノトシ之ヲ金納トセシモ今其名義ヲ廢シ畑ハ金納田ハ米納ノ二途ニ歸シ明治三年七月二十四日之ヲ府縣藩ニ令セリ

其府縣藩預所支配地是迄畑方米大豆等正納候分自今年々十月中旬最寄市町上米上大豆平均相場ヲ以テ定石代金納可取計候且三分一米十分一大豆金納之名目被廢田方都テ米納候條此段相達候事

然レトモ尙米大豆ノ平均相場ヲ用キ石代納ヲナスモノアリ從テ三分一米十分一大豆金納廢止ノ名目立サルヲ以テ更ニ同年閏十月二十九日大藏省ハ左ノ如キ達ヲナシテ都テ畑方正租ハ上米平均直段ヲ以テ石代納ヲナサシメ其他大豆雜穀等ヲ以テ正納スル場合ニハ何レモ十月中ニ於ケル上品平均直段ニ依リテ石代取立ヲナセリ

三分一米十分一大豆金納之名目被廢田方ハ都テ米納畑方米大豆等正納候分年々十月中旬最寄市町上米上大豆平均相場相用候テハ矢張十分一大豆三分一米名目相存居不都合ニ付都テ畑方正租之分上米平均直段ヲ以石代取立上納之積可取計且從前畑方大豆其他雜穀等正納仕來ル場所ハ何レモ十月中其上品平均直段ヲ以石代取立納ムヘシ更ニ達ス

次ニ又舊來口米口永口銀ト稱シテ肴吏ノ俸給筆墨紙等ノ費用ニ充ツルタメ租米一俵(三斗五升)ニ付一升永一貫文ニ付三十文ヲ附加シ(享保年間ニ至リ各藩預所ハ舊ニ仍リ直轄地ハ本租ト同シク倉庫ニ納收ス)或ハ延米ト稱シテ租米俵量ノ耗缺ヲ補フ爲メ一俵ニ付二升ヲ量加シ或ハ又合米ト稱シテ一俵(四斗)ニ付七合ヨリ一升三合ニ至ルマテヲ加ヘテ徵收シ來レリ而シテ該法ハ獨リ幕府ノミナラス諸藩ニ於テモ量目ノ異同コソアレ凡テ一般ノ制度ナリキ

又三役ト稱スルモノアリ其一ハ五街道ノ宿驛費用ノ爲メ賦課スルモノニシテ之ヲ傳馬宿入用ト

云ヒ其二ハ幕府ニ於テ庖厨ニ使役スル人夫ノ給米ヲ村高ニ賦課スルモノ之ヲ六尺給米ト云ヒ各石代ヲ金納セシム其三ハ人民田租ヲ上納スルノ雜費ニ充ツル爲メ賦課スルモノニシテ之ヲ藏前入用ト云フ然ルニ此等諸種ノ賦課法ハ有名無實ノ苛稅ナリトシテ各知縣事等ハ之レカ廢除ヲ申請セリ然レトモ元來口米口永ノ如キハ之ヲ官廳ノ經費ニ充テ又彼ノ三役ノ如キモ驛遞ノ勞役若クハ倉廩ノ經費ニ供スルモノニシテ固ヨリ必要ナルモノナレハ方今財政ノ基礎未タ確定セサル ノ時ニ於テ遽ニ之ヲ廢除スルハ事實ニ於テ到底行ハレ難キヲ以テ此等ハ尙暫ク從前ノ如ク之ヲ徵收スルコトヽシ只彼ノ夫米夫錢夫永等ノ名稱ヲ以テ治水修路ノ爲メ各藩又ハ舊旗下領等ニ於テ六尺給米ニ準シ徵收セシモノヲ廢シ併セテ貢米ヲ運漕スルニ方リ從來自村ヨリ五里以內ハ自費トシ五里以外ハ其船積地迄百石ニ付若干ト規定シテ其運賃ヲ給セシ例ヲ廢シ五里以外ハ其地方相當ノ運賃ヲ給スルコトヽシ明治二年六月十九日會計官ハ府縣ニ向テ左ノ令ヲ發ス

其支配所村々ノ義舊幕中口米永銀延米竝傳馬宿入用六尺給米藏前入用トモ取立來リ候分都テ從前ノ通上知村々ノ分モ右ヘ引附同樣當巳年以來取立ノ正米石代トモ仕來ノ通取計且米納ニ付東京迄五里外駄賃ノ義ハ以來其所相當ノ賃錢吟味ノ上可相伺尤夫米永錢等ハ都テ被廢止候條其餘瑣末ノ義各見込ヲ以テ事實相當ニ取調其度々可被相伺候事

然ルニ同年十一月五日ニ至リ民部省ハ「去辰五月以來諸街道驛之附屬助鄕申附候村々ハ右勤高ヘ掛リ候六尺給米藏前入用免除ノ積相心得高何程何街道何宿ヘ助鄕相勤候ニ付免除ト申儀一村限美濃紙竪帳ニ取調早々可差出事ヲ達シ各村ノ六尺給米及藏前入用ヲ免除セリ蓋シ助鄕トハ舊幕府ノ驛制ニシテ宿驛人馬繼立ニ當リ豫メ定メタル近鄕ノ各村ヲシテ之ヲ助ケシムルヲ云ヒ維新

後モ尙此舊慣ヲ襲用シ明治元年三月海內一般ニ助鄕賦課ノ事ヲ令シ尋テ諸道ニ賦課ノ石高ヲ定メ各驛ニ附屬シテ服役セシメシモノナリ

然ルニ前述シタルカ如ク明治三年閏十月田方畑方ノ徵收方法ヲ改メシヲ以テ明治四年以後ハ田米正納ノ分ニ對スル口米六尺給米小物成米ノ類ハ總テ石代納トナサシメ併セテ關東各地ニ於ケル舊來ノ口永小物成永等ノ名ヲ以テ納メ來レルモノヽ幕府張紙直段ヲ慣用シ下米平均時價ニ準算スルコトヲ止メ其年々稟議セシムルコトヽシ明治四年二月十九日太政官ハ府縣ヘ左ノ布達ヲ發セリ

租稅ノ內三分一米十分一大豆金納ノ名目廢止田方ハ米納畑方竝雜穀納ノ分石代金納之儀去午閏十月中大藏省ヨリ相達置候處當未年分租稅ヨリ以來田米正納ノ分口米六尺給米小物成米ノ類都テ其年十月中上米竝雜穀納ノ分ハ上品競レモ平均直段ヲ以テ石代取立可致上納此段更ニ相達候事但關內村々舊政府張紙直段ノ如キ當時下米平均割引ヲ以テ取立來候類ノ場所ハ其年々伺ノ上可取計事

尙租稅徵收上ノ費用トシテ附加徵收シ來リシ口米永ニ就テモ亦幕政中其直轄地ノ分ハ本租ト同シク之ヲ納付セシメ其費用ハ別途之ヲ代官ニ下付シタレトモ諸藩預所ニ對スル分ハ口米永ヲ其儘交付シ以テ其費用ヲ辨セシメタリ然ルニ同四年四月二十三日社寺上地ノ新ニ支配地ト爲リタルモノニ對シ以上ノ例ニ依ラシメ以テ藩ニ屬セル部分ノ口米永ハ諸入費トシテ直ニ其藩ニ收受スルコトヲ得セシメントシ太政官ハ布告シテ曰ク

諸國社寺ノ朱印地除地ノ內境內ヲ除クノ外一般上知被　仰出是迄支配致候府藩縣ヘ管轄被

仰出候ニ付テハ其藩々支配地相成候分ハ諸入費トシテ租稅ノ口米永被下候間都テ右ヲ以テ仕賄可致其他米金納場所皆濟期月等別紙ノ通可相心得候事

（別紙申抄錄）

一　田方ハ都テ正納口米畑米六尺給米小物成米ノ類ハ其年一月中上米竝雜穀納ノ分ハ上品何レモ最寄市町平均直段ヲ以石代取立上納可致事

而シテ高掛リ三役ハ前述セシ如ク姑ク舊慣ニ依リ徵收シ來リタレトモ元來傳馬宿入用ハ驛場ノ費用ニ充ツルモノナレハ驛制ヲ更メ相對賃錢ノ法ヲ實施スルトキハ復タ費用ノ賦課ヲ要セス殊ニ六尺給米ノ如キハ幕府一家ノ徭役ニ屬スルモノニシテ況シテ夫役ノ類ハ悉ク之ヲ廢止セントスルノ秋ナルカ故ニ高掛三役モ亦之ヲ免除スヘキモノトス且ツ藏米入用ハ納所倉廩ノ諸費タリト雖曩ニ貢米ノ石代上納ヲ許スコトヽセシニ於テハ遍ク高掛ヲ以テ之ヲ收入スルヲ止メ現米收納ノ額ニ應シ其定費ヲ收納スルヲ至當トスルヲ以テ四年七月二十七日太政官ハ左ノ布告ヲ發セリ

從前高掛ヲ以テ納來候三役ノ內傳馬宿入用米ノ儀今般驛法改正ノ筈ニ候間自今不及上納藏前入用追々金納ノ向モ有之ニ付以來高掛ヲ以テ取立候儀ハ廢止其年上納米高ヘ掛リ候費用至當ノ割合ヲ以テ納方可申達六尺給米ノ儀ハ御詮議ノ筋有之更ニ被廢止候事

而シテ明治五年八月二十日諸國貢米ヲ東京大阪等ヘ廻漕セシムルノ制ヲ廢止シ各府縣最寄ノ港浦ヘ運送セシメ此ニ於テ納付ノ手續ヲ終ルモノトナスニ及ヒ藏納入用モ亦之ヲ免除セリ

尙從來耕地ヲ變シテ溝洫ヲ穿チ堤防ヲ築キ或ハ鄉藏ヲ設クルニ方リ幕府直轄地ニ在テハ總テ高

內引ト稱シ其貢租ヲ免除セシモ他ノ所領地ハ租額ノ減少ヲ恐レテ高內引ニ據ラス所謂潰地代米永ト稱シ別ニ米金ヲ下付シ農民ノ貢租作益等ヲ塡償シタリ而シテ維新後ニ至リ依然斯ノ舊慣ヲ採リタレトモ一事兩樣ノ處分ヲ爲スハ甚タ不便ナルヲ以テ明治三年七月二十日大藏省ハ諸府縣藩（支配御預）所之內潰地代米永ノ儀是迄依舊慣相渡候處自今被廢都テ高內引ニ可取計候此段相達候事ト達シテ潰地代米永渡ヲ廢シ悉ク高引內ニ據ルコトヽセリ而シテ舊各藩領地タリシ國郡ニハ未タ之ヲ令セサルヲ以テ更ニ同年十一月九日太政官ハ左ノ布告ヲ發セリ

諸藩支配所之內潰地代米永之儀是迄依舊慣相渡候處自今被止候條高內引ニスヘシ但地主共ヘハ相當ノ御手當可被下最他村之地所ヲ借地イタシ下方相對ヲ以地代差出來候分ハ從前之通取計フヘシ

然レトモ高內引トスルトキハ單ニ其貢租ヲ免除スルニ止マリ地主ノ收益ヲ塡補スルノ途ナキニ依リ併セテ相當ノ手當ヲ下附スルコトヽセリ

蓋シ宿驛人馬繼立補助ノ鄉村ハ元年五月彼此組替ヲ施コシ而シテ其村々ハ總村高ノ內都テノ高內引ノモノヲ控除シタル殘高ノ四分通ニ賦課シ勤メシムヘキ旨驛遞司ニ於テ規定シ其後同二年四月ニ至リ更ニ既往十箇年間ニ於ケル取米高ニ割充テ賦課スヘキ旨令セシモ尙前令ニ依リ四分通ニテ勤高確定ノ驛々アリテ區々ニ出ルヲ以テ三年十二月三日太政臣ハ總テ村高ノ內諸內引ノモノヲ控除シタル殘高悉皆ニ割充テ賦課セントシ左ノ令ヲ發ス

去々辰年五月中宿助鄉組換相成附屬村々諸引殘高除之殘四分通ヲ以可相勤旨驛遞司ヨリ相觸其後去巳四月中右ニ不拘十箇年平均正取米ヲ以勤割相立可申旨更ニ相觸置候處正取米又ハ四

分通ヲ以勤高確定致シ候驛々モ有之取計方區々ノ趣相聞不都合之次第ニ付自今諸引殘皆高ニテ割合相勤候樣驛郷之者ヘ申渡差支無之樣可取計事

但正取米又ハ四分通リ以割賦相濟候分ハ本文ノ通相心得可申依テ御藏米入用六尺給米其餘右二役同樣高掛物助郷勤中從前免除申付來候分取立ニ不及最辰巳二箇年取立御勘定仕上相濟候分モ有之候ハヽ當午年租税之内ヲ以下ケ戻方取計ヘク事

且又古來ノ帳簿上ニ地所及租額ノ登記アリテ現今其地ノ所在ヲ失スルモノヽ高ヲ無地高ト稱シ或ハ陣屋敷郷藏敷堤敷溝代等其地ニ須要ナルモノヽ爲メニ田地ヲ潰廢シ其貢租ヲ蠲除スルモノヲ年々引ト稱シテ何レモ高内引トセシニ拘ラス總テノ高掛物ハ之ヲ徵收セリ然ルニ既ニ貢租ヲ免除シタル土地ニ對シ之ヲ賦課スルハ穩當ナラサルカ故ニ同四年五月十七日太政官ハ布告シテ之ヲ免除セリ

無地高竝ニ年々引ト唱ヘ候高内引ノ分從前高掛物取立來候處御詮議ノ上免除相成候事

尚既ニ述ヘタルカ如ク在來ノ府縣ハ夫米永錢ノ徵收ヲ廢シタレトモ藩置縣ノ部分ニ對シテハ租税ハ舊慣ニ仍ルヘシト令セシノミニシテ未タ在來ノ府縣ノ如ク之カ徵收ヲ廢スルノ令アラサルヲ以テ同年九月二十四日太政官布告ニヨリ之カ徵收ヲ廢止ス

租税取立方當未年ハ悉皆舊慣ニ仍リ可申旨先般及布告候處夫米永錢ノ儀ハ當未年ヨリ廢止被仰出候條此旨更ニ相達候事

既ニ田租正租ヲ始メ雜税ニ至ルマテ請願ニ依リ金納許可ノ旨公布アリタルヲ以テ從來延米（延米ハ納租ノ際本石計リ立ヲ爲サヽルル地方）ヲ納メ來レル分ハ之ヲ合シタル石高ニ依リ石高納ヲ爲スヲ當然トス然ルニ新置縣ヘ合併セル舊藩管轄地ニハ延米口米ハ取ラサルモ込米（本米一俵ニ一升ヲ加フルヲ云フ）差米目排米等種々ノ名義ヲ下シ收入シ來レルアリテ其中ニハ原由延米口米ト同義ノモノ少ナカラスシテ彼ノ運搬途中落散米等ノ缺減ヲ計リ若干量ヲ增加シ置クモノトハ自ラ差別アルニ依リ此等ノ類ハ悉ク延米ト等シク本石ニ合シ石代ヲ徵收スヘキコトヽシ大藏省ハ明治五年八月十九日左ノ如ク令セリ

今般田畑正租ヲ始諸雜税等ニ至ル迄石代納相願候分ハ其所相場ヲ以金納被差許候段公布相成候ニ付テハ延米納來候分ハ右延石高ヲ以石代可取調ハ勿論ニ候得共新置縣ヘ合併相成候舊藩管地村々ニハ延米口米ハ不取立込米差米或ハ目拂米目落米缺米等種々ノ名義ヲ降シ收入仕來候分其原由多クハ延米口米ト同義ノ分不少右ハ船中缺減或ハ運輸ノ節落散米等見込俵拵ノ節差加ヘ候合米トハ差別モ有之儀ニテ舊來勘定目錄諸帳簿等ヘ記載一村納辻ニ計算相成候分ハ當壬申年田畑正租其外改正不相成舊慣ニ據置候上ハ是亦舊慣ニ依リ收入可致品ニ付石代相願候上ハ都テ掛リ米ヲモ取束内譯ニ本米、掛リ米ノ譯委詳記載可伺出候最合併縣々ノ内ニハ種々ノ仕來有之候ニ付諸帳簿ヘ可書記品ニテモ從前記載不致分モ可有之假令記載無之トモ延口米ニ可引當ル品ニ候ハヽ舊慣ニ依リ收入可致ハ勿論ニ付精々注意可取調自然存廢難決廉モ候ハヽ詳細取調可伺出事

殊ニ田畑定金納定永納ハ舊來ニ於ケル貨幣品位ノ高貴ナル時ニ在テ之ヲ定メタルヲ以テ當時ヨリ視ルトキハ非常ノ輕租トナリ之ヲ米納セシムルニ比スレハ殆ト霄壤ノ差アリ從テ公平ヲ得サルカ故ニ明治五年九月十三日太政官布告第二百六十一號ヲ發シテ之カ增課ヲナセリ

田畑定金納定米納等(關東畑永ノ類)從前貨幣品位高貴ノ時相定候分ハ方今ニ至リ米納ノ貢額ニ比較致テハ格外偏輕相成不公平ニ付本年ヨリ一般改正ノ積被　仰出候條府縣ニ於テ相當ノ增稅ノ見込相立當十月限租稅寮ヘ可申立事但稅法一般均一有之候樣トノ御趣意ニ付兼テ管內ヘモ觸示人民疑惑無之樣說諭可致事

次ニ舊幕府ノ時代ニ於テハ國役金ト稱スルモノヲ或ル部分ノ國ヲ限リ賦課シ維新後尙存スルモノニ種アリ之ヲ准戶新殿造營費及川々堤防費トス造營費ハ村高百石ニ金七拾五錢ノ率ヲ以テ其直轄地及各藩其他社寺ノ領地ニ賦課スルモノニシテ旣ニ明治元年正月二十二日其不納ニ係ルモノニ對シ上納方ヲ達シタリ而シテ川々堤防費ハ亦直轄地及各藩領地ニ賦課スルモノナレトモ關東諸縣ハ前年則チ幕政中ニ係ル慶應三年ノ分未タ收納ヲ了セサルヲ以テ明治元年八月會計局ハ關東諸縣ニ向テ左ノ如ク達セリ

昨卯年川々普請國役金取集方之儀當年ハ其方共引請取集候積ニ付別紙之通最寄引分候條私領寺社領共高百石ニ付銀貳拾九匁九分ツヽ都テ其村々石高ヘ掛候筈ニ付銘々支配所ハ勿論最寄私領社寺領共不漏相觸萬石以上社寺領ノ儀ハ御料所ノ振合ヲ以取集十一月晦日迄會計局ヘ相納可申候且舊幕ノ節由緖有之高掛免除ノ村々ヘモ以來前々ノ通高掛被　仰付候ニ付差支ノ筋モ有之候ハヽ取調相伺一郡內引分支配イタシ候分ハ申合差支無之樣銘々取扱高役金掛ノ高竝御金納方等ノ儀ハ時々會計局ヘ相屆荒所其外免除可相成分ハ取調可被相伺候(別紙略ス)

然ルニ同年十二月九日ニ至リ同局ハ更ニ關東諸縣ニ向テ「諸國川々國役金ノ儀ハ取調ノ上追テ相達候迄上納ニ不及是迄納濟ノ分ハ一ト先下戻候間割返方可被取計候事」ト達シ以テ河川堤防修繕ニ要スル國役金ヲ一時免除スルコトヽセリ蓋シ本年ハ諸國凶災民力疲弊セルヲ以テナリ

然レトモ明治二年十一月二十八日ニ至リ民部省ハ川々國役金取立ニ付テ其取立納方ヲ美濃紙帳面ニ認メ明年正月晦日限土木司ヘ上納スヘキコトヲ各府縣ニ達セリ而シテ國役金ハ從來高百石ニ付金參分銀五匁ノモノアリ或ハ金貳分銀四匁八分ノモノアリテ其課率一定セサルノミナラス當時物價切ニ騰貴セルヲ以テ更ニ明治二年十一月民部省ハ達シテ曰ク

川々普請入費ノ義舊幕ノ節國役金取立相成候處御一新以來去辰年ノ儀ハ非常ノ水災疲弊ノ折柄ニ付御取立無之候得共常歲ハ國役ニ割合至當ノ筋ニ有之然ル處近年水害甚敷物價騰貴高掛以前ノ通ニテハ不相當ニ付當巳年ノ義ハ高百石ニ付金壹兩貳分宛取立其縣最寄萬石以下社寺領ノ分モ取集早々可相納尤委細ノ義ハ土木司打合可有之事

斯クテ從來ノ課率ヲ改メテ高百石ニ付壹兩貳分ニ增加セリ蓋シ諸川堤防ノ修繕費ニ供充スル國役金ハ工費總額ヲ十分シテ其一ヲ官費トナシ其九ヲ翌年ノ國役金額內ニ併算課收スルノ例規ナルカ物價騰貴シ加フルニ水災相踵キ堤防修繕ノ工費甚タ巨多ニ騰ルトキハ國役金モ亦隨テ之ヲ增徵セサルヲ得ス然レトモ一時ニ之ヲ增徵セハ下民困苦ニ陷ルヲ以テ前述セシ如ク修繕工費ニ比例セス石高ニ付之ヲ增徵シタリ然ルニ翌三年ニ至リ水害最モ甚シク今春ニ於ケル修繕工費ハ大率六拾萬兩餘ニ上ルヲ以テ例額ノ國役金ヲ徵收スルモ得テ之ヲ支辨ス可ラス且管轄內ニ大河巨川無ク若クハ國役營繕ヲ申請セサル各藩ノ苦情ヲ告訴スルモ亦故ナキニ非ス由之各藩ニ課收スル國役金ヲ廢止シ而シテ堤防ノ修繕ハ各藩ノ管轄內ヲ限リ自ラ處理セシムルニ如カス故ニ明

治三年ノ修繕費ハ前年ノ額ニ基準シ唯從來草高百石毎ニ金壹兩貳分ヲ納致セル國郡ノミニ之ヲ賦課セント同四年四月十九日民部省ハ府縣ニ對シテ左ノ令ヲ發セリ

川々堤防修繕入費國役金ノ儀今般諸川治水檢査掛出張一定ノ規則確定ノ筈ニ付追テ課稅法相立候迄先ツ去午年分ハ去々巳年ニ照準シ草高百石金壹兩貳分宛取立當未六月中ニ可相納尤委細ノ義ハ土木局ヘ打合可申事

然ルニ國役金徵收ノ方法タルヤ舊幕領及各藩領地ヲ限リ賦課スルモノニシテ固ヨリ百般更正ノ今日ニ至テハ此ノ如キ遺法ヲ存スヘキモノニ非サルカ故ニ明治八年二月二十日太政官ハ布告第二十五號ヲ公布シテ之カ徵收ヲ廢止セリ

舊幕府以來川々堤防費トシテ取立來候國役金ノ儀明治七年十二月三十一日限廢止候條此旨布告候事

第二款　地租ノ第二期（自明治六年七月至同十七年地租條例發布前）

第一項　明治六年地租改正條例ノ發布

第一目　地租改正條例ノ發布

既ニ前ニ述フルカ如ク明治維新ノ初ニ當リ政府ハ夙ニ從來ノ租稅制度ヲ釐革シテ全國劃一ノ法則ヲ布クノ必要ヲ認メタリト雖モ因襲ノ久シキ一朝ニシテ之ヲ改ムルハ民心ヲ動搖セシムルノ虞アルヲ以テ姑ク德川氏ノ舊慣ニ仍テ租稅ヲ賦課徵收スルノ方針ヲ取リタリ然レトモ德川氏ノ

遺制タルヤ素ト戰國ノ制度ニ淵源スルモノニシテ幕府ノ直轄地ト各藩諸侯ノ領內トハ自ラ其制ヲ異ニシ加之地ヲ檢シテ地位石盛ヲ定ムルコトノ如キ觀測ノ疎ト胥吏ノ奸トニ由リテ左右セラルヽコト少カラス且ツ年所ヲ經ルニ從ヒ漸ク土地ニ變易ヲ生スルモ之ヲ更正セサリシニヨリ遂ニ位石盛ノ公平ヲ失スルモノアルニ至レリ殊ニ檢見ノ法ハ請託苞苴其間ニ行ハレ易ク弊害最モ甚シカリキ故ニ維新以來議者往々田地ヲ再檢シ石盛ノ均シカラサルヲ整理シ以テ之ヲ公平ニセンコトヲ論シタリト雖モ檢地ハ從來人民ノ嫌忌スル所ナリシヲ以テ此ノ如キ議論ハ容易ニ實行セラレサリシカ明治三年六月ニ至リ時ノ集議院判官神田孝平ハ田租改革ノ建議ヲナシ大ニ舊來行ハレタル租法ノ弊害ヲ論シ此ノ弊ヲ除カンカ爲メニ新ニ土地ノ賣買ヲ許シ土地所有者ニ地券ヲ交付シ地租ハ地券記載ノ地價ニ應シテ金納セシムヘキコトヲ痛論セリ其建議左ノ如シ

田租改革建議　（明治三年六月）

神田孝平

竊ニ案スルニ我邦從來田稅ノ法地ノ廣狹ト肥瘦トヲ計リ且ツ歲ノ豐凶ヲ察シ生スル所ノ者何ニ限ラス總テ米ニテ納ムルナリ地ノ廣狹ヲ測ルカ故ニ檢地ト云コトアリ肥瘦ヲ測ルカ故ニ石盛ト云フコトアリテ上中下田ノ別ヲ立ツルナリ歲ノ豐凶ヲ察スルカ故ニ檢見ト云フコトアリ米ニテ納ムルカ故ニ運送ノ勞アリ又年々歲入多少ノ異ナルアリ此件々皆其弊アリ請フ其略ヲ述ヘン蓋シ海內ノ地古來イマタ檢地ヲ經サル者アリ上古ノ時檢地ヲ經タルモノアリ中古ニ經タルモノアリ近世ニ經タルモノアリ時代相異ナレハ自然伸縮ノ別ナキ能ハス之ニ加フニ檢地ノ術疎ニシテ測法精當ナラサル者アリ吏ノ姦ニ因テ量丈ヲ私スル者アリ右等ノ故ニ依テ方今民產甚タ平均ナラス然レトモ民皆檢地ヲ以テ稅ヲ重クスルノ方略トノミ思ヒ居ルコトナレハ

方今ノ勢ヒ之ヲ改ムルニ由ナシ是皆檢地ヨリ起リシ弊ナリ上中下田ノ別ニ付キテモ亦測法ノ疎ナル胥吏ノ奸トニ依テ不均ヲ致スコト檢地ニ同シ其他地形ノ變易ニ依リテ古今ノ不同ヲ致スコト少ナカラス故ニ古ハ水涸レテ下田トナルアリ古ハ卑濕ニシテ下田ナルモ今ハ水退テ上田トナルアリ然レトモ今之ヲ改正シ難キハ其理略ホ檢地ノ爲シ難キト同シ檢見ノ法其弊最モ甚シ胥吏ニ託シ田毎ニ其眼分量ヲ以テ豐凶ヲ定メシムルコトナレハ胥吏ノ奸何程アルモ之ヲ糺スニ由ナシ方今胥吏ニ奸ナキニ非ラス奸ヲ糺スノ法ナキ也米納ノ弊亦頗ル甚シ山林田畑等一切米ヲ以テ稅ト爲スカ故ニ田地少ナキ所ニテハ耕シテ得タル米ハ悉ク官ニ納メ山林等ノ產物ヲ鬻キ米ニ貿ヘ以テ食ニ充ツルナリ民生亦憐レムヘシ豈之ヲ以テ法ト爲スヘケンヤ斯クテ納ムル所ノ貢米民ノ手ヲ出テヽヨリ官倉ニ入ルマテノ間斗量津出シ廻送等官民ノ勞費大方ナラス又蟲喰鼠喰難船等ノ耗減アリ乃チマタ之ニ託シテ詰ル可ラサル奸贓アリツマリ民ヨリ出テシ丈ケハ官ニ入ラス中間ノ耗減イクハクナルヲ知ラス官既ニ貢米ヲ收メマタ之ヲ賣テ金ニ代ヘ以テ萬機ノ費用ニ供スルコトナレハ米價ノ高下ニ從テ政府ノ用度盈縮定マラス就テハ翌年ノ經濟ヲ今年ヨリ豫算スルコト能ハス俗ニ所謂成行次第ナリ是等ハ弊害ノ最モ大ナル者歟其他倉內ニ耗損アリ出賣ニ付米商ノ奸モアルヨシ弊害殆ント勝テ計フ可ラス之ヲ要スルニ從來ノ稅法ニ從ヘハ煩勞多ク耗減多ク奸贓多シ故ニ民ニ對シテハ不仁ナリ法ニ於テハ疎漏ナリ財政ニ取リテハ損失ナリ此數弊アリ速ニ改正セスンハアル可ラス

其一　方今稅法ヲ改正シ右ニ所謂諸弊ヲ除カントト欲セハ田地賣買ヲ許シ沽券高ニ準シ金子ニ

テ稅ヲ收ムルヨリ善キハナシ猶詳カニ之ヲ論スレハ先ツ田地賣買ヲ許シ每田ニ其沽券ヲ作ラシムル可シ且其沽券ニ役所ノ割印ヲ付シ印ナケレハ證據トナラサル趣ヲ令スヘシ如此スル時ハ是迄ノ沽券ナキ所モ不日ニ出來スヘシ沽券直段ハ地主ノ定メ次第ナルコト勿論ナリ然レトモ故サラニ廉價ニ申立テ稅ヲ免レントスル者有ル可ケレハ之ヲ防カンカ爲ニ一法ヲ立テ若シ地主ノ定ムル所ヨリ高價ニ買ハント云フ者アラハ之ヲ賣ルヘシ賣ルコトヲ欲セサレハ附直段ノ通リニ沽券直段ヲ改メ且其直段ノ一割ヲ與ヘテ之ヲ謝スヘキ由ヲ豫メ訓諭スヘシ扨亦府縣ノ下ニハ郡司トカ鄕役所トカ名付ケタル小役所ヲ置キ五箇村若クハ十箇村ヲ管シ管內田地ノ事ヲ掌ラシムヘシ其法役所ニ田券帳ヲ置キテ諸田券ニ書換ヲ爲シ稅ヲ收ムル時ニハ此帳面ノ沽券高ニクラヘ之ヲ受取ルナリ其他何人ニ限ラス一覽ヲ乞フ者アラハ之ヲ許シ寫ヲ乞フ者アレハ相當ノ寫料ヲ取リテ之ヲ寫シ官印ヲ附シ證據トナルヘキ樣ニシテ之ヲ與フヘシ是度外ニ廉價ナル田地アレハ餘人ヲシテ迫リ上ケシメンカ爲ナリ扨亦稅金高ヲ定ムル法ハ右ニ云ヘル小役所ニテ沽券帳ヲ吟味シ沽券ノ總金高ヲ求メ次ニ二十年間管內ヨリ納ムル貢米ノ平均高ヲ求メ平均相場ヲ以テ金高ニ直シ此金高ト前ノ沽券總金高トヲ比較スル時ハ各沽券ノ稅金高ヲ得ヘシ假令ハ沽券總金高參萬兩ニテ二十年ノ間貢米平均高千五百兩ツヽナレハ百兩ノ沽券ノ稅ハ五兩ナリ沽券總金高四萬五千兩ニテ二十年平均高貳千五百五拾兩ナレハ百兩ノ沽券ノ稅ハ七兩ナリ其他推シテ知ルヘシ是レ其算例ナリ納稅ノ手續ニ至テハ每年一定ノ期日ニ至リ田主自ラ稅金ヲ懷ニシ小役所ニ屆リ更ニ渡シ受取書ヲ取ルノミ別ニ煩勞費用ナシ吏ハ田券帳ニ引合セ是ヲ受取リ管內稅金ヲ總括シテ上廳ニモ兼ネ

テ管內小役所ノ沽券合帳ヲ設ケ置キ之ニ引合セテ受取リ總括シテ大藏省ニ納ム大藏省ニハ國中府藩縣ノ沽券總計帳ヲ設ケ置キ之ニ引合セテ受取リ以テ海內ノ稅金ヲ統一スルナリ租稅ノ法如斯ナレハ其利勝テ計フヘカラス先ツ檢地モ必要ナラス（檢地ハ經界ヲ定ムル爲ニシ租稅ノ爲ニセス）上中下田ノ別ヲ立ツルニモ及ハス檢見モ無用ナリ新田本田ノ混雜込高無地高ナリト云フ埒モナキ愚法ハ一切消盡スヘシ又金納ノ事ナレハ凶年ニハ別年ノ貯ヘヲ以テ稅ニ充ツルコトモ出來ルユエ民自作ノ米ヲ食フコトシテ他產多キ地ナトニテハ他產ヲ賣リ金稅ニ充ツルコトモ出來米少ナクヲ得ヘシ又升改メ津出運送等ノ勞費モナク勿論鼠喰破船等ノ耗減モナケレハ是等ニ託シテ奸賊ヲ爲ス患モナシ詰リ民ノ出タセシ丈ケハ悉ク官ニ納マリ途中ニテ耗減ノ立コトナシ最モ小役所ヨリ廳ニ至リ廳ヨリ大藏省ニ至ルマテ一々帳面ニ引合セ一定ノ金高ヲ收ムルコトナレハ決シテ其數ニ差違アルヘキ樣ナシ假令コレ有ルモ長官備サニ帳面ヲ吟味セハ一目ノ下ニ忽チ其差違ヲ生スル所以ヲ知ルコトヲ得ヘシ扨亦政府歲入ノ高年々同一ナル故ニ今年ヨリ來年再來年等ノ經濟ヲ豫計スルコトヲ得ヘシ是最モ治國ノ要務ナラン其他此法ヲ行ヘハ地價過高ナルハ次第ニ降リ過低ナルハ次第ニ昂リ民產次第ニ平均ヲ得ヘシ如何トナレハ民情稅ノ輕キヲ欲セサルハナシ然レトモ稅ヲ減スレハ地價モ亦隨テ減ス田價減スレハ買フヘシト云者アルトキ賣ラサルヲ得ス賣ルコトヲ欲セサレハ地價ヲ增サヽルヲ得ス田價增セハ稅モ亦隨テ增スナリ故ニ稅ヒトリ隨意ニ增スコトヲ得ス其間ニ自然ト中正ノ法定マリテ以テ平均ニ至ルナリ且此法田地ノミナラス畑野山町在人家土藏渡場物揚場等一切地著ノ租稅ニ通用スヘシ最モ簡易明白ノ法ナレハ是迄ノ如ク精幹廉直ノ吏ヲ選ムニ及ハス僅

カニ算筆ノ心得サヘアレハ平用ノ人物ニテ用モ辨スヘシ私曲モ爲スマシ是亦一益ニ備フヘシ

其二　前編改革ノ稅ヲ見テ之ヲ難スル者アリ曰ク古ハ民口ヲ計リテ土田ヲ給ス兼併ヲ防キ貧富ヲ均フスル所以ナリ今俄ニ田地賣買ヲ許サハ古法ニ反シ後害ヲ生スルノ怖レナキヲ得ンヤ答曰人ノ情智愚アリ勤惰アリ其智勤儉ヲ兼ヌル者ハ漸ク富ミ愚惰奢ヲ兼ヌル者ハ漸ク貧シキハ當然ノ理ナリ然ルニ今兼併ヲ防キ貧富ヲ均フセントス欲セハ勢ヒ必ス富者ニ奪ヒ貧者ニ與フルニ至ラン今其弊ヤ智勤儉ヲ抑ヘテ愚惰奢ヲ勸ムルニ至ラン是レ斯民ヲ驅テ窮苦ノ中ニ陷ルヽノ說ナリ尤民ニ貧富ノ等アルハ善キコトニハ非スト雖トモ之ヲ均フスルノ道ハ甚タ難シ民ノ愚惰奢ヲ遏ムルノ要ハ天ノ之ヲ罰スルニ任スニ如クハナシ右ノ外地形ノ變易ニ依テ古ハ上田ナリシモ今ハ下田トナリ古ハ下田ナリシモ今ハ上田トナリ其上田ヲ有スル者ハ日ニ貧シ又一種狡黠ナル民本田ハ稅重ク新田ハ稅輕キカ故ニ好テ新田ヲ開キ以テ蓓蕾ノ利ヲ謀ル者アリ是等ハ古來之ヲ禁セント欲シテ未タ之ヲ禁スルコト能ハス畢竟沽券法ヲ行ハサル故ナリ今之ヲ行ヘハ田地ノ利多キ者ハ人爭テ買ハンコトヲ欲シ田價ヲ迫リ上ル故ニ其稅亦隨テ增シ其利少ナキ者ハ人爭フテ賣ランコトヲ欲シ田價ヲ迫リ下ル故ニ其稅亦隨テ減シ以テ平均ニ至ナリ沽券稅法ノ要用ナル如此ナレハ古ノ法今ニ至ルマテ全ク存スルモ猶之ヲ改メサル可カラス況ンヤ戰國以來田地ヲ民ノ勝手ニ賣買スルコトニ成リ來レルコト久シ今ノ田地ハ民ノ買得テ有スルモノニテ官ヨリ之ヲ渡シタルニハアラス今其賣買ヲ堅ク禁セントナラハ一應悉ク官ニ買上ケ改テ民ニ渡シタル後ニ非ラサレハ條理ニ適ハサル所アリ德川氏ノ中葉賣買禁止ノ令アリト雖モ元來不當ノコトナル故ニ之ヲ實行スルコト能ハス今ニ至リテハ表向ハカリ賣ト云ハ

スシテ又質ト云ヒ沽券ト云ハスシテ讓證文ト云フノ違ヒノミニテ其實ハ賣買ニ異ナル者ナシ
如此空名ニテハ假令賣田禁止ノ法善美ナルモ其實益ナシ況ンヤ其善美ナラサルニ於テヲヤ彼
ト云ヒ此ト云ヒ斷然此虛法ヲ廢シ沽券稅法ノ實益ヲ謀カルニ如カサルナリ
而シテ神田氏ノ所論ハ頗ル時弊ニ中ルモノアリ世論漸ク之ニ傾クニ至レリ然レトモ遽ニ稅法ヲ
改ムル能ハサリシヲ以テ大藏省ハ同年七月檢見規則ヲ定メ各縣ニ頒布セリ
既ニシテ明治四年七月廢藩置縣ノ一大變革アリ全國悉ク政府ノ直轄ニ歸シタリ然レトモ其結果
一縣ニシテ數十種ノ舊藩領地ヲ合併スルモノアリ或ハ又一藩ノ領地ニシテ數縣ニ分屬スルモノ
アリ稅法區々紛雜ヲ極メタリ而シテ曩ニハ農民一領主ニ隷屬セシヲ以テ敢テ他ヲ顧ミサリシモ
今ハ互ニ稅法ノ異同ヲ討議シ彼我ノ輕重ヲ比較シ其不幸ヲ訴フルモノ日ニ多キヲ加フルニ至レ
リ此時ニ當リ檢見規則ニ由リ租額ノ平準ヲ求メント欲スルモ從來歩積ノ伸縮錯亂セルモノニ對
シ其實積ヲ照査セスシテ徒ニ段別ノ稱呼ニ依テ租額ヲ定ムルハ猶其本ヲ校ラスシテ其末ヲ齊セ
ント欲スルモノヽ如ク決シテ平準ヲ得ヘキモノニ非ス故ニ地方官之カ所置ニ困シミ其方策ヲ大
藏省ニ請フモノ踵ヲ接スルニ至レリ是テ於テカ租稅權頭松方正義ハ地租改正ノ急務ナルヲ念ヒ
租稅寮中ノ吏員ト商量シテ地租改正意見ヲ審案シ以テ大藏卿輔ニ啓沃スル所アリタリ其意見ノ
要旨ヲ舉クレハ左ノ如シ

一　地所ノ耕作ハ其持主ノ自由ニ任ス可キ事

封建ノ時代ニ於テハ國主相互ニ割據シ相互ニ交際ヲ拒絕セントシテ其國境ハ多ク峨々タル
連山若クハ大河ヲ以テ之ヲ爲セリ故ニ偶〻其一國ニ於テ飢渴ノ難ヲ受クルモ其隣國ハ直チニ

之ヲ救助スル等ノ事ナキヲ以テ國主ハ豫シメ米穀ヲ蓄藏シ而シテ又其臣民ヲシテ假令ヒ他
種ノ耕作ニ有益ノ時ト雖トモ强テ穀物ノミヲ耕作セシメタリ是ニ因テ之ヲ觀レハ封建時代
ノ耕作ハ大ニ其自由ヲ失ヒシモ今ヤ然ラス政府自ラ外國貿易擴張ノ主義アルニアリ今夫レ
耕作ノ自由ヲ壓抑スルハ人民幸福ノ進道ヲ遮リ次テ全國ノ財產ヲ妨害スルニ及フヲ以テ本
項ノ起ル敢テ狐疑スルニ足ラサルナリ

二　地所賣買讓與ハ勝手タルヘキコト

本項ハ地所賣買讓與等ノ自由ヲ以テ專ラ趣旨トセリ夫レ日本ノ外交以前ハ只一國內ニ於テ
其貿易ヲ爲スニ止マリキ故ニ前政府ハ國家ノ平和ヲ維持シ又ハ財產ノ平等ヲ得セシメン爲
メ全國ノ物產ヲ稍〻同シク區分シ以テ國主ヘ各〻分與セリ爰ニ於テ地所賣買ヲ許シタランニハ
一手ニシテ多クノ財產ヲ占有センモ知ル可ラサルヲ以テ之レヲ禁シタリ然リト雖モ公ニハ
永代貸地定約ヲ名トシ陰ニ之ヲ賣却セシ等詐欺ノ所業アルヨリ彼ノ禁令ハ有名無實ニシテ
全ク無功ニ屬シタリ又斯ノ如キ振合ヲ以テ地所ヲ買得スルモ法律上ニ於テ所有權ヲ有セサ
ルヨリ不都合ノ起ル大ニシテ且ツ不安心ナリキ故ニ財政ノ困難ハ前ヨリ今ヲ以テ一層甚シ
トス因テ地所賣買等ノ自由且眞ノ所有權ヲ得セシムルヲ法ノ善ナルモノト知ル可キナリ

三　穀物ノ輸出入ヲ允許ス可キコト

（前政府ニ於テハ輸出ヲ禁シタリキ）

今農夫ニシテ耕業ノ道ヲ知ルモノハ必ス有益ノ物產ヲ播殖セシメントスルヤ明ナリ因テ物
產ノ輸出入ヲ禁スルニ於テハ農商密付ノ關係ヲ有スルヲ以テ自然農業ハ却歩シ物產ハ播殖

セサルニ因リ本項ノ起ル他ナキ所以ナリ

四　地引繪圖ヲ精細調製スルコト

以上三件ハ其自由ニ任ストスルモ只ニ之ヲ農民ニ放棄シ敢テ之レカ取締ヲ立サレハ此自由ハ直チニ增長シテ人民社會ノ經營ヲ妨害スルノ場合ニ至ルモ知ル可ラサルヲ以テ政府之ニ關涉シ單ニ人民ヲシテ互ニ信用ヲ得セシメ而シテ之レカ取締ノ不便ヲ來タサヽルヲ以テ簡要トス偖又容易ニ一事ヲ爲サンニハ先ツ其ノ事ヲ明瞭ニ且ツ適當ニセサル可ラサルヲ以テ地所ハ勿論之ニ關スル百般ノ事項ハ綿密臺帳ヘ登錄スルヲ以テ要用トス因テハ各地引繪圖ヲ調製セサル可ラサルカ此等ノ成功ヲ得ンニハ如何ナル方便ヲ用ヒシヤ下文ヲ見テ知ル可キナリ抑〻封建時代ニ於テ地所檢查ノ爲メ其檢地員ヲ派遣スルニハ一ニ地租ヲ增加スルノ方策ヲ求ムルヲ以テ目的トセリ故ニ農民ノ檢地員ヲ見ル不幸ノ兆候トセシカ如キモ亦理ノ然ル可キ所ナリ然ルニ今檢地員ヲ各所ニ派出セシメ彼ノ地引繪圖ヲ調製セントセハ盲昧ノ農民等己レ幸福ノ讎敵ト思ヒ動搖スルカ如キニ至リテハ爲メニ本志ヲ達シ能ハサルモ知ル可ラス因テ之レカ危難ヲ避ケン爲メ先農民ニ說諭スルニ地所臺帳整理次第各地券ヲ附與ス可キニ付地所ハ其持主自ラ測量スルヲ許ス可キ旨ヲ以テセリ爰ニ於テ農民ノ一ハ其地券ノ完全ヲ得ン爲メ其地所ノ實地ニ劣ラサル申告ヲ爲シ一ハ課稅ノ如何ヲ察シ其反對ニ出ツルニ由リ之ヲ略スレハ稍〻精密ノ申告ヲ爲セリ中ニ就テ少シク不完全ト認メシモノハ其後日ニ至リ之レカ竿入檢查ヲ遂ケタリ此等ノ方便ヲ以テ之ヲ爲セシニ由リ僅少ノ費用ヲ以テ兩三年間ニシテ地引繪圖ノ完全ヲ見ルコトヲ得タリキ

五　地價ヲ定ムルコト

自古未曾テ租稅一定ノ方法ハ政權ノ以テ之ヲ立得サリキ試ミニ彼ノ維新前ヲ見ヨ國主各自ニ其法ヲ立其租額ヲ定メ來リシニ由リ今更ニ地價ヲ定メンニハ種々ノ困難ヲ生ス可シト雖モ政府ハ其權理ヲ以テ之レヲ掃除シ平等ノ法ヲ立ツルヲ要用トス是卽チ本項ノ趣旨トスル所ナリ

六　地價ニ從ヒ租額ヲ定ムルコト

鎌倉政府ノ地租徵收法ハ多ク本旨ニ似タルヲ以テ之ヲ望ムモ當世ノ事不分明ニシテ知ル能ハス而シテ又德川政府ノ規則ハ甚タ精密ヲ極メシモ其起ル原因ノ異ナルヲ以テ少モ適合スルナシ然ラハ則租稅法則ヲ立テンニハ如何シテ可ナランカ本項ノ法ヨリ外ナカルヘキナリ

七　地所持主ヘ各地券ヲ附與スルコト

臺帳整頓ノ日ヲ待チ地券ヲ付與スルハ則チ本項ノ目的トスル所ナリ

右租稅權頭ノ意見ニ基キ大藏省ハ明治四年十月租稅賦課法釐定ニ關シテ太政官ニ建議スル所アリ正院乃チ大藏省ノ意見ヲ採用シ明治五年正月始メテ東京府下ニ地券發行地租收納規則ヲ施行シ之ニ依テ地價ヲ定メ以テ地租課稅ノ標準トナシ次テ東京府以外ノ各府縣ニ於ケル舊士族邸地及地子免除ノ市街地ニ對シ地券制度ヲ實施シ更ニ同年二月ニ至リテ地所賣買ノ禁ヲ解キ次テ地所ノ賣買讓與アルトキハ地券ヲ下付スルコトヽシ同年七月ニ至リテハ從來土地ヲ所有セシモノニ對シテモ亦一般ニ地券ヲ交付セリ故ニ地券附與ノ制度ハ此ニ至テ始メテ全國ニ普及セリ然レトモ地券記載ノ段別及地價ハ地主ノ申立ニ任シタルヲ以テ其實ヲ得サルモノアリ又地券課稅ノ

制度ヲ全國ニ實施スル議未タ決セサリシヲ以テ前記ノ市街地等ノ外ハ該稅法ヲ施行スルニ至ラスシテ依然舊法ニ仍リタリ

是ヨリ先キ同年五年陸奥宗光亦田租改正ノ建議ヲ爲シ現在田畑ノ實價ニ從テ其幾分ヲ課シ以テ地租ニ充ンコトヲ論セリ而シテ其論旨ハ先ニ神田孝平ノ建議セシ所ト大同小異ナリト雖モ地租改正ニ與テ力アル建議ナルヲ以テ左ニ之ヲ揭ケン

伏惟フ本邦田租ノ法古今時代ノ沿革ニ從ヒ種々變改遂ニ今法ニ及フ而シテ其法タル一得一失未タ全備ニ至ラス蓋シ檢地多クハ其實ヲ失シ石盛多クハ其度ヲ誤ル且ツ歲月ノ遷移民力ノ增減ニ從ヒ古者ノ上田ナルモノ今者ノ下田トナリ其下田ナルモノ却テ上田トナリ又田畑ニ伸縮ノ差アルアリ肥瘠ノ別アルアリ以テ租稅ノ甘苦ヲ釀ス襲習ノ久シキ上下之ヲ常トシテ怪マスト雖モ其民ニ害アル甚シト云フヘシ而シテ今之ヲ一定改正セント欲セハ盡ク天下ノ田畑ヲ檢量シテ釐正セサルヲ得ス乃チ檢地以テ地ノ廣狹ヲ正シ石盛以テ地ノ肥瘠ヲ定ムルニ過キス其術タル之ヲ一郡一村ニ施コスモ尙容易ナラス況ンヤ天下ノ大幾許ノ人ヲ勞シ幾許ノ時ヲ費スヲ知ル可カラス其間奸吏隨テ私曲ヲ逞シ黠民從テ狡計ヲ恣ニスルコトヲ得ヘシ假令其奸ト黠トヲシテナカラシムルモ推測成算ノ間亦誤失ナキヲ保タス才能老練輩ヲシテ其主宰タラシムルモ其成功ヲ期ス茫乎トシテ際涯ナシ是其地ニ現在シテ今日洗除シ能ハサル弊害最モ著名ナルモノナリ況ンヤ今法ノ如ク闔國ノ租稅盡ク米穀ヲ收納スルノ弊猶是ヨリ甚シキモノアリ如何トナレハ政府理財ノ道ニ於テハ歲入歲出ヲ算豫セシメ確定セサル可カラス乃チ明年ノ經費ハ今年ヨリ豫算セサル可カラス而シテ明年ノ豐凶今年ヨリト知ス可カラス故ニト知スヘカラ

サルノ租稅ヲ以テ豫算セサル可ラサルノ公費ニ用ヒントス卽チ未定ノ歲入ヲ以テ必要ノ歲出ヲ量ラサルヲ得ス理財ノ術亦難カラスヤ且夫租稅米穀ヲ以テ收メシムルノ法封建ノ世ニ於テハ其運輸スル各部內ニ在リ之ヲ消費スル亦多クハ各部內ヲ出テス故ニ上下尙未タ其弊ヲ見スト雖モ今ヤ郡縣ノ制課率ノ方法必ス一途ニシテ全國ノ租稅必ス之ヲ一處若クハ兩所ニ輸入セサルヲ得ス陸ニハ運輸ノ失費ヲ出シ水ニハ破船ノ危難ヲ抱ク凡ソ收稅法ノ煩雜疎漏ニシテ且不公不平ナル之ヨリ甚シキハナシ臣故ニ左議ヲ呈ス卽チ今法ノ內租ヲ一變シ從來ノ石高段別石盛免檢地檢見等一切ノ舊法ヲ廢除シ現在田畑ノ實價ニ從ヒ其幾分ヲ課シ年期ヲ定メ地租ニ充ントス其例假令田地原價ノ百分ノ五ヲ地租ト假定スヘシ玆ニ甲田一地アリ其地固ヨリ膏腴ニシテ水利ノ便アリ其價必ス貴トクシテ壹千圓ナル可シ其地租ヲ五拾圓トス又乙田一地アリ其廣狹甲田ニ同シト雖モ其地固ヨリ瘠土磽确ニシテ耕作ニ便ナラサレハ其價モ亦必ラス卑シテ五百圓ナルヘシ乃其地租ヲ貳拾五圓ト定ムヿ是迄ノ上中下田ノ稱ヲ混同シ唯其地ノ眞否肥瘠ニ就テ其價ヲ出サシムヘシ其價ニ就テ稅ヲ定ムル故ニ其地眞肥ナレハ田價必ラス貴ク田價貴ケレハ地稅必ラス重シ之ニ反シテ其地否瘠ナレハ田價必ス卑シ田價卑ケレハ地稅必ス輕シ如此ナレハ上下互ニ損耗ナク勞ヲ省キ煩ヲ去リ地租以テ中正平均ニ至ルヘシ臣曩ニ大阪、兵庫、和歌山ニ在職シ其法ヲ計考シ略ヾ定算ヲ得タリ又嘗テ一二ノ老農ニ資問シ村里ノ實際ヲ悉セリ之ヲ勘量ヲスルコト略ヾ熟シ施行ノ術亦甚タ難カラサルヲ知ル若シ臣カ議ヲ以テ採ル可アルトセハ願クハ之ヲ大藏省ニ下シ臣ト合議シ取捨斟酌以テ施行スルコトヲ得セシメヨ卽チ施設ノ方法ノ如キハ實施ニ就キ詳密ニ具狀スヘシ謹言

明治五年七月大藏省ハ地租ヲ一般ニ改正スヘキ旨ヲ各地方官ニ達シ併セテ其意見ヲ徵セリ其文左ノ如シ

租稅改正ノ大旨各地方官ヘ達

租稅者經國之要務政府之大任固ヨリ不待論之處去ル戊辰年御一新繼テ辛未年廢藩置縣之後モ租稅法者先ツ舊貫ニ從ヒ候振合候處追々時勢文明ニ赴キ候ニ就而者全國之租稅法一途ニ出テ偏重偏輕之患ヲ相改中正公平之法ヲ被設候御趣意ヲ以去年以來追々伺濟舊來之租稅法ハ漸々相改メ遂ニ全國一般沽券租法施行可相成積ニ付猶御規則等者不日御通達可申候得共爾後之心得振モ可有之候間此段各位迄申進置候猶御見込モ有之候得者描者共迄御申越有之度此段申進候也

租稅頭　陸奥宗光

租稅權頭　松方正義

次テ翌六年一月三十一日大藏省達第七號ヲ以テ四月一日ヲ期シ各地方官ヲ召集シ地方緊急ノ件ニ付議スル所アラントス

今般地方緊要之件々合議之上其宜ヲ求メ改正候ニ付別紙記載ノ件々迅速取調道路遠近之遲速ヲ量リ來ル第四月一日ヲ期シ長官次官ノ內一員出京可有之事故有之出京難相成候ハヽ奏任出仕ノ內出京可有之但別紙條件ノ內當省ヨリ相達既ニ取調差出有之候分竝巡回官員於出張先取調相分リ候分目今相達致候廉無之候ハヽ此度敢テ取調ニ不及

（別紙）

一　租稅之事

附リ　夫米夫金之事

一　物產種類之事

一　去ル辛未十月ヨリ壬申九月迄收入總計竝廳費若干上納若干未納若干取調之事

一　延米、口米永、差米、目溢米之類貢米ニ課シ取立候種類高割付之分或ハ他之方法共一箇年收入ノ總計取調之事

一　舊來四公六民六公四民等各種取立樣之事

一　管內舊貫區々之分等平均ヲ求メ昔日ニ比シ多少ノ平準ヲ失ヒ候儀無之トモ難申ニ付比較概算取調之事

一　地券稅施行方法於實際著手ノ順序見込之事

一　相撲狂言之類諸興業竝遊女、藝妓稅一箇年收入總計取調之事

一　舊來水旱損用捨引換地荒地手當米下渡方等區々有之候件々取調之事

一　朱印地竝寄付等高入竝未高入ニ不相成分取調之事

一　地所賣買之節原價ニ割合一箇年之利益何朱ト定メ賣買致シ候哉實際ノ模樣取調之事

一　於管下是迄相廢候雜稅之種類取調之事

一　置米金竝第一、第二常備金之事

一　新縣已來壬申九月迄遣拂ヒ員數總計竝同十月ヨリ明治六年十二月迄費用見込之事

一　華士族卒給祿竝賞典祿其他米金費用之事

一 町用村用竝惣テ民費ヲ課スル事
一 米金取立高之事
一 割賦取立仕様之事
一 遣拂之廉々取調之事
一 水利、堤防、道路、橋梁、樋管、用惡水路之事
附リ 神社、官舍、倉庫、牢獄其他一切官ヨリ仕拂之分取調之事
一 從來修繕仕法之事
一 右ニ付入費高之事
一 入費高從來官ヨリ取賄來候分或ハ歩通手當又ハ民費ヘ課シ取立候仕法竝金高等取調之事

此ニ於テ明治六年四月各地方ノ長次官七十餘名ヲ大藏省ニ會合シ地方要務ノ問題若干項ヲ議セシメ大藏大輔井上馨親ク之カ議長タリ其議題ノ最モ重大ナル者ハ地租改正ノ方法是ナリ當時各議員ノ說大約三派ニ歸ス

一 甲ノ說ハ舊慣租額(前一十箇年乃至若干年ヲ平均ス)ヲ金位ニ換算シ之ヲ地券ノ段別ニ賦課シ漸次各地ノ品位ト其租額トヲシテ交ゝ相適當スルニ至ラシメント希望スル者其一ナリ
一 乙ノ說ハ其枝葉ヲ瀾縫スルヨリハ寧ロ根底ヲ更植スルニ如カス故ニ斷乎石盛ヲ廢シ檢見ヲ止メ地價賦稅ノ晝一ナル新法ヲ行ハントヲ希望スル者其一ナリ
一 丙ノ說ハ地租ノ改正セサル可カラサルハ則チ固ヨリ言ヲ竢タスト雖モ古例舊慣ハ遽ニ痛除シ易カラス故ニ五六年間姑ク德川氏ノ舊規ニ依リ專ラ中正ナル檢見法ニ從テ其田租ヲ收メ以テ各地租額ノ偏畸ヲ矯正シ而シテ逐次ニ地券ヲ授與シ人民ノ漸ク舊態ヲ脫シ新制ニ慣ルヽヲ俟テ然ル後ニ晝一ノ新法ヲ行ハントヲ希望スル者其一ナリトス

而シテ此等ノ說ニ對シ當時租稅事務ニ執掌セシ松方正義ハ左ノ如ク評セリ

舊慣穀納ハ其運搬納付極テ煩ク嘗ニ人民其勞費ニ堪ヘサルノミナラス每歲市場穀價ノ昂低素ヨリ常ナク國產ノ財計得テ豫算スヘカラス故ニ穀納ハ金納ノ便ニ如カサル明瞭ナリ然ルモ每地每號ノ收穫地價ヲ細穿シ始メテ之ニ賦稅スルカ如キハ其煩擾果シテ如何ソヤ寧ロ每村每郡ノ租額(前一十箇年乃至若干年ニ平均ス)ヲ其穀代金額ニ算出シ以テ之ヲ每村每郡ノ定額(若干年間定額ト爲ス者)地租ト爲スニ如カスト謂フ者是本文第一派ノ所見ナリ十年ノ今日ヨリ之ヲ顧思スレハ此說ハ頗ル中庸持重ナルヲ覺ユ然レトモ當時議場七十餘員ノ議者之ニ左袒スル者最モ僅少ナリシ所以ノ者ハ何ソヤ各州各郡各村ノ地租某郡ニ在テハ極テ偏重某郡ニ在テハ極テ偏輕而シテ當時ノ議員其管內地租ノ偏重ヲ病ム者凡ソ十ノ七ニ居レリ故ニ改租ヲ議スルヤ重租地方ノ長、次官ハ銳意舊租ヲ痛掃シ以テ彼此租額ノ輕重ヲ全國ニ平均セント企望セサルハ莫シ之ニ反シテ此說ニ從ヘハ遽ニ全國租額ノ平均ヲ欲セス唯各國郡內ノ偏輕偏重ヲ漸正シテ姑ク已マント企望ス是レ衆議員ノ之ヲ排斥スルノ居多ナリシ所以ナリ

上文ニ縷述スルカ如ク重租ヲ病メル地方ノ長次官ハ大概新法ニ熱中セサルハ莫シ故ニ後世ヨリ之ヲ皮相スレハ第二派ノ所見ハ急進ニ過キタル者ノ如シト雖モ假ニ身ヲ當時我カ國庫ノ龕底ニ置キ平心深慮スレハ其說ノ實ニ已ムヲ得サル所以ノ者アルハ多言ヲ竢タスシテ明瞭ナリ

顧ミルニ我邦數百年來經濟理財ノ法支離滅裂ノ餘弊ヲ承ケ地租ニ關スル法則ノ如キ前後錯雜ニシテ之レカ改革ハ僅ニ一部分ノ權力ヲ以テ得テ之ヲ爲シ難ク唯粗暴ニ手ヲ下セハ尚不都合ヲ釀生セシモ知ル可ラス故ニ其正當ノ改革ヲ爲サントス欲セハ先ツ其惡根ヲ芟除シ以テ鞏固タル基礎ヲ立サル可ラス而シテ今一國內地租ノ一定法ヲ立テ而シテ明瞭ナル徵收法ヲ立テンニハ假令地所ノ測量地價ノ査定ニ付若干ノ困難ヲ受クルモ撓マス屈セス之ヲ掃除シ以テ本志ヲ達セスンハアル可ラサルナリ是レ當場ノ議員カ最モ多ク此說ニ左袒セシ所以ナリ

第三派ノ所見ハ最モ持重ニ似タリ然リト雖實際ニ適シ難キヲ如何セン何トナレハ則チ德川氏ノ舊規ハ檢見收租ヲ主トシ檢見ノ妙處ハ意匠ノ活用ニ在リ德川氏ノ稅吏大約其職ヲ世ニシ碧亂ヨリ稅算租牒ノ中ニ成長シ以テ其地方ノ稅務ニ服事ス地ノ肥瘠穀ノ豐歉ニ於ケル眼ハ算トシテ毫モ惑フ所ナシ其人太タ不貪墨ナルニ非サルヨリハ以テ收租ノ平準ヲ維持スルニ足レリ然ルモ尚ホ屬ミ其流弊ニ苦メリ況ヤ維新以降ハ陸羽ノ人肥筑ヲ治メ豫土ノ士加越ヲ管シ管廳ト部民トノ間動モスレハ事情通セス其甚キハ言語スラ尙ホ且相通セサル者アリ彼ノ檢見ノ妙處ヲ以テ此ノ如キノ官民間ニ求ムルハ抑ミ亦難カラスヤ且寧ロ薄稅ニ失スルモ重歛ニ流レサルハ地方官ノ常情ナリ其情ノ弊タル武斷以テ地租ヲ輕減シ雜稅ヲ蠲除スルニ至ル是ヨリ先キ元年八月各地方ニ令シ漫ニ其稅率ヲ增減スルヲ督戒セシハ洵ニ所以アルナリ然ルヲ今此說ニ從ヒ地方官ニ委付スルニ檢見收租ノ權ヲ以テセハ其收租ハ將ニ日ニ減ニ偏スルヤ必セリ蓋維新以後檢見ノ爲メニ田租ノ逐年ニ減ニ偏シタル實例ヲ見ルアルナリ顧フニ其減租ノ效功ヲシテ能ク純ラ窮氓塞民ニ覃及セシメハ則チ仁恤ノ意ニ負カスト雖其實ハ決シテ然ラス徒ニ漫然減去シ其實利ハ却テ豪農殷戶ニ歸スルニ過キス其然リ檢見ノ實際ニ行フ可ラサルヤ斷シテ知ルヘシ是レ此說モ亦左袒スル者ノ僅少ナリシ所以ナリ以上三派ノ說ハ唯其進步ニ漸急ノ別アルノミ之ヲ要スルニ皆舊租ノ積弊ヲ除クヲ熱望セサル者ナシ議長乃チ議員中若干員ヲ別選シテ委員ト爲シ地租改正法ヲ草案セシム案成リ會ミ大輔故アリ遽ニ其官ヲ辭ス參議大隈重信大藏省事務總裁ト爲リ議場ヲ總括シ其案ヲ議員ニ頒示シ逐款事理ヲ審議セシメ而ル後ニ始メテ之ヲ議決セリ此ニ於テ同年五月十九日大藏省事務總裁ハ法案ヲ具シテ之ヲ正院ニ上申セリ

地租改正之儀正院伺

地租改正之儀ニ付壬申正月中上言仕候趣有之全國一般地所賣買被差許其賣買スル每ニ漸次地券相渡シ候規則御發行相成前途地券稅法發行ノ端緒相開キ其後尚又一般地券渡方之儀陳述仕同年七月各地方官ヘ布達致シ目今ニ至リ追々渡方ノ手順相運居候ニ付尚前途改正著手ノ方法取調之上可仰上裁積リニ有之候處今般地方官會同議事之際地租改正之儀評議致シ候處各地方議員中或ハ著手緩急之見込聊異同有之候得共到底地券稅法施行スヘキニ一決シ議員中ヨリ數名ヲ選擇シテ租稅頭等ト熟議ノ上租稅寮ニヲイテ其著手之方法ヲ調査草案爲致猶亦再ヒ議事場ニ出シテ討議セシメ各議員之意見ニ因テ聊修正ヲ加ヘ則甲印簿冊之通決議仕候抑稅法施行ノ要ハ特リ地ヲ耕シ力ヲ勞スルモノニノミ課セスシテ物品ヲ消費スル者ヨリ出サシメ物產ノ繁殖ヲ誘導シ闔國ノ殷富ヲ資クルヲ以本旨ト致シ候儀ニ付地租ノ如キハ則耕耘勞力ノ者ヨリ收入致シ候儘ニ候得者今一層輕ク相課シ候方經濟ノ本旨ニ相適シ可申候得共舊來ノ稅法ハ專

ラ之ヲ土地ニノミ賦課シ其地上ニ有之候物品諸稅ノ如キハ措テ不問シテ自然ト其稅額ヲモ地租中ニ包含イタシ居委ニ有之卽今之ヲ區分難致候間先以當今ハ地價百分ノ三ヲ地租ノ額ト相定今後物品諸稅ヲ興シ其稅額增加スルニ隨テ漸次地租ト物品稅ヲ區分シ遂ニ地租ハ原價百分ノ一ニ歸著セシムヘキ目的ヲ以取調候儀ニ有之尙其他巨細ノ儀ハ乙印簿冊中ニ詳論仕候間是亦御照考相成度依之別冊二數相添申上候也

明治六年五月十九日

大藏省事務總裁

參議 大隈重信

正院 宛

追テ御裁決相成候ヘハ速ニ御發令相成度自然前途改正ノ義御發令無之候ヘハ舊藩々々各種ノ稅法等不得止姑息ノ改正致候樣相成無益ノ手數相增候ノミナラス到底平準ヲ得ヘカラサルハ勿論或ハ名實相誤ヨリ民心ニモ關係可致候間夫是御斟酌有之度候也

御布告案

今般稅法改正ニ付舊來ノ田畑貢納ノ法ハ悉皆相廢シ更ニ地券調査相濟次第土地ノ代價ニ隨ヒ百分ノ三ヲ以テ地租ト確定候條以後定ノ通上納可致且稅法改正ノ趣旨別紙條例ノ通リ可相心得事

年號月日

地券發行條例

第一章 今般稅法改正ノ義不容易事業ハ申迄モ無之其調查不得宜時ハ其得失ノ上下ニ關スル不勘候間反覆審案調查可致尤土地ニヨリ緩急難易有之者勿論ニテ各地方トモ一時改正難出來筈ニ付成功ノ速カナルヲ要セス詳密整理ノ見据相立候上舊稅法相廢シ新法施行致候儀ト相心得其見据相立候得ハ施行前大藏省ヘ可申立事但一管內悉皆整理無之候トモ一郡一區調查濟ノ地方ヨリ適宜施行致不苦候事

第二章 地券法施行相成候上ハ土地ノ原價ニ從ヒ賦稅致候ニ付以後例令豐饒ノ年ト雖モ增稅不申付ハ勿論違作ノ年柄有之候トモ減租ノ儀一切不相成候事

第三章 地券稅施行ノ上ハ田畑ノ稱ヲ廢シ總テ耕地ト可相唱事

第四章 屋敷地ノ義從前畑株ヘ組入候仕來モ有之候處自今宅地ト可相唱事

第五章 地券稅法施行ノ地ハ町段畝ノ稱ヲ廢シ自今步數ヲ用ヒ諸帳簿ニモ記載可致事

第六章 天災ニヨリ地所變換致シ候節ハ實地點檢ノ上損潰ノ厚薄ニヨリ其年限リ免稅又ハ起返ノ年限ヲ定メ年季中無稅ニ可相定事

第七章 地券稅額百分ノ三ト確定候義ハ從前全國普通ノ地租五公五民ノ稱アリト雖モ其實概ネ三公ヨリ重カラス七民ヨリ輕カラサルヲ以テ右ノ通相定メ候義ニテ畢竟人民ノ作益貢租トモ不公平無之樣トノ御趣意ニ有之候條土地ニヨリ舊法偏輕ノ分ハ相增偏重ノ分ハ相減シ竟ニ中正公平ノ域ニ可立至義ニ付一人一己ノ上ニ於テ聊ツヽ損益可有之ハ勿論ノ事ニテ數百年來ノ稅法一洗ノ際ニ膺リ不得止次第ニ付御趣意ノ程奉體致シ叨リニ苦情等不申立樣兼而可心得置事

第八章　地稅ノ義ハ元來輕稅ニ相定相當候處是迄物品家屋ノ稅トモ混淆致シ居差向其區別難相立候ニ付慣行ニ從ヒ百分ノ三ノ稅額ニ確定候得共爾後左ノ稅目追々發行相成歲入相增候節ハ第九章方法ノ如ク漸次其額ヲ減シ竟ニ百分ノ一ニ可相定筈ニ候條兼テ其ノ趣可相心得事

自今設立可相成稅目

物品稅　茶稅　蠶絲稅　織物稅　其外用費ノ多少ヨリ此外ニ煙草稅　牧牛馬稅　材木稅　モ興スヘキ諸稅アルヘシ

家屋稅

第九章　自今設立可相成諸稅發行ノ後其額譬ハ五百萬圓ニ至リ候節ハ地券稅施行相成候土地ニ限リ其地價ノ全量ニ從ヒ算出セル地租ニ右新稅ノ增額ヲ割合左ノ方法ノ如ク漸次減少可相成事

假令ハ

一　地價拾億萬圓

此百分ノ三

金參千萬圓　　地券稅

若シ物品ノ諸稅新ニ五百萬圓興ルトキハ地券稅五百萬圓ヲ減シ金貳千五百萬圓トス則百分ノ二五ナリ

又五百萬圓ノ新稅興ルトキハ又減シテ金貳千萬圓トス則百分ノ二ナリ

又千萬圓ノ新稅興ルトキハ又之ヲ減シテ金千萬圓トス則百分ノ一ナリ

右ノ通新稅ノ興ルニ從ヒテ逐次地租ヲ減少シ遂ニ原價百分ノ一ニ至テ止ム

第十章　地券稅施行相成候迄ハ固ヨリ舊法据置ノ義ト可相心得就テハ從前租稅ノ甘苦ニヨリ苦情等申立候共格別偏重偏輕ノモノニ無之分ハ一切取揚無之候條其旨可相心得尤年々檢見ノ地ヲ定免トナシ定免ノ地無餘義願ニヨリ破免等ノ義ハ總テ其地ノ舊法ニヨリ處置致シ候義ハ舊慣ノ通ト可相心得事

右ノ通相定候條猶詳細ノ義ハ大藏省ヨリ可相達事

年號月日　　太政官

然カルニ第八、九章ニ對シ松方租稅權頭ノ意見アリ今其原文ノ儘ヲ左ニ揭ク之ヲ後日ニ徵シ其先見ノ適實ナリシヲ見ル可シ

第八、九章ハ目的ニ於テ聊異論無之候得共全國ノ歲入今歲サヘ殆千萬圓ニ近キ不足ヲ生シ自後印紙稅其他物品稅等行レテモ歲入餘計ニ至ル歟又ハ追年歲出ノ若干增加スルカモ未明辯セサル所ナリ然ルニ豫メ如此布告ニ揭ケ候儀ハ敬服不致茶稅或ハ家屋稅擧ル時ニ臨若事故アリテ地租減少スル能ハサレハ不得止政府是ヲ告示シテ可ナリト雖モ下民ニ對シ信義ノ貫キタルトハ難申寧ロ今日ノ布告ハ止テ其時ニ至リ其ノ實ヲ施行シテ決テ下策トセス伏テ仰高評

松方印

但シ地租ハ到底輕キ所以ノ旨趣ヲ以稅論ノ如キヲ著述シ上梓シテ普ク流布イタサセテハ如何

地租改正ハ本邦稅制ノ一大變革ニシテ事重要ニ屬スルカ故ニ大藏省ハ前揭ノ伺書ニ添書シテ左ノ上申ヲナセリ

地租改正ノ義ニ付伺書添書

地租改正ノ義ハ皇國數百年來ノ舊習ヲ一洗致候義ニテ實ニ一大事件タル義ハ贅言ヲ待サル處別テ廢藩置縣ノ後全國各種ノ稅法ヲ一變仕候義ニテ大ニ從來人民ノ幸福ヲ興起可致義ハ申迄モ無之ニ付

朝旨ノ程深ク人民ニ會得爲仕度候間徵兵令等ノ類例ヲ以テ地租改正ノ義ハ

勅詔ヲ以テ天下ヘ御頒布御座候樣仕度此段上申候也

明治六年五月十九日

大藏省事務總裁

參議　大隈重信

正　院　御　中

此ニ於テ同年七月二十七日太政官ハ伺之通候條別冊於其省上梓致可差出事ト指令シ遂ニ翌二十八日ニ至リ地租改正ニ關スル上諭ヲ下シ同時ニ太政官布告第二百七十二號ヲ以テ地租改正條例ヲ發布セリ而シテ大藏省ハ之カ施行ニ關スル細則及地方官ニ對スル心得書ヲ定メ以テ重要ナル事項ヲ訓示セリ而シテ地租改正條例ノ骨子トスル所ハ大要左ノ如シ

一　地租ノ物體　是ヨリ先キ地租ハ土地ノ收穫ヲ標準トシテ之ヲ賦課セシカ改正法ニ於テハ土地ノ價格ニ應シテ課稅ス

二　課稅ノ程度　舊幕時代ニ於テハ地租ハ五公五民ノ稱アリタルモ種々ノ寬法アリタルヲ以テ其實概三公七民ナリシ然ルニ今地租ハ地價ノ百分ノ三ヲ以テ定率トナス故ニ現收穫ヲ百

トスレハ其二十四五ヲ官ニ納ムルコトヽナリ從來ニ比シ百分中四五ヲ減スル割合トナレリ

三　收納ノ物件　從來地租トシテ政府ニ收納セシ物件ハ米穀等ノ實物ナリシモ之ヲ改メテ總テ金錢ヲ以テ納付セシムルコトヽス

更ニ改正制度ノ結果トシテ生シタル主ナル利益ヲ擧クレハ次ノ如シ

一　收入ノ確定　前述ノ如ク地租改正法ニ於テハ地租ハ總テ地價ニ準シテ之ヲ金納セシムルコトヽ爲セシヲ以テ政府ハ作物ノ豐凶及米價ノ高低等ニヨリテ收入上ニ影響ヲ受クルノ虞ナク從テ年々ノ收入額自ラ一定シ歲計ノ基礎因テ以テ大ニ鞏固タルニ至レリ

二　徵收ノ簡易　從來ノ制度ニヨレハ地租ヲ徵收スルニ先チ收穫ノ高ヲ檢査セサルヘカラス其他實物納付ノ結果トシテ之カ收納上種々煩雜ナル手續ヲ要セリ然ルニ金納制度トナリタルカ爲メ此等ノ不便ト之ニヨリテ生スル費用トハ之ヲ除カレタリ

三　負擔ノ公平　更ニ飜テ租稅ヲ負擔スル者ノ方面ヨリ之ヲ觀察スルニ凡ソ租稅ハ國家ノ收入ニ影響ヲ及サヽルヲ限リハ努メテ負擔ノ公平均一ヲ期セサル可ラス而シテ舊來ノ地租制度タル各藩割據ノ結果地方ニヨリ課稅ノ程度ヲ異ニシ維新後ニ於テモ尙其弊ヲ除クコト能ハサリシ然ルニ今ヤ新ニ土地ヲ丈量シ一定ノ方法ニ據リテ地價ヲ算定シ以テ課稅ノ標準トナセシヲ以テ人民ノ負擔ハ自ラ衡平トナレリ

四　負擔ノ盡一　從來ノ制度ニヨレハ歲ノ豐凶ニヨリテ自ラ租額ヲ異ニスルノミナラス政府ハ殆ント自由ニ課稅ノ程度ヲ定メテ以テ賦課スルノ狀體ナリシカ改正法ニ於テハ地租ハ地價ノ百分ノ三ヲ以テ定率トシ其他諸入費トシテ地租ニ賦課シ來リシモノモ自今地租ノ三分

ノ一ヲ以テ限度トシ其他天災又ハ起返ノ場合ニ於テ免租ヲナスノ外豐凶ニヨリテ地租ヲ增減セサルコトヲ規定シ以テ人民ニ對スル安心ト便宜トヲ與ヘタリ

五　其他ノ便宜　其他實物納付ノ時ニ於テハ之カ包裝運搬等少カラサル勞力ト費用トヲ要シタルカ金納制度ノ結果此等ノ勞費ヲ省クヲ得ルノミナラス生產物ヲ任意ニ販賣シ其代價ノ一部ヲ稅租ニ充ツルヲ得ルヲ以テ之ニヨリテ利益スルコトアルニ至レリ

地價ハ前ニ述ヘタル如ク地租ヲ決定スルノ根本タルヲ以テ左ニ地價ヲ定ムル方法ノ概要ヲ述ヘントス

一　地價ノ調査　地方官心得書ニヨレハ地價調査ノ方法ヲ分テ二トス一ハ書面上ノ調査ニシテ卽チ人民ヨリ提出セル書類ニ付テ其當否ヲ檢スルヲ云ヒ一ハ實際上ノ調査ニシテ實地ニ臨ミ人民ノ述フル所ヲ檢スルヲ云フ而シテ書面上ノ調査ヲナスニハ先ツ法定ノ方法ニヨリテ地價ヲ算定シテ之ヲ標準トシ人民ヨリ提出セルモノニシテ之ニ合スルトキハ勿論標準ヨリ下ルコト一割ナルカ又ハ一割以上ナルモ相當ノ根據アルトキハ假ニ之ヲ可決シ而シテ後實地ニ就テ其當否ヲ檢シ以テ地價ヲ決定スルヲ云フ

次ニ實地調查ノ手續ヲ述ヘンニ概ネ先ツ土地ヲ一筆毎ニ丈量シ之ニヨリテ繪圖ヲ作リ更ニ帳簿及繪圖ト實地トノ差違ナカラシメン爲メ地押ヲ行ヘリ次ニ地價ヲ決定スルニ當リ土地一筆毎ニ其收益ヲ調查シテ之ヲ算定スルコトハ到底行フヘカラサルヲ以テ各町ノ田畑宅地毎ニ土地ノ位置、地味及交通ノ便否等ニヨリテ等級ヲ設ケ之カ收穫ヲ標準トシテ一段歩ニ對スル地價ヲ定メ以テ各等級ニ屬スル每筆ノ地價ヲ算定スルモノトス

二　地價ノ算定　地價算出ノ方法ハ先ツ田地一段歩ノ收穫ヲ石代ニヨリテ金錢ニ換算シ種子肥料、地租及ヒ村費ヲ控除シタル殘額ヲ純收益トシ之ヲ一定ノ利率ニヨリテ還元シテ地價ヲ求ムヽ而シテ自作地ニアリテハ全收穫米ヲ以テ直ニ石代ニ換算シ小作地ニアリテハ小作米ヲ以テセリ然レトモ一ハ六分ノ收益アルモノト看做シ一ハ四分トスルヲ以テ結局其算出地價ニ於テハ敢テ差異ナシ而シテ其算出方法ハ地方官心得書第十二章ニ例示セルヲ以テ看官幸ニ瀏覽アレ

以下地租ノ改正ニ關スル上諭地租改正條例同施行規則竝ニ地方官心得書ノ全文ヲ揭クヘシ

上諭

朕惟フニ租稅ハ國ノ大事人民休戚ノ係ル所ナリ從前其法一ナラス寬苛輕重率ネ其平ヲ得ス仍テ之ヲ改正セント欲シ乃チ所司ノ群議ヲ採リ地方官ノ衆論ヲ盡シ更ニ內閣諸臣ト歸論裁定シ之ヲ公平畫一ニ歸セシメ地租改正法ヲ頒布スト雖幾クハ賦ニ厚薄ノ弊ナク民ニ勞逸ノ偏ナカラシメン主者奉行セヨ

明治六年七月二十八日　太政官布告　第二百七十二號

今般地租改正ニ付舊來田畑貢納ノ法ハ悉皆相廢シ更ニ地券調查相濟次第土地ノ代價ニ隨ヒ百分ノ三ヲ以テ地租ト可相定旨被　仰出候條改正ノ趣旨別紙條例ノ通可相心得且從前官廳竝郡村入費等地所ニ課シ取立來候分ハ總テ地價ニ賦課可致尤其金高ハ本稅金ノ三分ノ一ヨリ超過スヘカラス候此旨布告候事

（別紙）

地租改正條例

第一章　今般地租改正ノ儀ハ不容易事業ニ付實際ニ於テ反覆審案ノ上調査可致尤土地ニ寄リ緩急難易ノ差別有之各地方トモ一時改正難出來ハ勿論ニ付必シモ成功ノ速ナルヲ要セス詳密整理ノ見据相立候上ハ大藏省ヘ申立允許ヲ得ルノ後舊稅法相廢シ新法施行イタシ候儀ト可相心得事但一管內悉皆整理無之候共一郡一區調査濟ノ部分ヨリ施行イタシ不苦候事

第二章　地租改正施行相成候上ハ土地ノ原價ニ隨ヒ賦稅致シ候ニ付以後假令豐熟ノ年ト雖モ增稅不申付ハ勿論違作ノ年柄有之候トモ減租ノ儀一切不相成候事

第三章　天災ニ因リ地所變換致シ候節ハ實地點檢ノ上損耗ノ薄厚ニヨリ其年限リ免租又ハ起返ノ年限ヲ定メ年季中無稅タルヘキ事

第四章　地租改正ノ上ハ田畑ノ稱ヲ廢シ總テ耕地ト相唱其餘牧揚山林原野等ノ種類ハ其名目ニ寄リ何地ト可稱事

第五章　家作有之一區ノ地ハ自今總テ宅地ト可相唱事

第六章　從前地租ノ儀ハ自ラ物品ノ稅家屋ノ稅等混淆致シ居候ニ付改正ニ當テハ判然區分シ地租ハ則地價ノ百分ノ一ニモ可相定ノ處未タ物品等ノ諸稅目與ラサルニヨリ先ツ以テ地價百分ノ三ヲ稅額ニ相定候得共向後茶、煙草、材木其他ノ物品稅追々發行相成歲入相增其收入ノ額二百萬圓以上ニ至リ候節ハ地租改正相成候土地ニ限リ其地租ニ右新稅ノ增額ヲ割合地租ハ終ニ百分ノ一ニ相成候迄漸次減少可致事

第七章　地租改正相成候迄ハ固ヨリ舊法據置ノ筈ニ付從前租稅ノ甘苦ニ因リ苦情等申立候トモ格別偏重偏輕ノ者ニ無之分ハ一切取上無之候條其旨可相心得尤檢見ノ地ヲ定免ト成シ定免ノ地無餘儀願ニ因リ破免等ノ儀ハ總テ舊貫ノ通タルヘキ事

地租改正施行規則

第一則　今般地租改正被　仰出候ニ付テハ兼テ相渡置候券面地價ノ儀舊來石盛ノ不同ト貢租ノ甘苦ニ寄リ高低有之儀ニ付更ニ土地一歲收穫ノ作益ヲ見積各地ノ慣行ニ因リ何分ノ利ヲ以テ地價何程ト見込相立更ニ持主銘々ヨリ爲申立當否檢查ノ上適當可相定事

第二則　最前地券渡濟ノ地ハ地所ノ廉落等無之筈ニ候得共自然廉落又ハ殘歩等ノ懸念有之候分强チ舊帳簿ニ據ル時ハ地ノ廣狹其實ヲ失ヒ陰ニ地價ノ昂低ヲ爲シ其當否ヲ檢スルノ準據無之候ニ付更ニ精覈ノ段別爲申立候樣可致事

第三則　郡村宅地等地價難定場所ハ其村耕地ノ平均又ハ隣村宅地ノ比較ヲ以テ相定候筈可相心得事

第四則　山間海岸其他ノ宅地他ノ比較無之地價難定分ハ一段ニ付拾錢ヨリ不少稅額ヲ定其趣ヲ券面ニ可記載事

第五則　鄉藏其外學校貧院ノ類是迄無稅ノ地トイヘトモ人民ノ共有スル者ハ宅地同樣可相心得事

第六則　一村又ハ數村總持ノ山林秣場等ノ公有地ハ總テ相當ノ地租收入ノ積相心得假ニ地價ヲ定メ規則ノ通收稅可致事

第七則　從前一村又ハ數村ニテ貢租辨納致シ來候堤敷道敷共有墓地等ノ類有之候ハヽ自今無

稅ニ相定候條其段別ノミ可申立事但從前持主有之分作德米一村ヨリ償ヒ來候類ハ是迄ノ通
據置候トモ又ハ一村ニテ右地所買受候トモ相對次第タルヘキ事
第八則　海川ノ附洲湖水緣等ノ不定地或ハ試作ノ地所等段別確定無之分ハ何不定地凡段別何
程ト相記シ地價相定規則ノ通收稅可致事
第九則　總テ舊來大繩受ノ地所ハ現歩調査ノ上地價相定規則ノ通收稅可致事但舊來大繩受ノ
地所トイヘトモ不定地ノ分ハ第八則ノ通タルヘキ事
第十則　渾テ年季ヲ定メ無稅ノ積開屆置候荒地ノ儀ハ損害ノ厚薄ニ寄リ更ニ起返スヘキ難易
ヲ量リ年季ノ長短ヲ定メ年季中無代價ノ地券可相渡事
第十一則　池沼等ニテ持主有之水草其他ノ利潤アルモノハ相當ノ池沼代價ヲ定メ規則ノ通收
稅可致事
第十二則　新開場歩下年季中無稅ノ積相心得新開試作地段別何程ト相記無代價ノ券狀可相渡
事
第十三則　地價調査ノ儀ハ各廳ニ於テ適宜人員相定實地ヘ派出致シ可取調事
第十四則　官員派出ノ上實地點檢可致就テハ持主銘々所持ノ地所一筆毎ニ段別竝番號持主姓
名相記シ畝杭可建置事
第十五則　村方ヨリ差出候一筆限リ地價相當ナルトキハ兼テ相渡置候券狀差出更正ノ段別竝
地價ヲ券狀ノ裏ニ相記可下渡事但券狀裏書ノ上相渡候ニ付テハ別段手數料等收入ニ不及候
事

第十六則　地券調査相濟候ハ別紙雛形ノ通地稅表ヲ製シ施行以前租稅寮ヘ可差出事
雛形ハ追テ達スヘシ
右之通相達候事

明治六年七月

大藏省事務總裁
參議　大隈重信

別冊地方官心得書相達候條右之內人民ヘ告知スヘキ條件ハ地租改正著手ノ順序緩急ヲ計リ實
際不都合無之樣可取計事

明治六年七月二十八日

大藏省事務總裁
參議　大隈重信

（別冊）地方官心得書

第一章　今般地租ノ改正ハ至大至重ノ事業タル固ヨリ論ヲ竢タス其調査ヨロシキヲ得サレハ
從前ノ偏輕偏重ヲ平均スル能ハス故ニ調査ノ間最モ詳覈考案スルヲ要ス
第二章　調査ノ難キ地價ヲ定ムルヲ第一難事トシ土地ノ廣狹ヲ量ルト落地或ハ重複ノ地ナキ
ヲ檢スル亦之レニ亞ケリ故ニ調査ノ間最モ此兩件ニ注意スヘシ
第三章　地價ヲ定ムルハ賦稅民益ノ因テ分ル所ニシテ若シ其毫釐ヲ誤ルトキハ民ノ幸不幸ヲ
生ス故ニ下條ニ示ス檢査例ヲ熟記シ土地ノ景況ヲ審案シ然ル後處分スルヲ要ス
第四章　今調査ノ方法ヲ分ツテ二節ト定ム第一ハ人民ヨリ差出セル書上ニ就キ其當否ヲ檢シ
第二ハ實地ニ臨ミ人民言フ所ノ實否ヲ檢スルニアリ

第五章　地所一筆限地價ヲ調査シテ村々ヨリ差出ス時マテ合計上ニテ第十二章以下ノ檢査例ニ據リ合計ノ地價目的ノ準據ニ合スルヤ否ヲ檢シ準據ニ合スル者ハ假ニ之ヲ可ト定メ算者一筆限ノ計算ヲ檢スヘシ

第六章　人民申立ノ地價ヲ準據ト照合シ準據ノ價ヨリ低下スル一割迄ノ分ハ假ニ之ヲ可トスヘシ

第七章　若シ準據ノ價ニ合セサル一割以上ナル時ハ其人民地價商量ノ方ヲ糺シ其言フ所證據アラハ先假ニ之ヲ可トス

第八章　若シ準據ヨリ低下シテ之ヲ推問スルニ其證據ナキモノハ其調査ニ誤失アルモノトナシ其事柄ヲ厚ク敎諭シ再調査ヲ遂ケシムヘシ

第九章　若シ一村又ハ數村申合收穫米ヲ詐ルトキハ定免村ハ近傍檢見村ノ坪苅籾ノ歩合ヲ參酌シ其當否ヲ檢シ彌〻不相當ト察スル時ハ先ツ一人一戸耕ヤス所ノ畝歩ヲ推問シ從前一段ノ貢額ト村費諸掛ヲ尋問シ其餘ス所若干ヲ問ハヽ其數必ス尠カルヘシ其數尠ナキトキハ何ヲ以テ生活スルヤー推究シ猶厚ク說諭シ其眞ノ收穫ヲ言ハシムヘシ

第十章　第十二章以下檢査ノ法ハ唯道理上ニテ地價ヲ生スル所以ノモノヲ以テ說明シ之ヲ算定セルモノナレハ所謂理窟ツメノ者ニシテ活法ニ非ラス如何トナレハ元來土地ノ眞價ハ都鄙ノ便否人民ノ好惡耕鋤ノ難易營業ノ殊異等相須テ生スルモノニシテ強チ作益ノ多少ノミニ關セサルハ論ヲ待タス而シテ其好惡ト便否トノ如キハ各人ノ胸間ニ含蓄スル所ノ者ニシテ其形ノ露出セル者ナシ故ニ臆度ヲ以テ其價ヲ算知スヘカラス是ヲ以テ幾回モ賣買シテ各

人相競ヒ相糶ルニ非サレハ其實ヲ得難シトス故ニ今其露出セル實益ニ就キ檢査ノ法ヲ設クレハ則此法ハ地價ヲ定ムル要領ト知ルヘシ若シ衆人相競ヒ相欲スルノ地ハ此算則ヨリモ其價ヲ增スハ必然ノ理アルヲ以テ必スシモ此法ニ拘泥ス可ラス

第十一章　此檢査ノ法タル耕鋤其他ノ諸費ヲ除去シ全ク所得ノ實益上ヨリ算ヲ起シ來ルヲ以テ此準據ヨリ減スルモノハ決シテ無シト言難シト雖モ多クハ減スヘキノ理ナシ故ニ若シ減スル者アラハ人民不好不便ノ地乎或ハ違算不調等ノコトアルカ殊ニ能ク其所由ニ注意スヘシ

第十二章　檢査例

第一則　△印ハ凡テ朱書ノモノ、以下同シ

一　田一段歩

此收穫米一石六斗

代金四圓八拾錢　但一石ニ付代金參圓

內

金七拾貳錢　種籾肥代一割五分引

殘金四圓八錢

內

△金四拾八錢　△地租三分ノ一村入費引

△金壹圓貳拾貳錢四厘　△地租

△小以金壹圓六拾參錢貳厘
殘金貳圓四拾四錢八厘　但假ニ六分ノ利ト見做ス
此地價四拾圓八拾錢
此百分ノ三　壹圓貳拾貳錢四厘

第二則

一田一段歩
此收穫米一石六斗
此小作米一石八升八合
代金參圓貳拾六錢四厘　但一石ニ付金參圓
內
△金四拾錢八厘　△地租三分ノ一村入費引
△金壹圓貳拾貳錢四厘　△地租
△小以金壹圓六拾參錢貳厘
殘金壹圓六拾參錢貳厘　但假ニ四分ノ利ト見做ス
此地價四拾圓八拾錢
此百分ノ三　壹圓貳拾貳錢四厘

△地租算法

△收穫米代ノ內種肥代ヲ引去タル殘數ヲ甲ト名ツケ第二則ハ小作米代金ヲ直ニ甲トス之ヲ實トシ二年間金利

ノ歩合ヱ百ヲ乘シ稅率三ト村費ノ一トヲ加ヘ法トス（譬ヘハ六歩利ナルトキハ之ニ四ヲ加ヘ十トナルカ如シ）法ヲ以テ實ヲ除キ得ル所ノ數ヲ村入費トシ之ニ三ヲ乘シテ地租トス

第十三章　自作ノ地ヲ檢スルハ第一則ヲ以テシ小作ノ地ハ第二則ヲ以テス之ヲ正例ト定ム然レトモ各地ノ習價區別アレハ尙別紙變例ヲモ參酌シ此方法ノ行ハレ難キ地ハ別段ノ方法ヲ設ケ稟議スヘシ

第十四章　小作米ハ地主ト小作人ト相競ルノ間ヨリ出ルモノナレハ收穫ノ多寡ヲ推知スヘキ確證ニシテ人民互ニ欺隱スル能ハサル者タルヲ以テ第二則ヲ適實ノ者トス故ニ自作地ノ分ハ合計上ニ於テ小作地段別ノ比例ヲ以自作地小作米ノ假標ヲ設ケ第二則ニ據リ調査シ其當否ヲ見ルノ參考ニ供スヘシ

第十五章　土地ヲ人ニ預ケ小作セシムルハ自ラ耕作スルト其勞費殊異アルハ勿論隨テ收益モ亦多寡ナカルヘカラス故ニ小作地ヲ以テ自作地ニ比スレハ其利自ラ少キノ理アリ譬ヘハ收益ノ利分自作地六分ノ利ナレハ小作地ハ四分ニテ相當ナルヘシ檢查ノ際尤注意スヘシ

第十六章　小作米ハ地價ヲ求ムルノ標的ナリト雖モ古來ノ名田小作永小作ノ類地主ノ其地ヲ自由スルノ權利アラサルモノ及ヒ小作人ニテ貢米諸役ヲ出スノ類ハ此ノ標的ト爲スヘカラス

第十七章　今收穫ヲ量ルニ一郡一村中ニ古檢新檢其他間竿ニ長短アリ區々入交リタル地ハ一歩ノ收穫ニ多少ノ差アルヲ以テ右樣ノ地ヲ檢查スルノ際彼此混同セサル樣注意スヘシ

第十八章　地價ヲ檢查スルノ際種子肥糞ノ歩合ハ一定ノ標的ヲ設ケサレハ比例ノ計算スヘキ

ナシ故ニ第十二章ニ掲クル所ノ收穫米代ノ一割五分ヲ以テ定率トス且土地ニ課スル村入費ハ從前一定ノ規則ナシト雖モ今後地租ノ三分一ヨリ超過スヘカラサルヲ以テ檢査ノ際必之ヲ以テ村費ノ定率トスヘシ

第十九章　土地ヲ賣買スルヤ各人ノ好惡ニ因リ其利分低昂アリト雖モ其差等ノ如キハ概略三分利ヨリ六分利マテヲ以テ普通トス故ニ今地價ヲ檢スルノ際自作地ハ七分利小作地ハ五分利ヲ以テ其極度トスヘシ

第二十章　米價ハ從來其地ニテ用ヒ來レル各所ノ相場ヲ推問シ申立ノ米價ト照合シ其當否ヲ檢スヘシ

第二十一章　畑方ハ小作米金ヲ以テ地價ヲ算スルヲ本則トスヘシ時トシテハ第二十四章ニ照準其價ヲ定ムヘシ

第二十二章　鹽田ハ竈元諸器械モ其地ニ屬セサレハ營業ノ成リ難キヲ以テ地價ヲ定ムル甚難シ故ニ賣買ノ代價ヲ以テ定ムヘシ

第二十三章　人民所有ノ山林藪澤ノ類其價ヲ定ムル亦難シ其一歲ノ收入ト賣買代價ノ照應ヲ以テ定ムヘシ

第二十四章　總テ收穫ノ利益詳カナラス價ノ當否決シカタキモノハ鑒定人ヲ設ケ實地上ニ於テ其價ヲ言ハシメ變例中第一則ノ意ニ基キ競爨セシメ鑒定人ノ言ト參酌シテ其價ヲ定ムルモ亦可ナリ

第二十五章　席上ノ調査相整ヒ地價ノ概略見込相立ツ時ハ左ノ略表ヲ制シ實地調査ノ目的トスヘシ

新舊稅額比較表

	舊段別	舊稅額金	改正段別	地價地券稅	稅金比較		段別比較	
					增	減	增	減
田	何程	何程	何程	何程		何程		何程
畑	何程	何程	何程	何程				
宅地	何程	何程	何程	何程	何程		何程	

第二十六章　派出ノ人員ハ適宜ニ定ムヘシト雖モ主事タル者ハ權大屬以上タルヘシ

第二十七章　實地派出ノ節ハ衆テ地券掛ヲ命シタル郡村附屬又ハ地理ニ明ナル者ヲ選ミ隨行セシメ顧問ニ備フヘシ

第二十八章　實地ニ臨ムニ二タ手又ハ三手ニ分レ派出セハ其始メ一同集合シ先ツ一村ヲ檢査シ著手ノ方法ヲ試ミ各員異樣ノ處分ナキヲ要スヘシ

第二十九章　耕地巡視ノ時ハ一筆毎ノ畝杭ヲ改メ落地ノ有無ヲ點檢シ廣狹ノ當否ヲ視察シ三四箇所竿入樣步イタシ書上ノ步數ト增減アルトキハ再調ヲ命スヘシ

第三十章　樣步ノ上調査整ヒタルモノハ其近傍便宜ノ場所ニ於テ地價ヲ調査スヘシ

第三十一章　前以テ差出セル帳簿ノ代價至當ナレハ實地ト照考シ格別昂低ヲ生スヘカラスト雖モ第七章ノ如キ低價ニ申立タル地ハ殊更注意シ其言ノ實否ヲ檢査スヘシ

第三十二章　若シ人民書上ノ地價不相當ト察スルトキハ篤ト說諭シ猶承伏セサルトキハ一村

スヘシ

ノ内上中下數筆ノ地ヲ撰ミ戸長地主一同立會セ變例第一則又ハ第二則ノ手續ヲ以テ入札セシムヘシ

第三十三章　自然入札法以テ處シ難キ時ハ其者申立ノ價ヲ以テ官ニ買上クルモ申分ナキ歟ヲ推問シ申分ナキ旨申立ルトキハ承諾ノ請書ヲ申付ヘシ

第三十四章　請書ヲ申付價ヲ增サヽルハ先適當ノモノト看做シ置派出ノ人員一同衆議ヲ盡シ猶隣村同位ノ地價トヲ照考シ其當否ヲ定ムヘシ

第三十五章　買上ノ請書ヲ命スルニ至リ請書差出スニ於テハ其申立ノ價ヒ適當ナルニ近キヲ以テ眞ニ買上ル手順ニ至ルハ稀ナルヘシト雖モ實ニ詐僞アルト察スル時ハ買上ノ處分ニ及フヘシ

第三十六章　地價ノ參考ニ供センタメ前々ノ割賦帳、告濟帳、檢見歩刈帳、最前ノ地券大帳、地引繪圖等ノ類ハ必ラス携ヘ行クヘシ

第三十七章　常ニ水旱ノ憂アル地ハ其地價モ亦普通ヨリ減少ナルノ理アリ宜シク前々ノ貢額ノ高下ヲ參考シ至當ノ價ヲ定ムヘシ徒ニ人民ノ申分ニ據リ格外ノ低價ニ定ムヘカラス

第三十八章　數村ノ調査畢ラハ最前渡シタル地券ヲ一村毎ニ取纏メ差出サセ地價ノ調書ト共ニ其本廳ニ送達スヘシ

第三十九章　本廳ニ於テハ各所ヨリ送達セル調書ヲ再檢シ其總計ヲ算シ前々貢租ノ額ト新稅額トノ增減當否ヲ點檢シ大帳ヲ整理シテ後地券ノ裏ニ更正ノ段別地價ヲ記載シテ下渡スヘシ但大帳ハ最前調査セル帳簿ヘ朱字ニテ更正ノ段別地價稅額ヲ記スカ又ハ新ニ製スルトモ

便宜タルヘシ

裏書式

一　耕地 宅地　何段歩

代價何程

此百分ノ三

金何程

右明治何年何月何日更正授與之

但何尺竿

地租

何府縣知事令苗字名印

檢査人

某官　苗字名印

第四十章　稅法改正ニ因リ地價ヲ調理スルハ都テ舊來ノ貢額ニ拘ハラス銘々實際賣買スヘキ見込ノ價左ノ雛形ノ如ク書載シテ進達スヘキ旨村々ヘ布達スヘシ

雛形

一　田何段歩　何番 何字 何

此收穫米何程　但種肥其外諸費ヲモ引去ラス一作又ハ兩毛作トモ總テ其地一歳ノ收穫ヲ擧クヘシ

地價何程

何ノ某印

一 畑何段歩

此收穫品何程　但畑ハ麥、桑、茶、藍ノ類總テ其品ノ數量判然タルモノハ悉ク記載スヘシ其品柄ニヨリ其量ヲ記シ難キモノハ收利ノ代金ヲ記スヘシ

地價何程

但小作米金何程

何番字何

一 屋敷何段歩

地價何程

如此一人別ニ相認メ一村ノ合計左ノ如ク仕譯スヘシ

合何拾何町何段何畝何歩

地價何萬何千何百何拾何圓何拾何錢何厘

內

一 田何段歩

地價何程

內

段別何程

此收穫米何程

地價何程

右同人印

小作人某印

一 畑何段歩

地價何程

內

段別何程

此收穫品何程

地價何程

右同人印

自作

段別何程

此收穫米何程

地價何程

小作米何程

一 畑何段歩

地價何程

內

段別何程

此收穫品何程

地價何程

段別何程

此收穫品何程

地價何程

小作金何程

一 屋敷何段歩

地價何程

外

一 持山何段歩

小作

自作

小作

如此種類ハ持主仕譯帳別段ニ仕立ヘキ事

地價何程

一 林何段步

地價何程

右ハ今般稅法御改正ニ付私共村方銘々持地段別代價等可申上旨御達シニ付私共立會從前隱田切開繩伸ノ類マテ地毎ニ取調箇所落ハ勿論隱歩等一切無御座且取揚米竝小作米等聊詐欺ノ儀不奉申上候若心得違ノ儀有之後日相顯ハルヽニ於テハ如何樣ノ御處分有之候トモ毛頭申分無御座候依之地主一同調印ヲ以奉申上候以上

何國何郡何村

百姓總代

何 某 印

戶 長

何 某 印

年號月日

何府知事縣令 何 某 殿

第四十一章 右雛形ヲ作爲スルニ當リテ左ニ記スル第四十二章ヨリ第四十四章ニ至ル箇條ヲ管內ヘ布達シ調理ノ際矛盾アラシムルコト勿レ

第四十二章 一村中古檢、新檢入交リ竿繩長短アルモノハ合計ノ內何段步ハ何尺竿何町步ハ何尺竿ト記載セシムヘシ

第四十三章 地代金ハ一箇年收穫ノ內種肥代其外諸費ヲ引去全ク地主所得トナルヘキ米金ヲ

其村從前賣買仕來ノ利息割合ヲ以テ現今互ニ賣買スヘキ者ト看做シ見込ノ代價ヲ記載セシムヘシ

第四十四章 雛形ニ記セル收穫米ハ是迄年々其地ヨリ登量ノ總數ヲ擧クヘシ最モ其年々豐凶ニ依テ一定ナラスト雖モ平年作柄ヲ正實ニ書出サシムヘシ

檢査變例

第一則

一 一村申立ノ收穫米及ヒ小作米ノ員數不相當ナルカ又ハ諸入費多分ナル事ヲ唱ヘ檢査ノ算當ニ當ラス一村申合セテ低價ニ書出セルト察スル時ハ臨機左ノ入札法ヲ施スヘシ

一 一村ノ耕地ヲ上中下三等又ハ五六等其品位限リ區分シ雛形ノ如ク調査セシムヘシ

（雛形）耕地品位

上ノ部

何番ヨリ何番マテ 何番 何番

中ノ部

何番 何番ヨリ何番マテ

下ノ部

何番 何番

上ノ部何段步

申立代價何程

合計中ノ部何段歩
代價何程
下ノ部何段歩
代價何程

一 右品位ノ內各一二箇所ツヽ戸長小前一同立會ハセ面前ニテ圖取ヲ以テ糶地ヲ定ムヘシ

一 糶地定マラハ村內及ヒ近傍村々ノ者ヲシテ各自賣買スヘキ見込ノ價ヲ入札セシメ高札人ニ買取ラシムヘシ

一 落札ノ代價最前持主ノ申立ヨリ高價ナルトキ地主是ヲ賣渡スコトヲ欲セサレハ五圓ヨリ少カラス貳拾五圓ヨリ多カラサル謝金ヲ其村ヨリ落札人ヘ渡サシムヘシ

一 若シ又舊地主持續クコトヲ欲セサル時ハ其者申立ノ代價ヲ以テ官ニ買上ケ更ニ入札ノ代價ヲ以テ高札人ヘ賣渡スヘシ若シ落札人卽金ニ納メ能ハサルトキハ舊地主申立ノ代價タケ卽金ニ納サセ其餘ノ間金ハ年賦ニ申付ヘシ

一 若シ落札直段持主申立ノ代價ヨリ低價ナル時ハ持主賣拂フコトヲ欲セサルハ必然ナレハ入札ノ代價其當ヲ得サルモノト看做シ地主申立ノ代價ヲ以テ地價ト定ムヘシ尤其申立ノ價不當ト察スル時ハ時トシテ買上ノ處分スヘシ

一 落札代價ノ當否ヲ檢スルニ第十二章ノ例ヲ以テシ粗〻適當スル時ハ其當ヲ得ルモノト見做シ其比類ヲ推シテ一村上中下ノ地價ヲ定ムヘシ

一 一人持地ノ上ニテ代價不相當ト察シ規則第十六則ノ手續ヲ以テ入札法ヲ施スニ至テハ先

ツ持主申立ノ代價ヲ公示シテ入札セシメ其高札最前申立ノ代價ヨリ一割以上ニアラサレハ落札セシメス持主申立ヲ相當ト見做スヘシ

一 右地所落札ノ代價尤前持主ノ申立ヨリ一割以上ナルトキ持主之ヲ賣渡スコトヲ欲セサレハ壹圓ヨリ七圓マテノ謝金ヲ落札人ヘ渡サシムヘシ

一 假令ハ甲所有ノ地ヲ乙落札ニ成ルト雖モ其地所ニ甲ノ作物アルトキハ之ヲ其儘乙ニ賣渡ストモ又甲ハ乙ノ小作人トナルトモ都テ甲乙相對タルヘシ

第二則

一 小作入附米ハ小作人種肥手間料等ヲ引去リ其殘數地主ヘ差出スヘキモノニテ申立ノ員數欺隱スヘキモノニ非スト雖モ土地ノ慣習ニヨリ强テ檢査例ニ據リ難キ事情アルトキハ臨機小作米ノ入札ヲ施行スヘシ此法ヲ施行セント欲セハ第一則ノ如ク上中下ノ品位ヲ取調サセ圖取ニテ糶田ヲ定メ一村ノ中地所持主五六人(此地ノ地主ハ必ス此選ニ入ルヘシ)小作人五六人(此地ノ小作人ハ必ス此員ニ入ルヘシ)相集メ向後銘々此地ヲ小作セン歟又ハ人ニ小作セシメント欲セハ何程ノ小作米ヲ出スヘキ乎ヲ入札セシメ其高札人ヲ以テ以來其地ノ小作人ト定ムヘシ

一 若シ落札ノ小作米從前ヨリ相增ストキ是迄ノ小作人引續キ小作センコトヲ欲セハ元小作人ヲ以テ其地ノ小作ト定メ五拾錢ヨリ五圓迄ノ謝金ヲ元小作人ヨリ取立落札人ヘ相渡スヘシ

一 上中下各等ノ小作米其類ヲ推シテ通算シ先一村合計上ニテ第十二章ノ第二則ニ從ヒ其村ノ地價ヲ算出スヘシ

△地主ハ毎ニ小作米ノ多カランヲ欲シ小作人ハ毎ニ其少キヲ欲スル通情ナレハ小作米ヲ入札シテ地主ノ申立タルヨリモ多カラシムルハ尤難シトス故ニ此法ハ地主ノ申立タル小作米ノ高分外ニ少クシテ之ニ幾分ヲ增スモ尙小作ノ利益アルヘキヲ確乎見据タルトキ及耕地少ナク人民多ク手ヲ虛フシテ毎ニ耕スニ地ナキヲ憂ル地ニノミ行フヘキモノトス若シ深ク此時ト地トニ注意スルコトナク此法ヲ妄用スルトキハ平地上ニ風波ノ起ルコトアルヲ以テ尤深思熟慮スルヲ要ス

第三則

地主所得ト舊貢米トヲ以テ地價ノ當否ヲ檢スルノ例

一 田一段歩

此舊貢米五斗

此代金壹圓五拾錢

一 地主全所得米九斗

此代金貳圓七拾錢

外貳斗

合四圓貳拾錢

內

△壹圓四拾錢

諸費見込除之

殘貳圓八拾錢

△新稅引

六分利

此原價四拾六圓六拾六錢七厘

此百分ノ參 壹圓四拾錢

第四則

尤前渡シタル地券ノ代價ト舊貢額トヲ根據トシ今度書出セル地價ノ當否ヲ檢査スルノ例

一 田壹段歩

舊地券ノ地價參拾八圓五拾七錢（舊稅額存在セル地券代價ナリ）

舊貢米五斗

此代金壹圓五拾錢

此原價貳拾五圓

六分利

二口合六拾參圓五拾七錢

內

△壹圓貳拾七錢壹厘

△此原價貳拾壹圓拾八錢參厘

殘四拾貳圓參拾八錢七厘

此百分ノ三 壹圓貳拾七錢壹厘

△新稅

地租改正條例ヲ定ムルヤ地租ノ率ヲ定メテ地價ノ百分ノ三トセシコト前ニ述フル如シ而シテ明治六年十二月大藏省ニ於テ論定セシ所ハ其原由ヲ明ニスヘキヲ以テ左ニ之ヲ揭ケン

地券稅額ヲ原價百分ノ三ニ定ムルコトヲ論定ス（明治六年十二月）

大藏省

地券稅ヲ施行スルヤ地價ノ幾分ヲ以テ稅額ト定ムル最モ至要ノ事トス蓋シ地租改正ノ趣旨タル從前ノ舊弊ヲ一洗シ公平賦課ノ率ヲ設テ上ハ國用ヲ闕カス下ハ民力ヲ齊フスルニアリ故ニ舊來收入ノ額ヲ計算シ自今收入スヘキ稅額ヲ量リ地價ニ賦課スルノ概算ヲ立ツルニ左ノ比較表ノ如ク地價百分ノ三ヲ以テ其額ト定メ恰モ適當ヲ得ルモノトス抑モ方今多事ノ際舊來ノ歲入ニテハ現今ノ經費ニ給スルニ足ラスト雖モ今俄カニ民力ヲ量ラス其額ヲ增サントキハ勢ヒ固ヨリ不可ナルモノアリ況ヤ生財根源ノ地ニ重稅ヲ賦スルハ經濟ノ本旨ニ背戾スルニ於テヲヤ今既ニ印紙稅ヲ發弘シ茶煙草其他ノ物品稅モ逐次興立スルノ內議アレハ別項ノ收入逐年增加スヘシ故ニ地租改正ノ始先ツ舊來ノ歲入ヲ減セサルヲ目的トシ而シテ賦課其宜ヲ得衆庶ノ幸不幸ヲ一洗セハ庶幾クハ改正ノ本旨ヲ達センカ是自今原價百分ノ三ヲ以テ稅額ト定ムル所以ナリ

（別紙）新舊稅額比較概計

全國高參千參百萬石

一　段別四百萬町歩

此貢米千二百萬石

此代金參千六百萬圓

三公七民ノ法ニシテ

但平均石盛八

但段米三斗

舊稅一石ニ付參圓

作德米貳千八百萬石

此代金八千四百萬圓

二口合金壹億貳千萬圓

內金千八百萬圓

殘金壹億〇貳百萬圓

內

金千〇貳拾萬圓

金參千〇六拾萬圓

計金四千〇八拾萬圓

殘金六千百貳拾萬圓

此地價金拾億〇貳千萬圓

此百分ノ三

金參千〇六拾萬圓

右ノ計算ヲ以テ新舊稅額ヲ比較スルトキハ金五百四拾萬圓地券稅ノ方減スト雖モ更ニ增加スヘキモノアリ左ノ通

隱田切添ノ類舊反別ノ二割增加ノ見込卽チ

一　段別八拾萬町歩

此地貳億〇四百萬圓

種肥料一割五分引

村費

地租

但殘金ヲ六分ノ利子ト看做シ地價ヲ算出ス

地券稅額

此百分ノ三

金六百拾貳萬圓

地券稅額二口合金參千六百七拾貳萬圓

舊稅額ト差引

金七拾貳萬圓

地券稅額增加

第二目　地租改正ノ始末

明治六年七月地租改正條例ノ頒布セラルヽヤ地租改正ノ事業ハ專ラ大藏省ニ於テ之ヲ管理セシト雖モ其事內務省ニ關涉スルモノ尠カラス事アルニ臨ミ時々交涉ヲ重ヌルトキハ事業ヲ淹滯セシムルノ患アリシヲ以テ明治八年三月特ニ地租改正事務局ヲ內務大藏兩省ノ間ニ設置シ改正ニ關スル一切ノ事務ヲ管掌セシム是ニ於テ同局ハ各地ノ情況ヲ審案シ前途ノ得失ヲ考量シ明治九年ヲ以テ一般整頓ノ期ト定メタリト雖モ舊ニ狃レ新ヲ厭フハ民情ノ常ニシテ著々歩ヲ進ムルニ至ラサリシ加之間々暴徒ノ嘯聚アリ又西邊ノ騷亂アリテ此事業ニ影響スルコト尠カラサリシモ幾多ノ盤錯ヲ析キ數緒ノ紛紜ヲ解キ遂ニ明治十四年ニ至リ地租改正ノ事業ヲ竣ルニ至レリ今左ニ地租改正報告書ニ據リ其顚末ヲ揭ケン

第一　地　稅

地稅ノ制ヲ定ルハ所有ヲ鞏固ニシテ地力ヲ盡サシメ所用ヲ明瞭ニシ公平ナラシムルニ在リ然ルニ從前ノ制或ハ人民ノ土地ヲ賣買スルコトヲ禁シ或ハ人民ヲシテ土地ヲ換耕セシム此レ

ニ於テ慣習ノ久シキ其勢政府土地ヲ有シテ人民之ヲ佃作スルカ如ク且幕府諸侯ヨリ旗下社寺ノ類ニ至ルマテ各土地ヲ私有シ意ニ從テ制ヲ立テ各課稅ノ法ヲ異ニス故ニ其地收穫アリテ租ヲ除ケル者アリ其耕作セスシテ其稅ヲ徵スル者アリ此ニ於テ地類同一ニシテ租稅課否一ナラサルヲ致ス維新以來舊制ヲ一變シ地所永代賣買ヲ許シテ人民土地占有ノ權ヲ鞏固ニシ地子免除ヲ廢シテ地稅ノ課否ヲ均一ス然レトモ猶其實宅地ニシテ畑ノ稱ヲ冒スモノアリ田畑ニシテ山野ノ名ヲ負フモノアリ名實相副ハサルモノ鮮カラサルヲ以テ明治六年地所名稱區別ヲ布告シ同七年更ニ改正ヲ加ヘラル故ニ地租改正ノ際先ツ土地ノ境界ヲ正シ續テ其所有ヲ確定シ又其所用ヲ明晰スル今左ニ土地所有ヲ查定シ概況ヲ陳ス所用ヲ明晰セシ概況ニ至テハ第二檢地ノ部以下ニ於テ之ヲ陳セントス

一　經界ノ更正

土地ノ所有ヲ定ムルニ當リ其最先ニ檢セサルヘカラサル者ハ經界ナリ夫レ一地（畦畔ヲ以テ一小地）一筆（一地乃至數十地ヲ合セ一區ヲ成シタル土地）ヨリ一字一村郡國府縣ニ至ルマテ地トシテ經界アラサルナシ故ニ經界定マラサレハ縱橫廣袤得テ求ムヘカラス濶狹大小得テ量ルヘカラサルナリ然リ而シテ府縣國郡ノ經界ニ至ッテハ錯雜犬牙ノ如クナル者アリ又散布碁子ノ如クナル者アリ又蓋シ村字ノ經界是ノ如ク紊亂混淆セシユヘンノ者ハ境外ノ地ヲ開墾シ又ハ他村ノ地ヲ買ヒテ之ヲ併セシアリ土地益墾シ又ハ甲乙利害ヲ異ニシテ之ヲ分チシアリ幕政ノ際諸侯旗下等ノ封土采邑ヲ移轉增減スルニヨリテ村高ヲ分割シタルカ爲ニ分合セシモ亦之アリ此ニ於テ或ハ通行ヲ拒ミ或ハ用水ヲ障ヘ其最甚シキ者ハ爭論ヲ生シ

テ判ヲ法廷ニ請フニ至ル蓋シ其由テ來ル所同シカラストイヘトモ其不便ナルハ則一ナリ改租ノ際村吏人民ヲ諭シ彼是協議ヲ遂ケシメ或ハ分合シ或ハ交換シ大率山川、溝渠、道路、堤塘等著明不動ナル者ニヨツテ境界ヲ定メタリ

二　土地所有ノ處分

土地所有ノ處分ハ人民ヲシテ各其持地ヲ書出サシメ村吏ヲシテ更ニ實地ニ蒞ミ四隣地主ヲ會シテ官民地ノ別ナク每一筆其所有ヲ檢シ檢地帳地引帳其他村吏ニ傳ヘタル公ノ記錄賣買質入ノ公證等ニ照合シ更ニ丈量ヲ加ヘ方積ヲ記入シテ之ヲ出サシメ然ル後官吏之ヲ點檢シ其所有明瞭ナル者ハ直ニ其所有ヲ認メ其官ト民トノ間又ハ民ト民トノ間ニ於テ所有不明瞭ナル者ハ證左ヲ徵シ證人ヲ索テ之ニ區分ス

三　隱田切添切開ノ處分

隱田トハ檢田ノ際其地ヲ欺隱スルモノヲ云ヒ切添トハ私ニ請地ノ傍ヲ侵闢併有スルモノヲ云ヒ切開キトハ私ニ原野ヲ開墾シテ官認ヲ請ハサル者ヲ云要スルニ官認ヲ經サル田地ヲ有シテ租稅ヲ脫スル者ナリ

夫レ欺隱田糧ハ古來ノ法禁ナリ改租ニ當リテ之ヲ發覺ス宜シク律ニヨリテ之ヲ處スヘシ然レトモ從前人民之ヲ犯セシユヘンノ者ハ啻ニ人民ノ貪婪ノミナラス法律ノ人民ニ遍カラサルト政府ノ檢地ヲ等閑ニ付セシトノ如キモ亦其因由ノ一端トイフサルヘカラス故ニ曩ニ隱田、切添、切開ヲナセシモ地租改正前ニ申出ツル者ハ特ニ其罪ヲ不問ニ付シテ其地ヲ所有セシメタリ然レトモ道路、堤塘等公用ノ地ヲ犯シタル者ハ其罪ヲ問ハサルモ其地ハ總テ之ヲ復舊セシメタリ

四　社寺地ノ處分

從前社寺大小ノ別アリト雖モ其最大ナルモノハ境內數里ニ亘ルアリ石高數萬石ヲ擁スルアリ維新ノ初メ諸侯版籍ヲ返上シタリシカハ社寺獨リ土地ヲ私有スヘキノ理ナキヲ以テ境田地ノ祭事法用ニ必需ナルモノヽ外スヘテ上地セシメラル此ニ於テ祭事法用必需ノ地ヲ畫シテ境內トナシ其社寺買得ノ證アルモノ人民寄付ノ證アルモノハ總テ社寺ノ所有ニ歸シ自費開墾ノ證アルモノハ占有者ニ無代下渡シ永小作セシモノ借地シテ家屋ヲ構造セシモノ及舊神官ノ社內不用地ニ家屋ヲ營セシモノ等ハ半價又ハ相當價ニテ拂下其他ハ之ヲ官有地ト爲ス乃チ改正ノ際提查セシ神社ノ數ハ十三萬二千九百十二ニシテ更ニ境內ト定メシ段別ハ一萬六千五百二十九町五段四畝十五步餘境外ト定メシ段別ハ七萬六百七十町二段三畝十步餘ナリ又寺院ノ數ハ五萬千二百四十七ニシテ更ニ境內ト定メシ段別ハ九千七十九町八畝十二步餘境外ト定メシ段別ハ四萬三千七百四十三町四段五畝六步餘ナリ

第二　檢地

改租著手ノ初メ必ラス先ツ地積ノ精確ヲ求ムルヲ以テ主要ト爲ス故ニ舊來檢地ノ例規ト各地ノ慣習トヲ參酌折衷シ以テ全國ノ田畑、宅地其他各地種ヲ擧テ之ヲ檢セリ今其順序ヲ陳述スルニ方リ先ツ其要領ヲ擧ン抑往昔ニ在テハ地位ヲ分テ上、中、下、下々ノ四段トスト雖モ之ヲ查定スルノ順序後世ニ傳ラス明治維新ノ際ニ傳フルモノハ獨リ德川氏檢地條目ノ存在スルアルノミ然レトモ其法多クハ新開地或ハ爭論地ヲ檢スルニ止マリ之ヲ一國乃至數郡ニ施行セシモノ實ニ僅々タリ而シテ其檢地ノ擧タル頗ル鄭重ニシテ之カ爲メ時ニ檢地總奉行繩奉行間頭奉行ヲ命シ帳付下目

付及ヒ倍隷數十人之ニ屬ス而シテ本村ニ派出シ村內ノ土地悉皆官吏ノ手ヲ以テ檢地整理スルカユヘニ許多ノ日月ヲ費スノミナラス其村ニ於テハ送迎ノ勞供給ノ費實ニ僅々ナラサルナリ之ニ加フルニ檢地ヲ經由スルトキハ其段畝多少ヲ檢出シ租稅モ亦隨テ增加スルヲ以テ人民檢地ヲ忌嫌スルノ情狀ヲ釀成シ政府モ亦容易ニ擧行セサルヲ以テ政略トセシヨリ竟ニ地積ノ紊亂ヲ極ムルニ至レリ今改租ノ始ニ當リ舊法ノ如ク鄭重煩勞ノ擧ヲ爲スヤ支捂扞格決シテ行ハルヘカラス故ニ勉メテ無用ノ手數ヲ節省セント欲シ土地丈量ノ業ヲ擧テ一切人民ノ擔理トナシ官吏ハ適宜分派シ其丈量ノ精粗適否ヲ檢查スルニ止ム是歲月ヲ涉ル僅々竟ニ其實積ヲ整理スルヲ得タリ今量地ノ序次ヲ略述スル左ノ如シ

一　地押丈量

地押ハ土地ノ重複若クハ脫落ナキヲ要スル爲メ當初ニ之ヲ施行スルモノナリ其方法先ツ人民ヲシテ小村ハ一村通シ番大村ハ各字限リ一地一筆毎ニ之ニ番號ヲ附シ而後十字法又ハ三斜法ヲ以テ其步積ヲ量リ畝杭ヲ建テ字番號地目段別地主姓名等渾テ之ヲ明記シ又其番號地順ニ隨ヒ一筆毎ノ形狀ヲ見取圖ニ製シ之レヲ聯合シテ一字限リ及ヒ一村限圖ヲ製シ地引帳ト共ニ之ヲ管轄廳ニ上進セシム而後官吏其本村ニ臨ミ地主ハ勿論本村總代人等ヲ會集シ其畝杭ト其地引帳地引繪圖トヲ照合シ地番ノ重複或ハ脫漏ナキヲ確認スルニ至ルヲ度トセリ而シテ此際地味ノ厚薄ヲ始メ改租ニ付要用ナル諸件ヲ熟察シ以テ他日地價調查等ノ憶按ニ供セリ地押旣ニ了リ次ニ丈量檢查ニ著手ス此際ニ於テモ地主總代人等ヲ會集スルコト總テ地押ノ時ニ異ナラス而シテ官吏實地ニ臨ミ其積ヲ求メテ畝步ヲ算定シ之ヲ人民ヨリ具申スル所ノ段別ニ比照シ一段步ニ付十步內外

ノ差アルモノハ之ヲ可認セリ蓋シ丈量ノコトタル地形ノ屈曲ト量器ノ使用トニヨリ固少差ナキヲ免カレサルヲ以テナリ但人民ノ調理粗漏ニ失スルカ或ハ其實ヲ失フモノアリト認ムルトキハ更ニ再調ヲ命シ總テ確實ニ歸セシメタリ而シテ大凡ソ檢查セシ筆數ハ一字ノ土地ニテ三四箇所乃至五六箇所ナリ

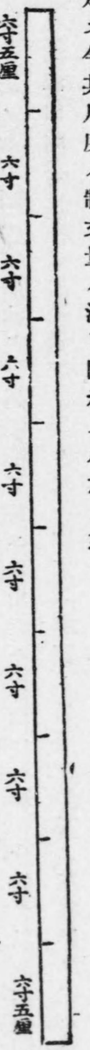
市街宅地ノ丈量ハ人戶稠密ニシテ土地モ亦貴重ナルヨリ尺寸ノ差違其得失ニ關スル鮮カラサルヲ以テ一層緻密ヲ要セリ故ニ人民ヲシテ先ツ分見法ヲ以テ一町ノ周圍ヲ測量シ其總積ヲ求メ而後又特ニ每地ヲ丈量シ其地積ヲ合算シ之ヲ向キノ總積ト對照シテ其實積ヲ求メシム而シテ檢查ノ方法モ隨テ綿密ヲ加ヘ其差違百坪ニ付二坪迄ハ之レヲ可認セリ其筆數ハ一箇町每ニ大凡ソ二三筆乃至五六筆ナリ

山林原野ノ丈量ハ大約耕宅地ト異ナルナシト雖モ或ハ曠漠數町里ニ涉ルモノアリ或ハ人蹤ヲ絕ツモノアリ此ノ如キ類ハ十字及ヒ三斜ノ術ヲ施スニ由ナキカユヘニ同リ分見ヲ以テ其總積ヲ求メタリ又其深山幽谷ニ至テハ足量等ヲ用ヒ又ハ四至ノ界疆ト目標トヲ定メ其經界ヲ正シ其步積ヲ查定セリ

二　尺度段畝

改租以前ニ係ル檢地尺度ハ古檢方六尺五寸中檢六尺三寸新檢六尺ヲ以テ一步トスルノ通法ナリ國郡ニヨリ異例ナルハ六尺七寸六尺二寸五分等ノ各種アリ段法古檢三百六十步中檢新檢三百步ヲ以テ一段トスルノ通例ナリ其異例ニハ二百五十步四百二十步九百步等ノ各種アリ段法十分一ヲ以テ一畝トスルハ皆相同シ稱呼旣ニ如此錯雜ヲ極ムト雖モ其名未タ其實ト違ハサレハ其制ニ

由リ其地積ヲ案スルヲ得ヘシト雖實際ノ名實相符セサルハ新古檢ニ拘ハラス今日皆然リトス蓋シ一回檢地ヲ經由スル後再ヒ更正ヲ加ユルコト稀ナルヲ以テ溝渠ヲ變換シ畦町ヲ移置シ或ハ原野ヲ開拓シテ古田ニ附加スル等歷年ノ久シキ冥々ノ中當初ノ形跡ヲ失フハ免カルヘカラサルノ理勢アレハナリ故ニ改租ノ始尺度ハ暫ラク各地ノ舊慣ニ因ラントセシモ同稱異實ナルトキハ將來多少ノ紛雜ヲ生センヲ慮リ竟ニ全國ヲ通シテ方六尺ヲ一步トシ三十步ヲ一畝トシ十畝ヲ一段ト確定ス今其尺度ノ制丈量ノ法ヲ開示スル左ノ如シ



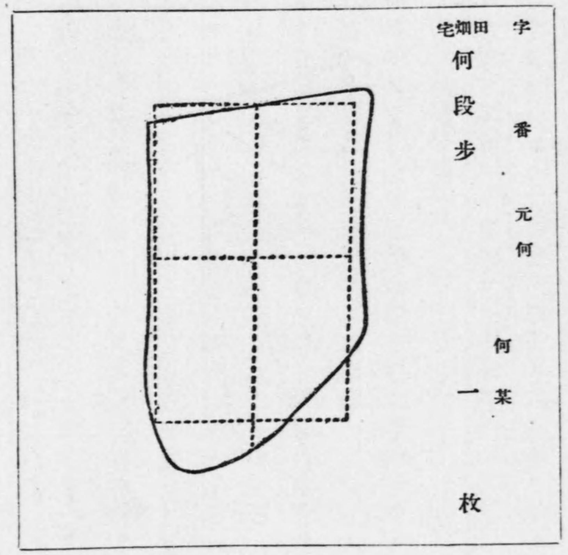
用紙上半紙竪二ツ折

何郡區　何町村
第何號

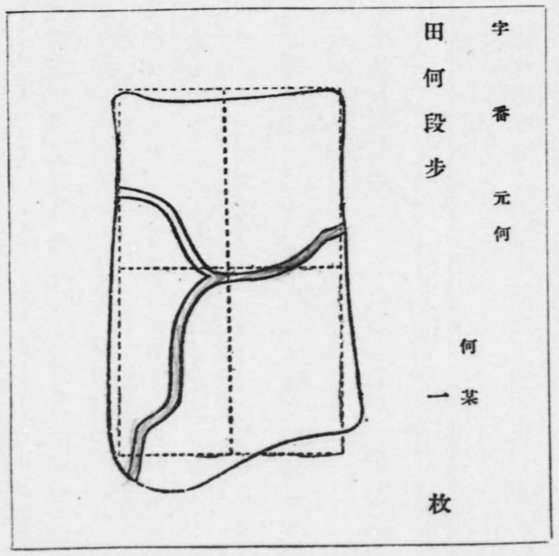
野取帳

明治年月地租改正著手

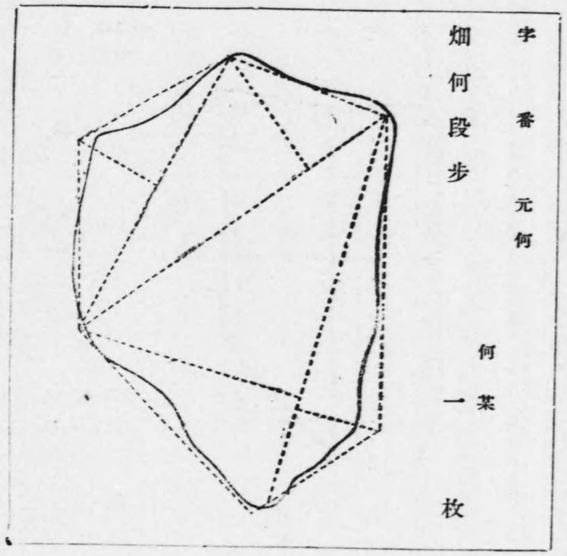
十字器竿入圖



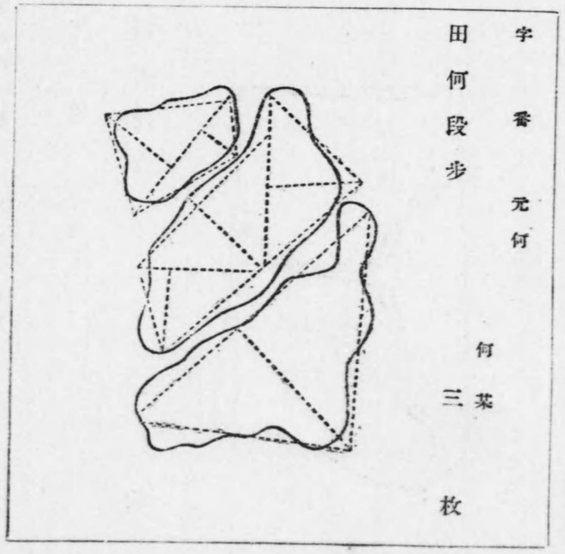
同畦畔ヲ籠メ一繩求積ノ圖



三斜丈量ノ圖



梯田一枚限竿入圖



第三　地價

改正法ニ因テ調査スル所ノ地價ハ土地ノ品格ヲ評定シ賦稅ノ基礎ト爲スモノニシテ現ニ賣買スル所ノ市價ヲ指スニアラスシテ郡村ト市街トハ自ラ其調査ヲ異ニシ郡村ハ地味ノ肥瘠土地ノ便否耕耘ノ難易等ヲ斟酌シ其收穫ヲ査定シ市街ハ土地ノ盛衰地盤ノ燥濕運輸ノ便否等ヲ斟酌シ其收益ヲ査定シ以テ其地價ヲ算出ス其算則ハ載テ地租改正地方官心得書中ニアリ故ニ玆ニ贅セス今其地價ヲ求ムルノ要領ヲ左ニ列序ス

一　地位等級

地位等級調査ハ他日收穫地價ヲ議定スルノ時ニ方リ之カ平準ヲ得ン爲メ先ツ各地ノ品格ヲ詮評シ其等級ヲ判別スルモノナリ其組織ノ方法ヲ大別シテ耕地ト宅地ノ二ト爲ス

耕地ノ等級ヲ組織スルハ初メ先ツ地形ノ便宜ニヨリ二十村或ハ三十村ヲ連結シ之ヲ組合村ト稱シ恰モ一村ノ如ク見做シ其中ニ就テ地位中等ニ居ルモノ一村ヲ撰拔シ之ヲ模範村ト稱シ其村內ノ田畑ヲ分チ大約九等內外ニ區別スルヲ目的ト爲シ官吏其地ニ臨ミ區戶長及改租總代人及組合村々老農數名相會シ田畑一地一筆每ニ土地ノ肥瘠水旱損ノ有無耕耘ノ難易運輸ノ便否等苟モ收穫ノ多寡ニ關係スルモノハ之ヲ推究シ輿論ニヨリテ其等位ヲ決定シテ後更ニ組合村々ヲシテ之ニ模倣セシメ甲村何等ハ模範村ノ何等ニ當リ乙村ノ何等地ハ模範村ノ何等ニ均シト順次之ヲ模範村ニ對照比準シ一般ニ其等級ヲ畝杭ニ明記シ人ヲシテ之ヲ知ルニ易カラシム如此シテ全管內幾多ノ組合已ニ整理ヲ告ルニ及ヒ更ニ又彼組合ト此組合トノ比準如何ヲ精査シ終ニ全管內ヲ連貫シ秩然遺憾ナキニ至ラシム又一村內一地一筆ノ等級ヲ調査スルハ全ク村民ノ協議ニ任セ其等

級完結ノ後ニ至リ官ニ於テハ專ラ彼村ト此村ト地位ノ比準ヲ精査スルニ止ムルモノアリ地位ノ組織大抵此二様ニ出テス其地ノ情勢ニヨリ取捨折衷シ歸スル所地位ノ平準ヲ得ルニアルノミ

二アリ

宅地、地位等級ヲ調査スルニ其種類又二アリ

郡村宅地ノ地位ハ先ツ本村耕地ノ地力ニ準據シ地利ノ便否ヲ校量シ大約一村内ヲ別チテ四五等トナス市街地ハ三府四港ヲ首メ各府縣ノ廳下或ハ舊藩城下等ノ如キ人民輻湊ノ地ニシテ其地ヲ調査スルノ方法最モ精密ヲ要シ其目的トスル所商業ノ盛衰運輸ノ便否戸口ノ踈密及貸地料ノ多寡賣買價ノ高低表裏坪ノ形狀等ヲ斟酌シ其等級ヲ査定セリ而シテ大都ノ如キハ其等數殆ント五百階ニ至ルモノアリ

山林原野ノ地位調査ハ略、耕地ニ同シ而シテ多クハ一郡ヲ一組合トシ便宜ニ中位ノ地ヲ選ミ之ヲ模範トシ用材山、薪炭山或ハ萱野秣場等ノ種類ニ應シ模範地ノ比例ニ由リ運搬ノ便否等ヲ酌量シ其等級ヲ組織ス

二　收穫

收穫ノ調査田方ハ一般ニ米ヲ用ヒ畑方ハ大率麥大豆ヲ用ユ其桑、茶、麻、藍等ヲ種藝スルモノハ其近傍米麥ヲ植ルモノヽ利益ニ比準ス而シテ各地既往五箇年間最モ豐凶不偏ノ平年ヲ以テ之カ目的ト爲シ達觀上ヨリ調査スルモノト一地上ヨリ調査スルモノトヲ對照シ以テ全管内ノ穫量ヲ定ム一達觀上ノ調査ハ先ツ舊法稅率ノ輕重及檢見坪刈ノ出合小作米ノ多寡等ヲ調査シ一郡一區ヨリ全管内ノ收穫ヲ求ルモノナリ一地一筆ノ調査ハ已ニ査定セル地位等級ニ應シ其一等ハ若干二等ハ若干ト逐次適實ノ收穫ヲ討究シ以テ之ヲ一村一郡ニ及ホシ又推テ全管内ノ收穫ヲ求ムルモノナリ此二様ノ調査後彼此相須テ取捨斟酌シ而シテ後收穫ノ額ヲ確定ス

山林原野ノ年々收利アルモノヽ調査ハ大約耕地ニ同シ然レトモ山林ハ二三十年乃至五六十年ニ一度ノ收益ヲ得ルモノナレハ其生育スヘキ地力ヲ度リ凡何年間ニ成木シ其成木ノ價直ハ若干ト假定シ其内ヨリ培栽及ヒ伐採運輸ノ費用ヲ去リ殘額ヲ成木年間ニ割合之ヲ其地一歳ノ收益ト見做セリ

三　穀價

穀價ハ收穫米麥ノ量既ニ決定ノ後此價格ヲ以テ金ニ換ヘ地價ヲ算出スルカ爲メニ要スルモノニシテ假令已ニ收穫ノ權衡其宜ヲ得サレハ地價平準ヲ得ル能ハス初メ地租改正ニ用ユル所ノ米價ハ從來其地ニ於テ用ヒ來レル各所ノ相場ヲ推問シ之ヲ人民ヨリ開申スル所ノ價格ト照合シ其當否ヲ檢スヘキモノトセリ然レトモ改租著手ノ前後ニヨリ用ユル所ノ穀價年度ヲ異ニスレハ彼此ノ權衡ヲ失ス故ニ明治三年ヨリ以來五箇年間上中下米ヲ平均シ其平均時日ハ貢納石代相場ニ用フル時日ニ因ルヘキモノトセリ而シテ其相場ヲ提査セシ地ハ其管内ノ大小廣狹ニヨリ固ヨリ一定シ難シト雖モ凡五六所乃至十數所常ニ米麥ノ賣買ヲ爲ス地ノ相場ヲ取リ此總平均價額ヲ以テ一管内一様ニ用ヒシモノヽハ適宜其地ヲ區分シ數種ノ相場ヲ用ヒタルモノアリ或ハ州郡ノ位置ニヨリ相場常ニ同シカラサルモノアリ而シテ既往五年ノ景狀ヲ察スルニ明治三年ハ前手ノ凶歉ヲ承ケ穀價非常ノ騰貴ナリ加フルニ藩政中ハ輸出入ヲ拘束セシヨリ比隣甚シキ昂低等アリテ五箇年平均ノ價格不適當ト視認スルモノアリ此ノ如キハ適宜之ヲ斟酌セシモノアリ結局全國ヲ平均スレハ其一石ノ價米ハ四圓拾八錢五厘弱麥ハ壹圓九拾七錢八厘弱大豆ハ參圓

壹錢五厘強ナリ

四　利子

利子ハ土地ノ收益ニ基ク其原價ヲ算出スルノ率トス大低六分利ヲ以テ普通ノ程度ト定メ土地ノ景況ニヨリ增減伸縮シ七分利ヲ以テ其極度トス然シテ運輸ノ便否等凡利子ノ昂低ニ關スルモノハ既ニ地位ヲ詮評スル時ニ於テ之ヲ酌量スルヲ以テ利子ニ階級ヲ設クルモノ少シト雖モ或ハ管內平均六分利ヲ目的トシ數等ノ利子ヲ用ヒタルモノアリテ全國平均田ハ六分一毛强畑ハ六分三毛强ニ歸著セリ

五　種肥料及村費

種肥料及村費（郡村ノ公費）ハ全收穫ノ內諸費ヲ控除シ純益ニ據リ地價ヲ算出スル爲メ一般ニ此費額ヲ定ムルモノナリ則種肥料ハ全收穫ノ一割五分村費ハ地租ノ三分一トス

第四　市街、山林原野、荒地及開墾地

一　市街

從前都府ヲ初メ各藩ノ城市ニ占住スル士族商賈ノ宅地ハ概ネ無稅也然ルニ農獨リ地租ヲ負ヒ士商ハ之ヲ免ルハ同視ノ主旨ニ悖ルヲ以テ四年十二月先ツ東京府下武士地町地ノ稱ヲ廢シ地券稅法ヲ發行シ五年一月其施行規則ヲ頒チ賣買地價ノ百分ノ一ヲ稅率トシ之ヲ各州市街ニ推行スヲ尋テ六年七月ニ至リ地租改正法ノ頒布アリ其稅率ハ地價百分ノ三トス故ニ各管內改租施行ニ當ツテハ市街地モ亦百分ノ三ノ率ニ改正スヘキ旨ノ令アリ於是乎始テ農商一轍ニ出テ稅法ノ允當ヲ見ルニ至レリ今ヤ各府縣悉ク整頓ニ屬シ其改正段別ハ一萬九千三十九町九段五畝十一步五合一勺三才ニシテ其租額ハ九拾壹萬八千百九拾壹圓八拾五錢四厘（熊本、鹿兒島二縣ノ市街ハ十年後ノメ總テ三分ヲ以テ算ス）ナリ（リト雖モ比較ニ便セン爲）

二　山林原野

山林原野ハ從來官有、民有ノ區別自ラ定マルモノアリ又官民兩屬ノ狀ヲ爲スモノアリ地租改正ノ際其證左ト慣行トヲ照査シ其所有ヲ判定シ其境界ヲ明晰シ段別ヲ量リ地價ヲ定ム然シテ從前山野ノ事多クハ漫然ニ付シ簿記備ハラス唯其縱橫ノ町間或ハ四至ノ境界或ハ何箇所トノミ記入スルノ類多ク又地名タモ記載ナキ者アリ故ニ改正查定ノ段別ヲ以テ舊記段別ニ比較スレハ一地方總括上ニ於テ少クモ二三倍多キハ百倍餘ノ增加ニ至ル者アリ舊租ノ如キモ概ネ寬ニ失シ又無稅ナル者モ尠カラサルヲ以テ新舊租ヲ比較スレハ或ハ數十倍ニ至ル者アリ而シテ其土地曠漠ナルヨリ之ヲ丈量スル最モ難ク從テ其收益モ見易カラサルヲ以テ之ヲ耕宅地ト一時ニ整了ヲ要スルトキハ容易ニ結果ヲ見ル能ハス故ニ先耕宅地ヨリ整了シ尋テ山野ニ著手セシヲ以テ今猶整理中ニ係ル者アリ其今日迄既濟ニ至ルモノ合シテ二府三十四縣其改正段別七百四十七萬五千三百九十八町一段六畝三步七合七勺其租額ハ七拾四萬千七百參拾壹圓八拾六錢八厘（耕宅地ト同時改正ノ雜種地モ加ル）ナリ

三　荒地

荒地ハ田畑ノ天災地變ニ罹リ川缺石砂入等ノ爲ニ荒廢セシモノヲ云從前此災變アレハ官吏之ヲ點檢シ起返スヘキ年期ヲ度リ其年期中稅ヲ免スルヲ例トス然リ而シテ今日其跡ニ就テ之ヲ見ルニ或ハ川缺永荒ト稱スルモノ既ニ熟地ト成ルモノアリ又ハ已ニ林藪ト成リ收利耕地ニ均シキモ

ノアリ或ハ二年期三年期荒ノ稱アルモ其地往々變易シ何レノ處ナルヲ指點スル能ハサルモノアリ蓋シ從前石高ノ減スルコトヲ欲セサルヨリ其地形ヲ失スルモ尙石高ノ名ヲ存シ又ハ租額ヲ減スルヲ欲セサルヨリ免租ノ期ヲ短クシ其繼年期ヲ許可スルモノモ多クハ席上ノ調査ニ出ツルヲ以テ終ニ此ノ如ク名實相協ハサルノ弊ヲ馴致セリ是ヲ以テ已ニ年期ノ定メアルモノト雖モ今日之ヲ履行シ能ハス乃チ地租改正施行規則第十則ニ於テ其損害ノ厚薄ニヨリ更ニ起返ノ難易ヲ度リ年期ヲ定ムヘキモノトス於是凡荒地ノ稱アルモノハ有年期無年期ノ別ナク改正ノ當時ニ於テ總テ之ヲ點檢シ其前年期ヲ履行スルモノアリ又更ニ適當ノ年期ヲ定ムルアリ或ハ已ニ起返リ熟地ニ歸シ賦稅スヘキト認ムルモノハ適當ニ賦課シ又已ニ起返ルト雖モ未タ地味熟セサル歟又ハ非常ノ勢力ヲ加ヘタルモノハ更ニ若干ノ年期ヲ與フ而シテ凡年期ヲ定ムルハ十年以內トシ若シ滿期ニ至リ起返リニ至ラサルモノハ更ニ其難易ヲ校量シテ繼年期ヲ附與スルモノトス今改正調査ノ際ニ在テ檢定セシ全國荒地ノ段別ハ十一萬三千九百十町七段九畝廿八步四合二勺ナリ

四　開墾鍬下地

山野ノ荊棘ヲ伐リ草萊ヲ闢キ或ハ湖海ヲ埋塡シ以テ耕宅地トナス者ヲ總テ開墾ト云フ苟モ此事ヲ起サントス欲セハ幾多ノ勞費ト歲月トヲ積ニ非サレハ容易ニ其業ヲ遂ル能ハス而シテ其業既ニ竣成ニ歸スルモ當初數年間ハ地味熟セス隨テ收利ヲ得ル僅少ナリ故ニ其勞費ノ多寡ト開墾ノ難易トヲ酌量シ年限ヲ定メテ以テ其間本稅ヲ課セサル之ヲ鍬下年期ト云改租調査ニ當テハ嘗テ鍬下年期ヲ約セルモノハ皆其前約ヲ履ミ敢テ改正セス又新ニ開墾セントスルモノハ先ツ其勞費如何ヲ計リ例ニ照シテ鍬下年期ヲ附與セリ今ヤ各地方專ラ農事ヲ奬勵スルノ日ニ際シ其開墾地ノ

數ヲ明瞭ニシ其年期ノ長短ヲ勘査スルハ最モ緊要ノ事項ト爲ス則其全國段別ハ四萬四千三百五町一段四畝七步一合五勺ナリ

第五　地租

舊時各藩其租法ヲ異ニシ加フルニ簿冊紛亂具備スルモノナキヲ以テ全國地租ノ額其詳細ヲ知ル能ハス今姑ラク天保七年ノ調査ニ據レハ其石高三千四十三萬五千二百六石二升七合六勺（琉球ヲ除ク）永高千參百六拾七貫六百七拾文ナリ之ヲ大約平均四ツ物成ト見做シテ其租額ヲ算出スレハ米千二百十七萬四千六百二十九石四斗七升九合トス（永高一貫文ヲ以テ石高一石ニ換フ）而シテ明治四年廢藩立縣ノ後地租ノ全額ヲ算スルニ米千二百五十四萬九千三百五十四石一斗五升三合（大豆其他ノ現品納及ヒ當時ノ價格ヲ以テ米ニ換フ以下之ニ同シ）ニシテ天保年度ノ概算ニ比較スレハ三十七萬四千七百二十四石餘ノ增差ヲ見ル而シテ五年ノ地租ハ千二百十三萬五千百九十五石二斗三升六合ニシテ四年前ニ比較スレハ四十一萬四千百五十八石餘ノ減差ヲ生シ又六年ノ地租ハ千百二十三萬九千七百十二石八斗五升四合ニシテ五年ニ比較スレハ八十九萬五千四百八十二石餘ノ減差ヲ生シ又七年ノ地租ハ千百二十三萬九千七百三十石餘ノ減差ヲ生シ千九百八十二石八斗三升七合ニシテ六年ニ比較スレハ四十九萬三千七百三十石餘ノ減差ヲ生ス而シテ五年ニハ又七年ノ額ヲ四年ノ額ニ比較スレハ百八十萬三千三百七十一石餘ノ減差ヲ生ス而シテ五年ニハ從前無稅ノ市街地ニ沽券稅ヲ發行シ且各地方中間々々天災ニ罹ル上地アルモ凶歉ト稱スヘキ歲ニアラス而シテ此ノ如ク年一年ニ減差ノ巨額ニ至ルハ何ソヤ蓋シ立縣ノ後舊藩封土內從來苛斂ニ苦ムモノ陸續租法ノ改良ヲ請求シ其止ヲ得サルモノハ定免ヲ解キ檢見收租ノ法ト爲セシヨリ巨多ノ減額ヲ見ルニ至ル是偏ニ政體ノ變革ト各地舊稅偏倚ノ甚シキニ起因セリ而シテ地租改正ノ

租額ハ金四千九百四拾六萬貳千九百四拾五圓五拾九錢貳厘之ヲ該時檢査ノ平均米價ニ據リ米ニ換ヘ算スレハ千百八十一萬九千百二石八斗八升九合ニシテ卽チ舊租ノ四年ニ比スレハ七十三萬二百五十一石二斗六升四合ヲ減ス而シテ今改正ノ租金ヲ以テ改正前三箇年平均實收租金五千貳百參拾六萬八千五拾四圓七拾七錢參厘ニ對比スレハ貳百九拾萬五千百九圓拾八錢壹厘ノ減差ヲ生シ又試ニ十年ノ

聖詔ニ由リ改正ノ租金ヲ二箇年半ニ改算スレハ其金額四千百貳拾壹萬九千百參拾九圓貳拾八錢八厘ニシテ之ヲ前三箇年平均實收舊租金ト對比スレハ千百拾四萬八千九百拾五圓四拾八錢五厘ヲ減シ又百分三ノ額ニ比スレハ八百貳拾四萬參千八百六圓參拾錢四厘ヲ減ス而シテ舊慣間法六尺五寸六尺三寸等各種ノ者ハ悉皆六尺ニ改算シ其舊段別ヲ求ムレハ耕宅地鹽田ニテ（山林原野舊慣無段別ノモノ多キヲ以テ省ク）三百二十六萬四百四十三町六段九畝八歩八合二勺八才一絲ニシテ改正段別ノ舊段別ニ增スコト百五十八萬八千百二十三町三段九畝九歩四合四才九絲此增加ハ舊慣歩積ノ伸縮常ナキニ由ルノミナラス隱田切添切開ノ租籍ヲ脫スルモノ最モ多キニ由ル故ニ改正法ニ於テハ其租率ヲ減スト雖モ其段別ノ增加ニ隨ヒ稅額モ亦增サヽルヲ得サルノ理アリテ却テ貳百九拾萬圓ノ減差ヲ生スルモノハ舊稅厚歛ノ部夥多ニシテ薄收ノ部分僅少ナルニ由ル又其舊稅輕重ノ部分ヲ大別スレハ西南地方ニ重クシテ減差ヲ生スルモノ多ク東北諸縣ニ輕クシテ增租ニ至ルモノ多シ其詳細ハ左表ニ揭ク

改正地租表

凡例

一 本表ハ全國（北海道、沖繩縣、伊豆諸島、小笠原島ハ除ク）地租改正ニ由リ査定スル所ノ段別地租ノ增減比較ヲ示スモノナリ

一 地所ノ名稱ヲ付スル各地異同アリ枚擧スヘカラス今其種類ニ因テ之レヲ大別スル左ノ如シ

民有地

第一種

田

類外田 未定田 流作田 沼田

畑

類外畑 未定畑 燒畑 流作畑 山畑 切換畑

宅地 堂宇敷 社寺境內 水車敷地

市街宅地

鹽田 鹽田 製鹽場 鹽溜 未定鹽濱

山林 崖地 竹藪 竹木雜生地 柴草萱地 櫨山 石山

原野 秣場 柴地 蒲生地 萱野 牧場 柴生地 草生地 野地

溫泉 溫泉引入敷地 冷泉

池沼 堀 蓮池 養魚池 井戶敷 水車溝

雜地 網干場 布晒場 鰯干場 物置場 濱地 土揚場 舟揚場 稻干場 荷揚場 海岸砂地 造船場 土取場 流木置場

荒地

開墾鍬下地

第二種

鄕村社地

潰地 堤敷 溜池敷 道敷 川敷 井溝敷 用惡水路 堀敷

墳墓地 火葬場 斃馬捨場 塚

一 地租ハ皆地價百分ノ三ナルモノヲ揭記スト雖獨リ熊本縣ノ天草郡及熊本人吉ノ市街宅地

ハ十年ヨリ鹿兒島縣ハ十二年ヨリ施行セルヲ以テ百分三稅ハ實施セシモノニアラス唯比較ニ便センカ爲メ假ニ之ヲ記入ス

一　明治十年減租ノ勅アリ地價ノ百分ノ二個半ヲ以テ地租トセラル故ニ該率ニ換算セシモノヲ副表ニ示ス

一　三重縣、廣島縣ノ山林原野改正ハ未タ全ク整頓ニ至ラスト雖モ地價額等其目的ヲ內申セシニ由リ今之ヲ掲ク大阪府、和歌山、福井二縣ノ山林原野ハ未タ整頓ニ至ラス其他境界及ヒ所有ヲ爭フアリテ一部分ヲ餘スモノハ表中皆姑ク之ヲ除ク其山野ノ改正未整ノ府縣ニシテ山林ノ段別等ヲ記入シアルハ耕宅地中ニ胚胎シ又ハ連續地ニシテ同時ニ整理シタルモノヲ掲載セシナリ

一　山形縣ノ鄉村社地熊本縣ノ濱地墳墓地ハ卽今調查中ナルヲ以テ旣ニ整頓セシ在來所轄ノ額ノミヲ掲ク

一　舊段別ハ各種ノ區分大率明晰ナラス今大別セシ地稱ニ照合セシメント欲スルモ得ヘカラス故ニ皆其舊ニ依リ其合額ヲ擧ク舊稅金ニ於ルモ亦然リ

一　舊貢金ハ各府縣改租ノ前三箇年間實收金額ヲ掲記ス

一　舊段別ハ檢地ノ間竿六尺三寸、六尺五寸等ノ區々ナルアリ新段別ニ比較スルニ便ナラス今假ニ皆六尺竿ノ數ニ換ヘ之ヲ掲ク

地種	地目	改正段別	地價	地租	舊段別	舊地租	段別比較	地租比較
	田	二、六一四、一一六 町	一、二一八、五三五、九二五 円	三六、五五六、〇八二 円				
民有地	類外田	一、六五三六	一、〇九、三五五	四八、二八〇				
	畑	一、六九八、九九六	二六四、〇七四、一五三	七、九二二、二二八				
	類外畑	一九三、一八九	三、二一三、一三六	五二、一八〇、五六八				
	宅地	三二九、六九二	一〇三、九六五、七〇七	三、一一八、九七三				
	市街宅地	一九、〇三九	三〇、六〇六、三六八	九一八、一九一				
	鹽田	六、九九五	二、〇三五、四七六	六一、〇九四				
	小計	四、八四八、五六七	一、六二四、〇四〇、一二三	四八、七二一、二二三				
第一種	山林	六、六九四、八四八	二二、五七〇、三八〇	六七七、一六六				
	原野	七七〇、四三一	一、九八三、七七六	五九、五〇九				
	雜地	四、一九二	五二、七四〇	一、五八二、九八八				
	池沼	五、九五四	六三、四二三	一、九〇二				
	溫泉	二	五四、〇三三	一、六二二				
	荒地	一一三、九一〇						
	開墾鍬下	四四、三〇五						
	小計	七、六三三、六一四	二四、七二四、三五三	七四一、七三一				
	合計	一二、四八二、一八一	一、六四八、七六四、四七六	四九、四六二、九四五				
	鄉村社地	八二九						

地種	地目	改正段別	地價	地租	舊段別	舊地租	段別比較	地租比較
	田	二、六一四、一一六 町	一、二一八、五三五、九二五 円	三六、五五六、〇八二 円				
民有地	類外田	一、六五三六	一、〇九、三五五	四八、二八〇				
	畑	一、六九八、九九六	二六四、〇七四、一五三	七、九二二、二二八				
	類外畑	一九三、一八九	三、二一三、一三六	五二、一八〇、五六八				
	宅地	三二九、六九二	一〇三、九六五、七〇七	三、一一八、九七三				
	市街宅地	一九、〇三九	三〇、六〇六、三六八	九一八、一九一				
	鹽田	六、九九五	二、〇三五、四七六	六一、〇九四				
	小計	四、八四八、五六七	一、六二四、〇四〇、一二三	四八、七二一、二二三				
第一種	山林	六、六九四、八四八	二二、五七〇、三八〇	六七七、一六六				
	原野	七七〇、四三一	一、九八三、七七六	五九、五〇九				
	雜地	四、一九二	五二、七四〇	一、五八二、九八八				
	池沼	五、九五四	六三、四二三	一、九〇二				
	溫泉	二	五四、〇三三	一、六二二				
	荒地	一一三、九一〇						
	開墾鍬下	四四、三〇五						
	小計	七、六三三、六一四	二四、七二四、三五三	七四一、七三一				
	合計	一二、四八二、一八一	一、六四八、七六四、四七六	四九、四六二、九四五	一、六四八、七六四、四七六	四九、四六二、九四五	三、九一六、〇七六	三、九一六、〇七六
	鄉村社地	八二九						
	荒地	一一三、九一〇			一八七、七三九	四七八	七三、八二八	四七八
	溫泉	二	五四、〇三三	一、六二二				
第一種	池沼	五、九五四	六三、四二三	一、九〇二				
	雜地	四、一九二	五二、七四〇	一、五八二、九八八	四五二、九八八	一六一、一六九	七、〇二二、四〇九	五八〇、五六二
	原野	七七〇、四三一	一、九八三、七七六	五九、五〇九				
	山林	六、六九四、八四八	二二、五七〇、三八〇	六七七、一六六				
	開墾鍬下	四四、三〇五			一四、九〇五		二九、三九九	
	小計	七、六三三、六一四	二四、七二四、三五三	七四一、七三一	六五五、六三三	一六一、六四七	六、九七七、九八〇	五八〇、〇八三
	合計	一二、四八二、一八一	一、六四八、七六四、四七六	四九、四六二、九四五	三、九一六、〇七六	五二、三六八、〇五四	八、五六六、一〇四△	二、九〇五、一〇九
	鄉村社地	八二九						

府縣名	地目	改正段別	地價金	稅率百分ノ三地租	舊段別	舊地租
東京	田畑宅地	三五、五一四町	二一、五〇五、〇一四円	六四五、一五〇円	三〇、九四二町	三六〇、〇七五円
	山林原野其他	五、一一七	一〇六、二九九	三、一八八	七九一	三二二
京都	同	五八、六五一	二九、七九七、八五一	八九三、九三五	四八、六八七	九七五、九五三
	同	一一六、八八八	六二九、九四二	一八、八九八	四、〇〇六	八、九六八
大阪	同	一一八、八二三	八三、三六〇、五〇三	二、五〇〇、八一五	九三、七六六	二、七四三、八四五
	同	三、二二四	八〇、五一三	二、四一五	二、四六三	八六
神奈川	同	一一〇、一二二	二九、四〇七、一三七	八八二、二一四	八九、二九四	八二八、四五五
	同	一四九、一四四	七六七、八二二	二三、〇三四	二四、一二八	五、八〇三
兵庫	同	一四〇、八一四	八〇、二二〇、四四七	二、四〇六、六一三	一〇三、三七五	二、七八三、九六六
	同	四〇四、五一四	一、一三六、八三〇	三四、一〇四	一八、一一一	一六、二四七

(圓及町以下ハ略ス)　△ハ減ノ印

總計						
同第二種	潰地	四四、七五六町	円	円	町	円
	墳墓地	一六、〇〇二				
	合計	六一、五八八				
總計		一二、五四三、七六九	一、六四八、七六四、四七六	四九、四六二、九四五	三、九一六、〇七六	五二、三六八、〇五四
						八、六二七、六九二
						△ 二、九〇五、一〇九

府縣名	地目	改正段別	地價金	稅率百分ノ三地租	舊段別	舊地租
長崎	同	一五八、八〇七	四七、〇七七、二一四	一、四一二、三一六	一七、二九七	一、八二六、六五一
	同	一四三、五一四	八一八、五九九	二四、五五七	八、九三一	二、二二七
新潟	同	二四三、七二六	六四、二六五、四一一	一、九二七、九六二	一五七、〇六一	一、六八九、二七四
	同	二二二、〇二三	一、一三五、九二五	三四、〇七七	一一、二八三	三、一三三
埼玉	同	一八〇、四二九	五六、五九四、二一五	一、六九七、八二六	一五五、一六一	一、三九六、四八六
	同	八五、五七九	九二九、三五四	二七、八八〇	二、九五六	三、二一八
千葉	同	一八四、九六〇	五〇、二九一、八二二	一、五〇八、七五四	一三五、六七六	一、八〇二、〇五六
	同	一三六、九〇四	八四六、八五四	二五、四〇五	二四、五六二	六、五四六
茨城	同	一八七、五二五	四三、九一五、五一三	一、三一七、四六五	一五〇、五八七	一、三八七、三七三
	同	一三二、九五〇	六三二、一八七	一八、九六五	八、七〇五	四、一四四
群馬	同	一〇七、九二九	三〇、二一四、九六九	九〇六、四四九	八八、八五四	八二三、八二六
	同	一二五、九八八	一、一二九、三四二	三三、八八〇	五、四六二	二、一二四
栃木	同	一一四、八八九	二九、五八一、五二七	八八七、四四五	九九、八五七	八一二、三五二
	同	一七八、九五二	八六四、一七九	二五、九二五	一三、八四九	二、一二六
三重	同	一〇四、九四三	五六、七一〇、二九四	一、七〇一、三〇八	六五、九〇二	一、八九九、二〇〇
	同	二三五、五八九	五五八、四四一	一六、七五三	四、一一八	九、二五二
靜岡	同	一一二、四九四	四六、五一〇、六八〇	一、三九五、三二〇	七一、一二三	一、三〇八、六四八

| | | |

| | | |